新 渡 戸 カレッジ
2023 年度 活動報告書

北海道大学 新渡戸カレッジ

目　次

1　副校長メッセージ …… 1

2　沿革 …… 2

3　組織図 …… 3

4　運営体制 …… 4

5　学部教育コース、大学院教育コース概要 …… 13

6　行事一覧 …… 15

7　授業概要、特別講演会、行事概要

（１）学部教育コース【授業概要】 …… 16

（２）大学院教育コース【授業概要】 …… 37

（３）特別講演会（ポスター） …… 76

（４）行事概要（北大時報） …… 81

8　入校者数、修了者数、称号授与者数、部局別在籍者数 …… 88

9　奨学金支給状況 …… 93

10　留学の状況 …… 94

11　ＦＤ報告 …… 95

12　新渡戸ポートフォリオの活用 …… 98

13　会議の開催状況 …… 99

14　広報資料一覧 …… 104

1　副校長メッセージ

巻 頭 言

新渡戸カレッジ副校長　　弛　和順

新渡戸カレッジは、北海道大学における学部横断的な特別教育プログラムとして、平成25年（2013）に創設されました。平成27年（2015）には、大学院生を対象とした新渡戸スクールが設置され、平成31年（2019）には、その二つのプログラムを統合し、全体を新渡戸カレッジと称するとともに、学部教育コースと大学院教育コースを置き、両者の一体化を図りつつ、現在に至ります。

新渡戸カレッジの名称は、いうまでもなく、本学の前身である札幌農学校、その第二期生の新渡戸稲造に由来します。新渡戸は、教育研究面で数多くの業績を残しただけでなく、日本の文化、日本人の精神を広く世界に向けて、英語で発信した『武士道』を著述するとともに、国際連盟の初代事務次長として、世界平和の実現を目指して尽力するなど、近代日本きっての国際人でもありました。

こうした新渡戸の真摯な活動に範を求め、その精神に学びながら、幅広い分野にわたって、高い精神性と多文化理解、コミュニケーション力を身につけ、将来、グローバル世界で活躍できるリーダーを育成することが、新渡戸カレッジの目標です。

これまで、新渡戸カレッジでは、従来の教育方法を参考にしつつも、その手法にとらわれることなく、日々試行を重ねながら、新たな授業や行事などの教育活動に取り組んできました。そうした具体的な活動については、昨年度、はじめて報告書という形で公表しました。

本書は、それを継承するものであり、今後もこうした体をとりながら、各年度の活動内容を報告していきたいと考えています。ご高覧いただき、お気づきの点など、ご批正たまわれば、幸甚です。また、引き続き、新渡戸カレッジの諸活動にご理解とご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

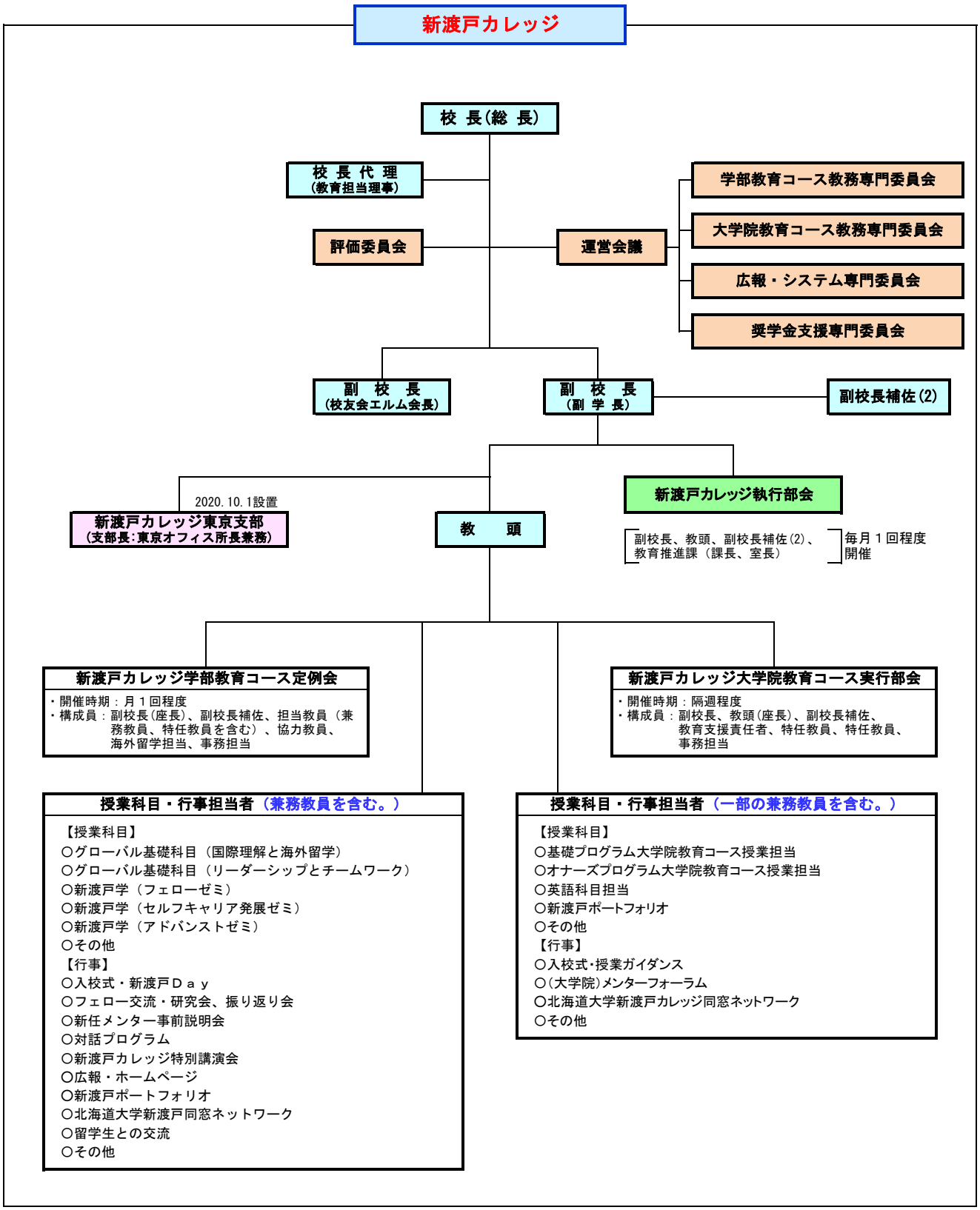
2　新渡戸カレッジの沿革

平成 25 年（2013）4 月	北海道大学に学部特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」を開校
平成 27 年（2015）4 月	北海道大学に大学院特別教育プログラム「新渡戸スクール」を開校
平成 28 年（2016）3 月	学部特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」から第 1 期生 15 名が修了
平成 29 年（2017）4 月	学部特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」を「基礎プログラム」と「オナーズプログラム」の 2 段階のプログラムに変更 大学院特別教育プログラム「新渡戸スクール」に博士課程学生対象の上級プログラムを開設
平成 31 年（2019）4 月	学部特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」と大学院特別教育プログラム「新渡戸スクール」を統合し、新生「新渡戸カレッジ」（学部教育コース・大学院教育コース）を設立

令和 5 年 5 月 13 日（土）新渡戸カレッジ（学部教育コース）入校式 校長挨拶

3　新渡戸カレッジ組織図

令和５年４月１日現在



【新渡戸カレッジ役職者一覧】

役 職 名	氏　　名	所　属・職　名
校長	寶　金　清　博	総長
校長代理	山　口　淳　二	理事・副学長
副校長	弛　　和　順	副学長・文学研究院教授
副校長	杉　江　和　男	北海道大学校友会エルム会長
教頭	小　田　　研	理学研究院教授
副校長補佐	谷　　博　文	工学研究院准教授

4　新渡戸カレッジ運営体制（令和５年４月１日現在）

（１）役職員

No.	氏　　名	役 職 ・ 所 属 等
1	寳　金　清　博	校長・総長
2	山　口　淳　二	校長代理・理事・副学長（教育担当）
3	弛　　和　順	副校長・副学長・文学研究院教授
4	杉　江　和　男	副校長・校友会エルム会長、招へい教員（客員教授）
5	小　田　　研	教頭・理学研究院教授
6	谷　　博　文	副校長補佐・工学研究院准教授

（２）運営会議委員

No.	職　　名	氏　　名	任　期　等
1	校長（総長）：議長	寳　金　清　博	R2.10.1～
2	校長代理（総長が指名する理事）	山　口　淳　二	R4.4.1～R6.3.31
3	新渡戸カレッジ副校長	弛　　和　順	R4.4.1～R6.3.31
4	新渡戸カレッジ副校長（同窓生）	杉　江　和　男	R 元.6.15～
5	新渡戸カレッジ教頭	小　田　　研	R2.10.1～R6.3.31
6	文学部長・文学院長	藤　田　　健	R4.4.1～R6.3.31
7	教育学部長・教育学院長	横　井　敏　郎	R4.4.1～R6.3.31
8	法学部長・法学研究科長	尾　﨑　一　郎	R4.12.15～R6.12.14
9	経済学部長・経済学院長	久保田　　肇	R4.4.1～R6.3.31
10	理学部長	網　塚　　浩	R5.4.1～R7.3.31
11	医学部長・医学院長	畠　山　鎮　次	R5.4.1～R7.3.31
12	歯学部長・歯学院長	網　塚　憲　生	R4.4.1～R6.3.31
13	薬学部長	木　原　章　雄	R5.4.1～R7.3.31
14	工学部長・工学院長	幅　﨑　浩　樹	R5.4.1～R7.3.31
15	農学部長・農学院長	野　口　　伸	R5.4.1～R7.3.31
16	獣医学部長	滝　口　満　喜	R5.4.1～R7.3.31
17	水産学部長・水産科学院長	都　木　靖　彰	R4.4.1～R6.3.31
18	環境科学院長	谷　本　陽　一	R3.10.1～R7.9.30
19	理学院長	永　井　隆　哉	R5.4.1～R7.3.31
20	生命科学院長	佐　藤　美　洋	R5.4.1～R7.3.31
21	国際広報メディア･観光学院長	奥　　聡	R5.4.1～R7.3.31
22	保健科学院長	矢　野　理　香	R5.4.1～R7.3.31

23	工学院長	泉　　典　洋	R5.4.1～R7.3.31
24	総合化学院長	佐　田　和　己	R4.4.1～R6.3.31
25	獣医学院長	石　塚　真由美	R5.4.1～R7.3.31
26	医理工学院長	久　下　裕　司	R5.4.1～R7.3.31
27	国際感染症学院長	堀　内　基　広	R5.4.1～R7.3.31
28	国際食資源学院長	曾　根　輝　雄	R5.4.1～R7.3.31
29	情報科学院長	長谷山　美　紀	R4.4.1～R6.3.31
30	公共政策学教育部長	空　井　　護	R5.4.1～R7.3.31
31	高等教育推進機構全学教育部長	野　村　益　寛	R5.4.1～
32	高等教育推進機構総合教育部長	鈴　木　久　男	R2.10.20～
33	高等教育推進機構国際教育研究部長	鄭　　恵　先	R5.4.1～
34	同窓生	高　杉　重　夫	R3.4.1～R5.3.31
35	同窓生	石　川　裕　一	R5.4.1～R7.3.31
36	同窓生	戸　田　守　道	R5.4.1～R7.3.31
37	学務部長	平　田　公　明	R4.4.1～
38	その他総長が認めた者	谷　　博　文	R5.4.1～R7.3.31

（３）学部教育コース教務専門委員会

No.	所　　属	役　　職	氏　　名	任　期　等
1	新渡戸カレッジ	副校長	弛　　和　順	職指定(委員長)
2	新渡戸カレッジ	教頭	小　田　　研	職指定
3	外国語教育センター	センター長	濵　井　祐三子	職指定
4	文学部	教授	加　藤　重　広	R4.4.1～R6.3.31
5	教育学部	教授	関　　あ ゆ み	R4.4.1～R6.3.31
6	法学部	教授	野　田　耕　志	R4.4.1～R6.3.31
7	経済学部	准教授	宇　田　忠　司	R5.4.1～R7.3.31
8	理学部	教授	鈴　木　孝　紀	R5.4.1～R7.3.31
9	医学部	教授	髙　橋　　誠	R4.4.1～R6.3.31
10	歯学部	教授	山　崎　　裕	R5.4.1～R7.3.31
11	薬学部	講師	松　田　研　一	R4.4.1～R6.3.31
12	工学部	教授	森　　太　郎	R4.4.1～R6.3.31
13	農学部	教授	小　関　成　樹	R5.4.1～R7.3.31
14	獣医学部	教授	苅　和　宏　明	R4.4.1～R6.3.31
15	水産学部	准教授	BOWER John Richard	R5.4.1～R7.3.31

16	高等教育推進機構	全学教育部長	野　村　益　寛	職指定
17	高等教育推進機構	国際教育研究部長	鄭　　惠　先	職指定
18	学務部	教育推進課長	土　本　光　一	職指定
19	学務部	国際交流課長	菅　原　暢　廣	職指定
20	医学部保健学科	教授	鷲　見　尚　己	R5.3.1～R6.3.31

（４）大学院教育コース教務専門委員会

No.	所　　属	職　　名	氏　　名	任　期　等
1	新渡戸カレッジ	副校長	弛　　和　順	職指定
2	新渡戸カレッジ	教頭	小　田　　研	職指定(委員長)
3	法学研究科	教授	米　田　雅　宏	R5.4.1～R7.3.31
4	水産科学院	教授	山　﨑　浩　司	R5.4.1～R7.3.31
5	環境科学院	准教授	亀　山　宗　彦	R5.4.1～R7.3.31
6	理学院	教授	根　本　幸　児	R5.4.1～R7.3.31
7	農学院	教授	近　藤　　巧	R5.4.1～R7.3.31
8	生命科学院	教授	小　川　宏　人	R5.4.1～R7.3.31
9	教育学院	教授	大　野　栄　三	R5.4.1～R7.3.31
10	国際広報メディア・観光学院	准教授	原　田　真　見	R5.4.1～R7.3.31
11	保健科学院	教授	池　田　敦　子	R5.4.1～R7.3.31
12	工学院	教授	宮　森　保　紀	R5.4.1～R7.3.31
13	総合化学院	教授	向　井　　紳	R5.4.1～R7.3.31
14	経済学院	准教授	早　川　　仁	R5.4.1～R7.3.31
15	医学院	教授	藤　山　文　乃	R5.4.1～R7.3.31
16	医理工学院	教授	石　川　正　純	R5.4.1～R7.3.31
17	国際食資源学院	准教授	加　藤　知　道	R5.4.1～R7.3.31
18	文学院	教授	李　　連　珠	R5.4.1～R7.3.31
19	情報科学院	教授	浅　井　哲　也	R5.4.1～R7.3.31
20	公共政策学教育部	教授	齋　藤　久　光	R5.4.1～R7.3.31
21	学務部教育推進課	課長	土　本　光　一	職指定
22	新渡戸カレッジ	副校長補佐	谷　　博　文	R4.4.1～R6.3.31

（5）広報・システム専門委員会

No.	所　　属・職　　名	氏　　名	任　期　等
1	新渡戸カレッジ副校長	弛　　和　順	職指定
2	新渡戸カレッジ教頭	小　田　　研	職指定（委員長）
3	新渡戸カレッジ副校長補佐	谷　　博　文	R5.4.1～R7.3.31
4	高等教育推進機構准教授	野　澤　俊　介	R5.4.1～R7.3.31
5	高等教育推進機構特任准教授	内　田　治　子	R5.4.1～R6.3.31
7	高等教育推進機構講師	山　畑　倫　志	R5.4.1～R7.3.31
8	学務部教育推進課長	土　本　光　一	職指定

（6）奨学金支援専門委員会

No.	所　属・職　名	氏　　名	任　期　等
1	新渡戸カレッジ副校長	弛　　和　順	職指定（委員長）
2	新渡戸カレッジ教頭	小　田　　研	職指定
3	文学部教授	加　藤　重　広	学部教育コース教務委員会委員
4	水産学部准教授	BOWER John Richard	学部教育コース教務委員会委員
5	薬学部講師	松　田　研　一	学部教育コース教務委員会委員
6	国際広報メディア・観光学院准教授	原　田　真　見	大学院教育コース教務委員会委員
7	高等教育推進機構国際教育研究部長	鄭　　惠　先	職指定
8	学務部教育推進課長	土　本　光　一	職指定
9	学務部国際交流課長	菅　原　暢　廣	職指定

（7）評価委員会

No.	所　　属	役　職　名	氏　　名	任　期　等
1	学外委員	フェロー	島　田　元　生	R4.4.1～R6.3.31
2	学外委員	フェロー	佐々木　亮　子	R4.4.1～R6.3.31
3	学外委員	フェロー・メンター	萩　野　　泉	R4.4.1～R6.3.31
4	学外委員	メンター	佐　伯　百合子	R4.4.1～R6.3.31
5	新渡戸カレッジ	副校長	弛　　和　順	職指定
6	新渡戸カレッジ	教頭	小　田　　研	職指定
7	高等教育推進機構	国際教育研究部長	鄭　　惠　先	職指定
8	工学研究院（新渡戸カレッジ）	准教授（副校長補佐）	谷　　博　文	R4.4.1～R6.3.31

（8）フェロー

No.	氏　　名	担当	現職（元職を含む）	卒年等
1	井上　修平	対話、国際、G 基礎	元双日(株)執行役員・顧問　元シンフォニアテクノロジー(株)取締役　北海道大学参与　招へい教員（客員教授）	S50 工
2	上田　英樹	CDS（統括）	日本情報通信株式会社 取締役 上席執行役員 エンタープライズ第一事業本部長	S63 教
3	大塚　榮子	対話	北海道大学名誉教授　産業技術総合研究所名誉フェロー	S38 薬博
4	志済　聡子	対話	中外製薬(株)　上席執行役員 デジタルトランスフォーメーションユニット長	S61 法
5	石川　裕一	対話/ F ｾﾞﾐ	(株)ぷらう代表取締役社長 ジョンソンコントロールズ(株)取締役	S54 法
6	伊藤　　慎	CDS（統括） F ｾﾞﾐ	アルジェニクスジャパン株式会社 神経疾患領域 マーケティング部門 アソシエイトディレクター	H15 薬修
7	萱野　　聡	対話	(株)サクセスボード代表取締役社長	S62 法
8	島田　元生	対話	(株)ビスキャス非常勤顧問 北海道大学招へい教員（客員教授）	S47 工
9	多田　幸雄	F ｾﾞﾐ (統括)	(株)双日総合研究所 相談役 長崎大学経済学部客員教授	S51 農
10	大友　俊彦	F ｾﾞﾐ	中外製薬(株) オンコロジーライフサイクルマネジメント部長	H4 獣
11	渋江　隆雄	対話	元三井金属鉱業(株) 執行役員	S50 工
12	廣重　勝彦	F ｾﾞﾐ	北海道大学東京オフィス副所長（ﾌｧﾝﾄﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞﾏﾈｰｼﾞｬｰ） 一般社団法人日本社債調査センター 代表理事	S57 法
13	佐々木　亮子	対話	(株)アークス 取締役、元北海道副知事	S47 法
14	萩野　　泉	F ｾﾞﾐ	(株)電通クロスブレイン データユーティリゼーション 1 部 部長	H22 薬 H27 博・保健科学
15	森　　順子	CDS/ 対話	(株)ハッピーアロー代表取締役	H28 教修
16	藤田　信良	CDS	(株)セレッソ大阪 取締役相談役	S48 水産
17	三村　直己	CDS	フリーコンサルタント	S57 理
18	日野　峰子	CDS	会議通訳者　アイ･エス･エス･インスティテュート東京校通訳者養成科講師・顧問	S59 文
19	石川　めぐみ	CDS、 F ｾﾞﾐ	ＣＪコミュニケーション代表	H2 文
20	村山　和佳	A ｾﾞﾐ	(株)ズコーシャ 技術部設計課長	H7 農

（注）「F ｾﾞﾐ」＝ﾌｪﾛｰｾﾞﾐ、「CDS」＝ｾﾙﾌｷｬﾘｱ発展ｾﾞﾐ、「対話」＝対話ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ、
「国際」＝国際ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ、「G 基礎」＝ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ基礎科目

（9）メンター

No.	氏　　名	現職（元職を含む）	卒年等
1	中原　　拓	メタジェンセラピューティクス(株)　代表取締役 CEO	理・D
2	佐伯　百合子	(株)資生堂　研究員	生命・M
3	藤井　幸大	サンマルコ食品(株)　常務取締役マーケティング本部長 (兼)営業本部長	ｶﾘﾌｫﾙﾆｱ州ｱｶﾃﾞﾐｰｵﾌﾞｱｰﾄ大学・B
4	和田　義明	衆議院議員（現：内閣府大臣政務官）	早稲田・B
5	中島　　徹	15th Rock Ventures/Spirete, Inc. ounder& General Partner/ Representiative Director	工・M
6	石川　憲一	スリーエムジャパン(株)　取締役　常務執行役員	工・M
7	Eric Ofosu-Twum	Hitachi Ltd　Researcher	総化・D
8	萩野　　泉	(株)電通クロスブレイン　リードマーケティングデータアナリスト	保健・D
9	Abhijeet Ravankar	Kitami Institute of Technology　Assistant Professor	工・D
10	黒田　垂歩	レオファーマ(株)　LEO Science & Tech Hub　Senior Director	薬・D
11	前田　美紅	(株)ニトリ　店舗運営部 担当者	文・M

令和 5 年 11 月 3 日（金）新渡戸カレッジ（大学院教育コース）入校式校長挨拶

（10）執行部会構成員

No.	氏　　名	職　　名
1	弛　　和　順	副校長、副学長、文学研究院教授
2	小　田　　研	教頭、理学研究院教授
3	谷　　博　文	副校長補佐、工学研究院准教授
4	土　本　光　一	教育推進課長
5	佐　藤　浩　司	教育推進課 新渡戸カレッジ推進事務室長
6	石　川　由香里	教育推進課 新渡戸カレッジ推進事務室係長

（11）学部定例会構成員

No.	氏　　名	担当（所属等）
1	弛　　和　順	副校長（副学長・大学院文学研究院教授）
2	佐々木　　啓	全学教育部長（大学院文学研究院教授）
3	亀　野　　淳	全学教育科目（大学と社会）・学部教育コース キャリア支援・行事企画（キャリアセンター長 高等教育推進機構 教授）
4	LA FAY Michelle	学部教育コース 授業「国際交流科目」実施・行事企画・広報（大学院文学研究院教授）
5	野　澤　俊　介	学部教育コース 授業「新渡戸学（フェローゼミ）」担当（高等教育推進機構 准教授）
6	江　本　理　恵	学部教育コース 新渡戸ポートフォリオ（高等教育推進機構 准教授）
7	内　田　治　子	学部教育コース 対話プログラム・広報（高等教育推進機構 特任准教授）
8	山　畑　倫　志	学部教育コース 授業「新渡戸学（フェローゼミ）」担当（高等教育推進機構 講師）
9	畑　中　貴　美	学部教育コース 授業「新渡戸学（フェローゼミ）」実施・行事企画（高等教育推進機構 特任講師）
10	肖　　蘭	学部教育コース 授業「新渡戸学（セルフキャリア発展ゼミ）」実施・海外留学（高等教育推進機構 特任講師）
11	シュルーター 智子	学部教育コース 授業「グローバル基礎科目」・行事企画（高等教育推進機構 特任助教）
12	菅　原　暢　廣	学務部国際交流課長
13	内　田　めぐみ	学務部国際交流課長補佐
14	佐　藤　浩　司	学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室 室長
15	石　川　由香里	学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室 係長
16	日　置　浩　一	学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室 新渡戸カレッジ担当
17	石　川　智　子	学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室 新渡戸カレッジ担当

（12）大学院実行部会構成員

No.	氏　　名	所属等
1	弛　　和　順	副校長（副学長・大学院文学研究院教授）
2	小　田　　研	教頭（理学研究院教授）
3	谷　　博　文	副校長補佐（工学研究院准教授）
4	LOMAEVA Marina	特任助教（高等教育推進機構新渡戸カレッジ教育研究部）
5	WHITFIELD Dale Le	特任助教（高等教育推進機構新渡戸カレッジ教育研究部）
6	佐　藤　浩　司	学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室（室長）
7	石　川　由香里	学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室（係長）
8	五十嵐　麻　里	学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室（特定専門職員）
9	髙　橋　悦　子	学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室（事務補佐員）

（13）大学院教育コース授業担当教員

No.	氏　　名	ターム	役 職 ・ 所 属 等
1	大学院基礎科目Ⅰ	春	LOMAEVA Marina 新渡戸カレッジ教育研究部特任助教
			WHITFIELD Dale Lee 新渡戸カレッジ教育研究部特任助教
2	大学院基礎科目Ⅱ	夏	橋　本　勝　文　工学研究院准教授
			横　田　義　史　経済学研究院助教
3	大学院基礎科目Ⅰ	秋	LOMAEVA Marina 新渡戸カレッジ教育研究部特任助教
			WHITFIELD Dale Lee 新渡戸カレッジ教育研究部特任助教
4	大学院基礎科目Ⅱ	冬	三　浦　篤　志　理学研究院准教授
5	大学院発展科目Ⅰ	春	HAZUCHA BRANISLAV　法学研究科教授
			EDELHEIM JOHAN RICHARD　ﾒﾃﾞｨｱ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ研究院 教授
6	大学院発展科目Ⅱ	夏	伊　藤　秀　臣　理学研究院准教授
7	大学院発展科目Ⅰ	秋	BOMME GOWDA SIDDABASAVE GOWDA　保健科学研究院 准教授
8	大学院発展科目Ⅱ	冬	高　島　弘　幸　保健科学研究院 准教授

（14）学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室

No.	氏　　名	職　　名
1	土　本　光　一	教育推進課長
2	芳　岡　　洋	教育推進課課長補佐
3	佐　藤　浩　司	事務室長
4	日　置　浩　一	新渡戸カレッジ(学部)担当 特定専門職員
5	石　川　智　子	新渡戸カレッジ(学部)担当 特定専門職員
6	五十嵐　侑　美	新渡戸カレッジ(学部)担当 事務補佐員（～R5.12.31）
7	谷地元　志　織	新渡戸カレッジ(学部)担当 事務補佐員（R6.2.15～）
8	石　川　由香里	新渡戸カレッジ(大学院)担当係長
9	五十嵐　麻　里	新渡戸カレッジ(大学院)担当特定専門職員
10	髙　橋　悦　子	新渡戸カレッジ(大学院)担当 事務補佐員

令和 5 年 7 月 25 日　新渡戸カレッジ特別講演会　寳金校長

5　新渡戸カレッジ学部教育コース及び大学院教育コースの概要

（1）学部教育コース

新渡戸カレッジの学部教育コースは、本学の四つの基本理念（フロンティア精神、国際性の涵養、全人教育、実学の重視）の下、新渡戸稲造の精神に基づきながら、各学部の専門教育において高い専門性を修得するとともに、学部横断的な特別教育プログラムを通して、以下に記す力を身につけ、それらを発揮できる人材を育成することを目標としている。

- 自分に対する力（コミュニケーションツールとしての英語力、さまざまな文化的・社会的背景に根ざしたアイデンティティなど）
- 他人に対する力（グローバル社会で必要とされるリーダーシップ、チームワーク力など）
- 社会に対する力（異なる文化状況下における問題発見力・課題解決力、社会的な責任と倫理）

また、国際社会で活動するリーダーに必要な基本的スキルセットとマインドセットを育成する。

基本スキルセット	マインドセット
・専門知	・責任感
・外国語運用能力	・情熱
・情報リテラシー	・リーダーシップ
・プレゼンテーション力	・困難に立ち向かう勇気
・ディベート力	・謙虚

新渡戸カレッジでは、この目標とする人材像に求められる具体的な能力基準を定め、当該能力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に国際的に通用する新渡戸カレッジの修了証を授与する。

（２）大学院教育コース

新渡戸カレッジの大学院教育コースは、北海道大学のすべての修士課程及び専門職学位課程に在籍する学生を対象に、創造的・批判的思考能力やリーダーシップ、課題解決・問題発見能力を涵養することを目的にした特別教育プログラムである。

大学院教育コースの目的は、「多様な社会的・文化的背景を有する人々とチームを形成し、グローバル社会のなかで生じるさまざまな問題を予測・発見・解決し、新たな社会的価値の創造に貢献する、高度な専門性と、専門家としての崇高な倫理観を持った人材」を育成することである。この人材に求められるのは、それぞれの専攻で修得する高度な専門性に加えて、

1　その専門性を、直面する問題に即して、さらに高度化し、アップデートし続ける力（能力更新力）
2　その力を一つのチームに集結し、問題解決をもたらす力（組織形成力）
3　協働の成果を社会に還元しつつ、社会的価値を創造し、必要な社会変革をもたらす力（社会還元力）

が必要となる。さらに、こうした力の行使は、専門家としての倫理観（専門職倫理）に裏打ちされていなければならない。大学院教育コースは大学院課程で学んだすべてのグローバル人材がこの様な普遍的能力を有するべきと考え、その能力を「3+1 の力」として定義したものである。

大学院教育コースは、この「3+1 の力」を育成し、様々な知識、技能、経験、価値観を持つメンバーから構成されるチームにおいて、コミュニケーションを十分に取ることで相互理解を深め、課題解決に向けて自身の持つ専門的能力を最大限に生かすことができる人材を養成するものである。

6　令和５(2023)年度新渡戸カレッジ行事一覧

月	学部教育コース行事予定		大学院教育コース行事予定	
	日（曜日）	行　　事	日（曜日）	行　　事
3	2/27(月)～3/3(金)	＜オナーズプログラム入校募集期間＞	13(月)～22(水)	＜オナーズプログラム入校募集期間＞
	1(水)～11(土)	＜基礎プログラム２年次入校募集期間＞	22(水)～4/10(月)	＜基礎プログラム入校募集期間＞
	27(月) 8:30	オナーズプログラム入校合格者発表		
4	3(月)～ 7(金)	基礎プログラム1年次入校募集期間	4(火)	第1回基礎プログラム入校説明会(日本語)
	6(木)	北海道大学入学式	5(水)	第2回基礎プログラム入校説明会(英語)
	7(金) 16:30～	基礎プログラム1年次入校説明会(大講堂)		
	10(月)	第1学期総合教育部授業開始	12(水) 12:00	オナーズプログラム入校者発表
	12(水) 12:00	基礎プログラム仮入校者発表	13(木)～19(水)	オナーズプログラム入校確認書提出期間
	14(金)	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ基礎科目授業開始(5･6講目､ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ)	14(金)～17(月)	英語(TOEIC-IP)試験実施(オンライン)
	15(土)	英語(TOEFL-ITP)試験		
	19(水) 18:15～	オナーズプログラム入校者ガイダンス(対面)	19(水)	オナーズプログラム春ターム授業開始
	20(木) 18:15～	オナーズプログラム入校者ガイダンス(対面)		
	22(土)～23(日)	第1回対話プログラム		
5			2(金) 12:00	基礎プログラム入校者発表
			2(金)～10(水)	基礎プログラム入校確認書提出期間
	12(金) 13:30～14:30	第1回新渡戸カレッジ運営会議(OL)	12(金) 13:30～14:30	第1回新渡戸カレッジ運営会議(OL)
	12(金) 16:00～17:00	第1回新渡戸カレッジフェロー交流･研究会		
			13(土)	基礎プログラム春ターム授業開始(合同)
	13(土) 09:30～10:30	新渡戸カレッジ入校式(学部)	10:35～11:00	新渡戸カレッジ入校式(大学院:春入校)
	27(土)	第1回セルフキャリア発展ゼミ		
6			7(水)	オナーズプログラム春ターム授業終了
			14(水)	オナーズプログラム夏ターム授業開始
			18(日)	第1回メンターフォーラム
				基礎プログラム春ターム授業終了
	24(土)・25(日)	第2回セルフキャリア発展ゼミ（深川合宿）	20(火)	基礎プログラム夏ターム授業開始
7	8(土) ～9(日)	第2回対話プログラム		
			27(木)	基礎プログラム夏ターム授業終了
8	7(月)～10.1(金)	総合教育部夏季休業	2(水)	オナーズプログラム夏ターム授業終了
9			12(火)	春・夏ターム成績公開
			13(水)	＜基礎プログラム･オナーズプログラム入校募集開始＞
			19(火)	＜オナーズプログラム応募受付終了＞
			20(水)	新渡戸カレッジ（大学院教育コース）修了式(9月修了)
	29(金)	第2回新渡戸カレッジ運営会議(OL)	29(金)	第2回新渡戸カレッジ運営会議(OL)
10	2(月)	第2学期総合教育部授業開始	2(月)	第1回基礎プログラム入校説明会(日本語)
	7(土)	第1回フェローゼミ	3(火)	第2回基礎プログラム入校説明会(英語)
			5(水)	＜基礎プログラム応募受付終了＞
	14(土)・15(日)	第3回対話プログラム	11(水) 12:00	オナーズプログラム入校者発表
			11(水)～18(水)	オナーズプログラム入校確認書提出期間
			13(金)～16(月)	英語(TOEIC-IP)試験実施(オンライン)
	21(土)	第2回フェローゼミ(現地視察)	18(水)	オナーズプログラム秋ターム授業開始
			25(水) 12:00	基礎プログラム入校者発表
			25(水)～30(月)	基礎プログラム入校確認書提出期間
	28(土)	第3回フェローゼミ		
11			3(金)	新渡戸カレッジ入校式(大学院:秋入校)
	11(土)	第4回フェローゼミ		基礎プログラム秋ターム授業開始
	25(土)	第5回フェローゼミ		
			29(水)	オナーズプログラム秋ターム授業終了
12	2(土)・ 3(日)	第4回対話プログラム		
			6(水)	オナーズプログラム冬ターム授業開始
	9(土)	公開シンポジウム成果発表会・振り返り会		
	16(土)	セルフキャリア発展ゼミフォローアップ	16(土)	第2回メンターフォーラム
				基礎プログラム秋ターム授業終了
			21(木)	基礎プログラム冬ターム授業開始
	28(火)～ 1. 4(火)	総合教育部冬季休業		
1	5(水)	総合教育部授業再開		
			31(水)	オナーズプログラム冬ターム授業終了
2			1(土)	基礎プログラム冬ターム授業終了
	4(日)	第2回新渡戸カレッジフェロー交流･研究会(振り返り会)(OL)		
	6(火)	第2学期総合教育部授業終了		
			16(金)	秋・冬ターム成績公開
3	5(火)	第3回新渡戸カレッジ運営会議(OL)	5(火)	第3回新渡戸カレッジ運営会議(OL)
			15(金)～21(木)	2025年度オナーズプログラム入校募集開始
			19(火)	新渡戸カレッジ（大学院教育コース）修了式
	25(月)	学位記授与式(札幌)		
		新渡戸カレッジ(学部教育コース)修了式		

7　新渡戸カレッジ授業概要、特別講演会、行事概要

（1）学部教育コース

2023 年度新渡戸カレッジ グローバル基礎科目実施報告

【グローバル基礎科目について】

グローバル基礎科目は、新渡戸カレッジ学部教育コース基礎プログラム生（１・２年次）の必修科目である。全学教育科目の総合科目（特別講義）としても単位が認定され、春ターム・夏ターム各１単位で開講されている。本科目は、新渡戸カレッジの理念と教育目標に基づく授業として設計されており、オナーズプログラムで必要とされるアカデミックスキルの習得も視野に入れている。

本年度は、春タームは対面授業、夏タームはオンデマンド配信と対面授業を組み合わせて実施した。開講日は火曜日から金曜日に変更となり、５講目と６講目で同じ内容の授業を連続して実施した。春タームは 331 名、夏タームは 313 名が履修した（下表参照）。

表：2023 年度グローバル基礎科目履修者数

開講時期	曜日・時限	履修者数 (不合格者数)	1 年生	2 年生
春： 国際理解と海外留学	金・5	266（11）	251（9）	15（2）
	金・6	65（4）	56（3）	9（1）
夏： リーダーシップとチームワーク	金・5	194（13）	185（11）	9（2）
	金・6	119（3）	109（8）	10（1）

【春ターム「国際理解と海外留学」】

春ターム「国際理解と海外留学」では、国際経験の豊富な本学の教員による連続講義を通じて、国際社会の課題や各研究分野の状況，留学の実態などを知り，キャリアデザインの観点から留学の目的と意義を考え，留学に向けて主体的に取り組むことを促す。

本年度は佐々木啓・大学院文学院教授とともに担当し、6 名の講師に講義を担当いただいた（弥和順・文学研究院教授／新渡戸カレッジ副校長、荒井克俊・北海道大学名誉教授、児矢野マリ・大学院法学研究科教授、樋田京子・大学院歯学研究院教授、井上修平フェロー、ラフェイ　ミシェル・文学研究院教授。第 8 回は学生による留学体験談）。

【夏ターム「リーダーシップとチームワーク」】

夏ターム「リーダーシップとチームワーク」では，設定された課題に対する各自の資料調査とグループ活動を通じて，チームの中で自ら望ましいリーダーシップを発揮できるようになることを目標としている。

本科目は昨年度から札幌市まちづくり政策局の協力を得て、札幌市が抱える具体的な課題を提示したうえで、学生との質疑応答、最終発表の講評などで協力いただいている。本年度は「北海道・札幌において、環境問題の解消と経済成長を両立させる方策」についてチームで検討し発表を行った。グループワークでは、KJ 法などの基本的な手法を実践したほか、メンバー

同士のフィードバックや報告の提出でふりかえりと改善を促した。また、各クラスの授業進行は、事前研修を受けたコアチューター4 名（川谷維摩（理学院 D3）、網敷千時（公共政策 M2）、壽賀太陽（経済 B3）、名和桃子（農 B3））とチューター19 名が担当した。

【来年度にむけて】

チューター制度が定着し、春タームの事前研修から夏タームの授業実施までの基本的な流れが確立できたと感じている。来年度はチューター研修の内容をより充実させ、新渡戸カレッジの魅力を実感できる授業を提供していきたい。

【夏ターム・各クラス代表チームの発表スライド】

2023 年度新渡戸学（フェローゼミ）実施報告

1．フェローゼミの概要

新渡戸学（フェローゼミ）は新渡戸カレッジ独自の必修科目（1 単位、合否評価）で 2023 度入校の基礎プログラム学部教育コースの学生を対象とした少人数の演習形式の科目である。

（1）目的

世界が抱えている諸問題について、実際に現地を視察して学ぶとともに、グループワークを通して、学問と社会のあり方や持続可能な社会のあり方を考え、同時にリーダーシップやチームワーク力を身につける。

（2）目標

① 新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。
② 自分で考え、意見を出し、ともに議論し、明確な結論を導くことができる。
③ ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。
④ ゼミのテーマのもと、持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。

（3）内容

- ゼミ担当フェローの他、支援教員、テーマに関連する関係者が協力し、2023 年度は 6 テーマで実施した。10 月 7 日の全体オリエンテーションから始まり、現地視察を含めた全 5 回のゼミ及び公開シンポジウム成果報告会までをすべて対面で行った。
- チューターは新渡戸カレッジ 2 年目以上の上級生等があたり、ゼミを支援するチューターは各ゼミにつき 3 名（合計 18 名）、ゼミチューターを統括するコアチューターは 4 名が担当した。フェローゼミにおけるコアチューターの主な役割は担当教員及びゼミ統括フェロー、チューターとの調整やチューターへの指導助言である。
- 履修者は 6 ゼミの一つに所属するが、希望者が集中するゼミでは抽選により履修者を決定した。
- 公開シンポジウム成果報告会は、フェローゼミの成果報告や意見交換を通じて視野を広げ、知識を深めることに重点を置くことを目的として 12 月 9 日に実施した。質疑応答については会場から質問を受け付ける方式に戻した。講評では、2022 年同様、ゼミ統括の多田幸雄フェローとコアチューターの 3 名で、各ゼミを聴講した時の様子やシンポジウムの発表について感想を述べ、2 か月間のゼミ全体にわたっての講評とした。その他、学生企画行事等の発表時間を取り、担当学生によるプレゼンが行われた。また、高大連携を行っている高校を訪問し、公開シンポジウムへの参加（大講堂での参加またはライブ配信での視聴）を呼びかけた。公開シンポジウムの様子はライブ配信を行い、フェローゼミ関係者をはじめ、新渡

戸カレッジフェロー等に視聴案内を送付した。

- 公開シンポジウム成果報告会の録画映像、発表スライド、発表要旨は学内のシステムを利用し、履修者、チューター及びフェローゼミ担当フェロー・支援教員に共有する予定である。

（4）2023 年度新渡戸学（フェローゼミ）とそのテーマ

ゼミ名	テーマ	履修者
石川めぐみフェローゼミ	北海道におけるアドベンチャートラベル	30 名
石川裕一フェローゼミ	グローバリゼーションの終焉における我国の安全保障	29 名
伊藤慎フェローゼミ	酪農・乳業の未来を考える	29 名
大友俊彦フェローゼミ	持続的な健康促進、未来の生き方を考える	29 名
萩野泉フェローゼミ	スポーツ・レジャー・エンターテイメントの視点からみる持続可能な発展	30 名
廣重勝彦フェローゼミ	スタートアップで社会課題を解決る	30 名

2．フェローゼミの実施経過

日程	内容	備考
5/18（木）	フェローゼミ打ち合わせ	Zoom で実施
7/11（火）	チューター募集開始	
7/18（火）	フェローゼミ募集開始	
7/25（火）	チューター採用決定	21 名を採用（1 ゼミ 3 名）
9/25（月）	チューター事前説明会	対面で実施
9/20（水）	所属ゼミ発表	
10/3（火）	フェローゼミ打ち合わせ	Zoom で実施
10/7（土）	全体オリエンテーション 第 1 回フェローゼミ	
10/21（土）	第 2 回フェローゼミ	現地視察（一部ゼミは別日程で実施）
10/28（土）	第 3 回フェローゼミ	
11/11（土）	第 4 回フェローゼミ	
11/25（土）	第 5 回フェローゼミ	
12/ 9（土）	公開シンポジウム成果報告会 ゼミ別振り返り	フェローゼの発表、学生企画行事等の発表、講評、学生大賞表彰

（参考）　正式入校生：182 名（1 年次 168 名、2 年次 14 名）
ゼミ履修者：177 名（1 年次 163 名、2 年次 14 名）
チューター： 18 名 （大学院 4 名、学部 14 名）
コアチューター：4 名（大学院 1 名、学部 3 名）

3．フェローゼミの様子

全体オリエンテーション（多田フェローによる説明）

全体オリエンテーション（コアチューターによる説明）

第１回ゼミでの集合写真（石川裕一ゼミ）

石山緑地の視察（石川めぐみゼミ）

アイヌ文化交流センター（サッポロピリカコタン）の視察（石川めぐみゼミ）

町村農場の視察（伊藤ゼミ）

町村代表取締役による説明（伊藤ゼミ）

ホクノーの視察（大友ゼミ）

第２回ゼミでのグループワーク（大友ゼミ）

エスコンフィールドの視察（萩野ゼミ）

エスコンフィールドの視察（萩野ゼミ）

北大エンレイソウでのゼミ生によるピッチ（廣重ゼミ）

ドメーヌタカヒコ（余市のワイン農園）の視察（廣重ゼミ）

公開シンポジウム成果報告会

公開シンポジウム成果報告会（質疑応答）

多田フェローとコアチューターによる講評

学生大賞受賞ゼミ（伊藤ゼミ）

公開シンポジウム終了後の全体集合写真

振り返りの様子（石川裕一ゼミ）

振り返りの様子（萩野ゼミ）

2023年度　新渡戸学（フェローゼミ）計画

教室：第1回はE204、第2回～第5回はS3

テーマ		北海道におけるアドベンチャートラベル
科目責任者		畑中　貴美
担当フェロー		石川　めぐみ（いしかわ　めぐみ）
支援教員		ミシェル・ラフェイ　大学院文学研究院教授
キーワード		アドベンチャートラベル・ポストコロナ・旅行・異文化体験・アクティビティ・自然・体験型観光・ATWS
目的		コロナの流行も落ち着き観光業が勢いを盛り返す中、注目すべき新しい観光の形が「アドベンチャートラベル（AT)」。今年9月にはアドベンチャー・トラベル・ワールドサミット（ATWS）が北海道で行われることになっており、AT振興の気運が盛り上がることが予想される。北海道におけるATの可能性や課題について考え、重要な産業である旅行・観光業の今後に向けて提案を行う。
到達目標		１．新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。 ２．自分で考え，意見を出し，ともに議論し，明確な結論を導くことができる。 ３．ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。 ４．ゼミのテーマのもと，持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。
内容		
	第1回 10月7日 （土）	【全体オリエンテーション】(10:00～10:45）弥副校長，多田幸雄フェローゼミ統括フェロー，畑中貴美（大講堂）
		【第1回フェローゼミ】(11:00～12:00）【各ゼミでのオリエンテーション】(E204)
		第1コマ (13:15～14:45)：【各ゼミでのオリエンテーション・授業】 ■自己紹介　ガイダンス（ゼミの目的、スケジュールなど説明） ■講義　「新たな旅の潮流・アドベンチャートラベル」石川めぐみ
		第2コマ(15:00～16:30)：【各ゼミでの授業】(E204) ■グループ分け、リーダー選出 ■グループディスカッション　講義を基に課題の仮抽出　方向付けなど
	（自主準備）	●講義内容と参考資料を基に、北海道におけるATの課題について各自考えておく
	第２回 10月21日 （土）	第3コマ（ 9 : 00 ～13 : 00 ）：【現地視察】 ■石山緑地とアイヌ文化交流センター（サッポロピリカコタン）視察 9：00 北大発→石山緑地→ピリカコタン　12：15発北大へ
		第４コマ（ 14 : 00 ～15 : 30 ）：【ご講義】 ■北海道宝島旅行社 代表取締役社長 鈴木宏一郎氏のご講義
	（自主準備）	●現地視察とご講義を基に、自分が感じたATの可能性と課題についてのレポートを提出
	第３回 10月28日 （土）	第５コマ （ 10 : 30 ～12 : 00 ）： ■グループディスカッション　グループの課題の確定
		第6コマ （ 13 : 30 ～15 : 00 ）： ■グループディスカッション　課題に沿った発表内容の大筋組み立て
	（自主準備）	●チームごとに関連の情報収集、中間発表の準備
	第４回 11月11日 （土）	第７コマ （ 10 : 30 ～12 : 00 ）： ■中間発表　各グループごとに発表　全体での意見交換
		第８コマ （ 13 : 30 ～15 : 00 ）： ■中間発表で出た質問や意見を踏まえてのブラッシュアップ・調整
	（自主準備）	●チームごとに発表内容の準備
	第５回 11月25日 （土）	第９コマ （ 10 : 30 ～12 : 00 ）： ■成果報告会に向けての内容準備
		第10コマ （ 13 : 30 ～15 : 00 ）： ■成果報告会に向けての内容準備
	（発表要旨提出）	●ゼミ代表グループの発表要旨を提出　　締切：12/5（火）（予定）
	（発表スライド提出）	●ゼミ代表グループの発表スライドを提出　　締切：12/6（水）（予定）
	公開シンポジウム 12月9日 （土）	（10:00～15:40予定）：【新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会ー持続可能な社会の実現を目指してー】 （大講堂） ■フェローゼミの発表、講評、表彰
		（16:00～17:00 予定）：【フェローゼミ総括】 ■ゼミごとに振り返り　（各教室）
成績評価の基準と方法		出席，授業，レポートを通して到達目標の達成を合・否で評価する。
参考図書・文献等		北海道経済部観光局「アドベンチャートラベル（AT）について」https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/133558.html 北海道観光振興機構「ADVENTURE TRAVEL HOKKAIDO」https://visit-hokkaido.jp/adventure-travel/ 国土交通省北海道運輸局「ATで求められるコーディネーターとは」https://wwwtb.mlit.go.jp/hokkaido/content/000235640.pdf 国土交通省北海道運輸局「ATコンテンツ磨き上げについて」https://wwwtb.mlit.go.jp/hokkaido/content/000235664.pdf ATTA公式サイト　https://events.adventuretravel.biz/summit/hokkaido-2023
備考：サッポロピリカコタンの入館料（180円）は自己負担となります		

2023年度　新渡戸学（フェローゼミ）計画

教室：第1回はE205、第2回～第5回はＳ４

テーマ		グローバリゼーションの終焉における我国の安全保障
科目責任者		畑中　貴美
担当フェロー		石川　裕一（いしかわ　ゆういち）
支援教員		
キーワード		安全保障・グローバリゼーションの終焉・自然権・日米関係史・戦争の背景・軍縮
目的		グローバリゼーションの終焉と共に、世界諸国がローカリゼーションを進める中において、各地での紛争が激化してしまった。その中にあり、我国の安全保障の在り方を考察し、我国が将来において平和国家として存続することができるよう、我国に対する危機を回避する方法を検討する。自然人としての安全保障を原点に国家における安全保障への展開を図り、近代における国家安全保障の原点を探る。メディアの報道を鵜呑みにすることなく、自らの頭で考察し、自らの見解を展開することができる能力をこのゼミにて学ぶことを到達目標とする。
到達目標		１．新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。 ２．自分で考え，意見を出し，ともに議論し，明確な結論を導くことができる。 ３．ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。 ４．ゼミのテーマのもと，持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。
内容		
	第1回 10月7日 （土）	【全体オリエンテーション】(10:00～10:45）弥副校長，多田幸雄フェローゼミ統括フェロー，畑中貴美（大講堂）
		【第1回フェローゼミ】(11:00～12:00）【各ゼミでのオリエンテーション】(E205)
		第1コマ (13:15～14:45)：【各ゼミでのオリエンテーション・授業】(E205) グローバリゼーションの終焉とは何か、近代日本の成立を考察し江戸時代以降国際社会で我国がどのような歴史をたどったかを日米関係史を中心に考察する。
		第2コマ(15:00～16:30)：【各ゼミでの授業】(E205) 第１コマ目の続きを話、ゼミにおける主要テーマを設定する
	（自主準備）	●
	第２回 10月21日 （土）	陸上自衛隊北部方面現地視察 東千歳駐屯地 訪問を予定
	（自主準備）	●
	第３回 10月28日 （土）	第５コマ（１４　：００　～１５　：３０　）： 河野元統合幕僚長による講話
		第６コマ（15：４５～ 17 :15) R.D.エルドリッジ元米国海兵隊幹部による講話・各テーマの論点の整理
	（自主準備）	
	第4回 11月11日 （土）	第７コマ（ 13 ：30　～15 ：00　）： 各組における、テーマの開示とそのテーマ別に沿った議論を行う
		第８コマ（ 15　：15 ～ 16 ：45　）： このゼミにおける最大の課題である、自らの頭で考えて各テーマの内容を口頭で開示する
	（自主準備）	●
	第５回 11月25日 （土）	第９コマ（11：００～１２：30） 各組においてのテーマの発表を行い、質疑応答を行う
		第10コマ（ 13：45～15：15） 各組のテーマを整理し、一つのプレゼンテーション資料を作り上げ、発表者による模擬発表を行う
	（発表要旨提出）	●ゼミ代表グループの発表要旨を提出　　締切：12/5（火）（予定）
	（発表スライド提出）	●ゼミ代表グループの発表スライドを提出　　締切：12/6（水）（予定）
	公開シンポジウム 12月9日 （土）	（10:00～15:40予定）：【新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会ー持続可能な社会の実現を目指してー】 （大講堂） ■フェローゼミの発表、講評、表彰
		（16:00～17:00 予定）：【フェローゼミ総括】 ■ゼミごとに振り返り　（各教室）
成績評価の基準と方法		出席，授業，レポートを通して到達目標の達成を合・否で評価する。
参考図書・文献等		別紙参照
備考：		

石川ゼミ参考図書一覧

１．日本の生きる道	平川祐弘	飛鳥新社
２．日本人として知っておきたい「世界激変」の行方	中西輝政	PHP 新書
３．ルーズベルトの開戦責任	ハミルトン・フィッシュ	草思社
４．常識「日本の安全保障」	日本の論点編集部	文春新書
５．ロシア革命史入門	広瀬　隆	インターナショナル
６．ハリス　日本滞在記（上・中・下）	ハリス	岩波新書
７．日本の宿命	佐伯啓司	新潮新書
８．違和感の正体	先崎彰容	新潮新書
９．この国を守るための外交戦略	岡崎久彦	PHP
１０、カエルの楽園	百田尚樹	
１１．茶の本	岡倉天心	
１２．異形の大国　中国	桜井よしこ	新潮文庫
１３．日本の危機	桜井よしこ	新潮文庫
１４．人間知性論	ジョン・ロック	岩波文庫
１５．統治二論	ジョン・ロック	岩波文
１６．平和の海と戦いの海	平川祐弘	講談社文庫
１７．後世への最大遺物デンマルク国の話	内村鑑三	岩波文庫
１８．キリスト信徒のなぐさめ	内村鑑三	岩波文庫
１９．新自由主義の廃墟で	ウェンディ・ブラウン	人文書院

以上

2023年度　新渡戸学（フェローゼミ）計画

教室：第1回はE206、第2回～第5回はS7

テーマ		酪農・乳業の未来を考える
科目責任者		畑中　貴美
担当フェロー		伊藤　慎（いとう　しん）
支援教員		山畑　倫志（やまはた　ともゆき）高等教育推進機構講師
キーワード		酪農、乳業、産業発展、問題発見・解決
目的		日本の酪農・乳業の現状を理解し、将来ありたい姿とアプローチを考える。
到達目標		1．新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。 2．自分で考え，意見を出し，ともに議論し，明確な結論を導くことができる。 3．ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。 4．ゼミのテーマのもと，持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。
内容		
	第1回 10月7日 （土）	【全体オリエンテーション】(10:00～10:45）弥副校長，多田幸雄フェローゼミ統括フェロー，畑中貴美（大講堂）
		【第1回フェローゼミ】(11:00～12:00）【各ゼミでのオリエンテーション】(E206)
		第1コマ (13:15～14:45)：【各ゼミでのオリエンテーション・授業】(E206) ■ 自己紹介 ■ ゼミイントロダクション（目的・スケジュール等）
		第2コマ(15:00～16:30)：【各ゼミでの授業】(E206) ■ 演習テーマの総論紹介 ■ グループ分けとグループ内ディスカッション
	（自主準備）	● 前回総論を元に酪農の基本情報を調べ、チーム毎に課題を整理する（参考資料①～⑥）
	第２回 10月21日 （土）	第3コマ（10:00～13:30）：【現地視察】 ■ 町村農場の見学とレクチャー　9:00 北大発バスで移動　12:30 町村農場発北大へ
		第４コマ (14:00～15:30)：【現地視察】 ■ 振り返りディスカッション
	（自主準備）	● 現地視察を踏まえて、チーム毎に課題の整理と提案方針検討
	第３回 10月28日 （土）	第５コマ (14:00～15:30）：【外部講師講話】 ■ 行政/民間の現在の取り組みにおいて残された課題の整理
		第6コマ（15:45～17:15）： ■ チーム毎の提案骨子の協議・共有
	（自主準備）	● チーム毎に提案内容報告準備
	第４回 11月11日 （土）	第７コマ（10:00～11:30)： ■ チーム毎に取り上げた課題と解決のためのアプローチ提言（プレゼン）打合せ
		第８コマ（12:45～14:15)： ■ チーム毎に取り上げた課題と解決のためのアプローチ提言（プレゼン）打合せ
	（自主準備）	● チーム毎のプレゼンテーション準備
	第５回 11月25日 （土）	第９コマ（14:00～15:30)： ■ プレゼンとフェロー・教員による講評
		第10コマ（15:45～17:15）： ■ 全体発表会に向けた準備
	（発表要旨提出）	●ゼミ代表グループの発表要旨を提出　　締切：12/5（火）（予定）
	（発表スライド提出）	●ゼミ代表グループの発表スライドを提出　　締切：12/6（水）（予定）
	公開シンポジウム 12月9日 （土）	（10:00～15:40予定）：【新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会ー持続可能な社会の実現を目指してー】 （大講堂） ■フェローゼミの発表、講評、表彰
		（16:00～17:00予定）：【フェローゼミ総括】 ■ゼミごとに振り返り　（各教室）
成績評価の基準と方法		出席，授業，レポートを通して到達目標の達成を合・否で評価する。
参考図書・文献等		①日本農業市場学会編『食料・農産物の流通と市場Ⅱ』第8章「牛乳・乳製品」（筑波書房） ②中央酪農会議HP：http://www.dairy.co.jp/index.html ③日本乳業協会HP：http://www.nyukyou.jp/index.html ④milk-land北海道：https://www.milkland-hokkaido.com/ ⑤一般社団法人Jミルク：https://www.j-milk.jp/index.html ⑥農林水産省畜産部HP：https://www.maff.go.jp/j/chikusan/kikaku/lin/index.html
備考：詳細は第１回に説明します。		

2023年度　新渡戸学（フェローゼミ）計画

教室：第1回はE216、第2回～第5回はS11

テーマ		持続的な健康促進、未来の生き方を考える
科目責任者		畑中　貴美
担当フェロー		大友　俊彦（おおとも　としひこ）
支援教員		野澤　俊介（のざわ　しゅんすけ）　高等教育推進機構准教授
キーワード		健康、医療、公共サービス、福祉、高齢化、街づくり、持続性
目的		医療・福祉の状況をふまえ,健康促進,健康に生きるための課題を考察し,あらゆる年齢の人が健康で暮らせるための社会の在り方を考える
到達目標		1．新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。 2．自分で考え，意見を出し，ともに議論し，明確な結論を導くことができる。 3．ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。 4．ゼミのテーマのもと，持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。
内容		
	第1回 10月7日 （土）	【全体オリエンテーション】(10:00～10:45）弥副校長，多田幸雄フェローゼミ統括フェロー，畑中貴美（大講堂）
		【第1回フェローゼミ】(11:00～12:00）【各ゼミでのオリエンテーション】(E216)
		第1コマ (13:15～14:45)：【各ゼミでのオリエンテーション・授業】(E216) ■自己紹介 ■ガイダンス（ゼミの目的，スケジュールの説明）、演習テーマ解説
		第2コマ(15:00～16:30)：【各ゼミでの授業】(E216) ■外部講師による講演：町田札幌副市長『札幌市における健康寿命延伸施策(仮)』 ■チーム編成，リーダー決め ■現地視察に向け、各チームで課題抽出、取り組みの方向性など議論
	（自主準備）	●参考文献を含め、各自参考となるような取り組みの調査ならびに課題抽出
	第２回 10月14日 （土）	第3コマ (午前)：【現地視察】 ■札幌市における『健康講座』など取り組み先の視察:「ホクノー健康ステーション」
		第４コマ (午後)：【現地視察】 ■現地視察内容のディスカッション
	（自主準備）	●外部講師講演ならびに現地視察をふまえ、それぞれが考える「あるべき姿・課題」に関するレポートの作成，提出
	第３回 10月28日 （土）	第５コマ(9:15 ～ 10:45)：【 ディスカッション・プランニング】 ■チーム毎に課題・解決に向けたアプローチに関する議論
		第６コマ (11:00 ～ 12:30)：【 ディスカッション・プランニング 】 ■チーム毎に課題・解決に向けたアプローチに関する議論，プレゼン打ち合わせ
	（自主準備）	●チームでの資料作成、プレゼンテーション準備、プレゼンテーション資料の提出
	第４回 11月11日 （土）	第７コマ （ 9:15 ～ 10:45)：【 ディスカッション・プランニング】 ■各グループからのプレゼン発表
		第８コマ (11:00 ～ 12:30)：【 ディスカッション・プランニング 】 ■各グループからのプレゼン内容に関する意見交換，全体発表に向けた準備
	（自主準備）	●最終プレゼンテーション準備、プレゼンテーション資料の提出
	第５回 11月25日 （土）	第９コマ (9:15 ～ 10:45)：【 ディスカッション・プランニング】 ■各グループからのプレゼン発表
		第10コマ (11:00 ～ 12:30)：【 ディスカッション・プランニング 】 ■各グループからのプレゼン内容に関する意見交換，全体発表に向けた準備
	（発表要旨提出）	●ゼミ代表グループの発表要旨を提出　　締切：12/5（火）（予定）
	（発表スライド提出）	●ゼミ代表グループの発表スライドを提出　　締切：12/6（水）（予定）
	公開シンポジウム 12月9日 （土）	（10:00～15:40予定）：【新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会ー持続可能な社会の実現を目指してー 】 （大講堂） ■フェローゼミの発表、講評、表彰
		（16:00～17:00 予定）：【フェローゼミ総括】 ■ゼミごとに振り返り　（各教室）
成績評価の基準と方法		出席，授業，レポートを通して到達目標の達成を合・否で評価する。
参考図書・文献等		・『社会的処方　孤立という病を地域のつながりで治す方法』西 智弘 編著（学芸出版社） ・『コミュニティカフェ』- まちの居場所のつくり方、続け方　遠藤　保 著（学芸出版社） ・ホクノー健康ステーション：https://www.hokuno.com/pickup/ https://www.toppan.co.jp/biz/social/case/health02.html ・健康寿命のあり方に関する有識者研究会報告書 https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/000495323.pdf ・190万都市，札幌市の人口構造に見る課題 https://www.dbj.jp/pdf/investigate/area/hokkaido/pdf_all/hokkaido0909_01.pdf ・健康さっぽろ21（札幌市健康づくり基本計画）　http://www.city.sapporo.jp/eisei/kenkozukuri/kenko21/index.html ・『「疑う」からはじめる。』-これからの時代を生き抜く思考・行動の源泉　澤 円 著（アスコム）
備考：		

2023年度　新渡戸学（フェローゼミ）計画

教室：第1回はE207、第2回～第5回はS12

テーマ		スポーツ・レジャー・エンターテインメントの視点からみる持続可能な発展
科目責任者		畑中　貴美
担当フェロー		萩野　泉（はぎの　いずみ）
支援教員		亀野　淳（かめの　じゅん）　高等教育推進機構教授
キーワード		スポーツ，エンターテインメント，アイデア，ライフスタイル，持続可能な発展，地域社会，地域活性化
目的		2023年春に開業した北海道ボールパークＦビレッジは、スポーツ観戦の場としてのみならず、新しいエンターテインメント・レジャー体験の創出や地域活性化やまちづくりにまで影響を与えている。国内で類を見ないこの施設が生まれた背景を知り，世界，日本，北海道が抱える課題の読み解きと合わせて，「持続可能な発展」をテーマに課題解決を考える。
到達目標		１．新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。 ２．自分で考え，意見を出し，ともに議論し，明確な結論を導くことができる。 ３．ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。 ４．ゼミのテーマのもと，持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。
内容		
	第1回 10月7日 （土）	【全体オリエンテーション】(10:00～10:45）弥副校長，多田幸雄フェローゼミ統括フェロー，畑中貴美（大講堂）
		【第1回フェローゼミ】(11:00～12:00）【各ゼミでのオリエンテーション】(E207)
		第１コマ（13：15～14：45）：【各ゼミでのオリエンテーション・授業】(E207) ●事前準備：参考文献の閲読/閲覧（★マークは初回までに必須） ■ゼミの説明、自己紹介、各種作業 ・ゼミテーマの説明（25分） ・ゼミ生自己紹介（60分） ・チーム分け（5分）
		第２コマ（15：00～16：30）：【各ゼミでの授業】(E207) ■ゼミで取り上げるテーマの説明、グループディスカッション ・ゼミテーマを基にした個人ワーク/グループディスカッション（25分） ・ゴールデンサークル理論に関する動画閲覧（20分） ・チーム調整（10分） ・グループディスカッション：仮説出し（30分） ・次回オリエンテーション（5分）
	（自主準備）	●各自情報収集、ゴール設定への仮説検討
	第２回 10月21日 （土）	第３コマ（09：30～12：00）：【現地視察】 **※クライマックスシリーズ期間のため変更の可能性あり（第4コマの注意点を必ずお読みください）** ■9：30　北大発（高等教育推進機構集合）、エスコンフィールドHOKKAIDOへ移動 10：30～11：30 ■株式会社 ファイターズ スポーツ＆エンターテイメント ご担当者様による講義
		第４コマ（12：00～16：00）：【現地視察】 **※クライマックスシリーズ期間のため変更の可能性あり** ■エスコンフィールドHOKKAIDO見学（球場内ツアーなど） ■北海道ボールパークボールパークFビレッジ見学（球場外の各施設見学） **※注意点** **①ファイターズがクライマックスシリーズに進出した場合、球場内見学ができなくなるため、** **Fビレッジ構想の講話と、Fビレッジ内見学へ内容が変更になります。** **②スタジアムツアー見学は実費（1,500～2,000円）がかかります。**
	（自主準備）	●各自情報収集、ゴール設定への仮説検討
	第３回 10月28日 （土）	第５コマ（13：00～14：30）：【グループ内ディスカッション】 ■仮説と現地視察で得た示唆などを基にしたゴール（ありたき生活者/世界の姿）の設定 ・オリエンテーション（10分） ・各自作業（20分）×2回 ・グループ内ディスカッション（20分）×2回
		第６コマ（14：45～16：15）：【グループ内ディスカッション】 ■ゴール（ありたき生活者/世界の姿）の設定と、それを実現する方法の検討 ・各グループ内でのまとめ（30分） ・各自作業（15分）×2回 ・グループ内ディスカッション（15分） ・資料作成にかんするオリエンテーション（15分）
	（自主準備）	●各自情報収集、発表用資料作成準備

	第４回 11月11日 （土）	第７コマ（13：00～14：30）：【グループ内ディスカッション・資料作成】 ■設定したゴール（ありたき姿）とそれを実現する方法の検討 ・グループ内ディスカッション（20分）×2回 ・各自作業（30分） ・資料作成（20分）
		第８コマ（14：45～16：15）：【グループ間ディスカッション・資料作成】 ■各グループが考えた内容の発表、意見交換 ・グループごとに発表・質疑応答（40分） ・グループ内ディスカッション（20分） ・資料作成・データ収集（30分）
	（自主準備）	●発表用資料作成
	第５回 11月25日 （土）	第９コマ（13：00～14：30）：【グループ間ディスカッション】 ■各グループでまとめた資料を発表し、全体発表会で発表するチームを決める ・資料修正、データ収集などの作業（15分） ・グループごとに発表・質疑応答（60分） ・発表グループの決定（15分）
		第10コマ（14：45～16：15）：【グループ間ディスカッション・資料作成】 ■発表チームのアイデアを、ゼミ全体でブラッシュアップする ・データ収集、アイデア発想、資料修正などの作業（90分）
	（発表要旨提出）	●ゼミ代表グループの発表要旨を提出　　締切：12/5（火）（予定）
	（発表スライド提出）	●ゼミ代表グループの発表スライドを提出　　締切：12/6（水）（予定）
	公開シンポジウム 12月9日 （土）	（10:00～15:40予定）：【新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会ー持続可能な社会の実現を目指してー】 （大講堂） ■フェローゼミの発表、講評、表彰
		（16:00～17:00 予定）：【フェローゼミ総括】 ■ゼミごとに振り返り　（各教室）
成績評価の基準と方法		出席，授業，レポートを通して到達目標の達成を合・否で評価する。
参考図書・文献等		★北海道ボールパークボールパークのプレスリリース https://www.hkdballpark.com/pressroom/ ★イノベーションに関する動画 https://www.youtube.com/watch?v=CkDH3kW4bUM https://vimeo.com/48997854 ゴールデンサークル理論に関する記事 https://www.rarejob.com/englishlab/column/20190525/ SDGs思考 2030年のその先へ 17の目標を超えて目指す世界 https://www.amazon.co.jp/dp/4295009970
備考：		

2023年度　新渡戸学（フェローゼミ）計画

教室：第1回はE215、第2回～第5回はS5

テーマ		スタートアップで社会課題を解決する
科目責任者		畑中　貴美
担当フェロー		廣重　勝彦（ひろしげ　かつひこ）
支援教員		
キーワード		スタートアップ、社会課題、経営、イノベーション、サステイナビリティ、社会貢献、利他、コミュニティ
目的		スタートアップの考え方と技術を身に着けて、自らの手で社会課題を解決する。
到達目標		1．新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。 2．自分で考え，意見を出し，ともに議論し，明確な結論を導くことができる。 3．ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。 4．ゼミのテーマのもと，持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。
内容		
	第1回 10月7日 （土）	【全体オリエンテーション】(10:00～10:45）弥副校長，多田幸雄フェローゼミ統括フェロー，畑中貴美（大講堂）
		【第1回フェローゼミ】(11:00～12:00）【各ゼミでのオリエンテーション】(E215)
		第1コマ (13:15～14:45)：【各ゼミでのオリエンテーション・授業】(E215) ■「社会課題を解決するツール」としてのスタートアップを学ぶ ■ショート・プレゼンとチーム作り
		第2コマ(15:00～16:30)：【各ゼミでの授業】(E215) ■チームでのブレスト、アイデア出し（グループでなく個人でもOK） ■ビジネスモデルのドラフトを作り発表する
	（自主準備）	●現地視察で知りたいこと、起業家に質問したいことを整理する
	第２回 10月21日 （土）	第3コマ（ 11 :00 ～12 :30 ）：【現地視察】学内の起業施設 ■スタートアップ経営者（インバウンドテック東間社長他）のレクチャーと対話、最初のピッチ大会
		第４コマ (13 :30 ～17 :30)：【現地視察】学外の起業現場 ■スタートアップ現場の視察と経営者との交流（訪問先は調整中）
	（自主準備）	●自分が取り組む社会課題を明確にする
	第３回 10月28日 （土）	第５コマ (9 :00 ～10 :30)： ■改めて自分が本気で取り組むビジネスモデルを構築する
		第6コマ（ 10 :15 ～12 :15 ）： ■商品やサービスを具体化する
	（自主準備）	●自分のビジネスを知人・他人に伝えて反応を見る（マーケティングリサーチ）
	第４回 11月11日 （土）	第７コマ (9 :00 ～10:30)： ■自分の商品・サービスに「ニーズがあるのか（顧客がいるのか）」の検証
		第８コマ (10 :15 ～12:15)： ■顧客（社会）のニーズをもとに、商品・サービスをブラッシュアップ
	（自主準備）	●ピッチ資料を完成させる
	第５回 11月25日 （土）	第９コマ (9 :00 ～ 10 :30)： ■ゼミ内でのピッチ大会
		第10コマ (10 :30 ～ 12:15)： ■全員で公開シンポジウムの準備
	（発表要旨提出）	●ゼミ代表グループの発表要旨を提出　　締切：12/5（火）（予定）
	（発表スライド提出）	●ゼミ代表グループの発表スライドを提出　　締切：12/6（水）（予定）
	公開シンポジウム 12月9日 （土）	（10:00～15:40予定）：【新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会ー持続可能な社会の実現を目指してー】 （大講堂） ■フェローゼミの発表、講評、表彰
		（16:00～17:00予定）：【フェローゼミ総括】 ■ゼミごとに振り返り　（各教室）
成績評価の基準と方法		出席，授業，レポートを通して到達目標の達成を合・否で評価する。
参考図書・文献等		『後世への最大の遺物（内村鑑三著、岩波文庫）』；新渡戸と並ぶ北大の巨星、内村鑑三がお金や起業の重要性を説く。 『ゼロ・トゥ・ワン（ピーター・ティール 著、NHK出版）』；スタートアップ界のカリスマが学生に示した講義録。 『SHOE DOG（フィル・ナイト著、東洋経済新報社）』；学生が起業したシューズ会社が”NIKE”に成長する自伝。 『初音ミクはなぜ世界を変えたのか?（柴那典著、太田出版）』；「初音ミク」を生み出した北大発ベンチャーの実話。 『初めての海外個人投資（廣重勝彦著、日経文庫）』；投資家目線で日本や世界がどのように見えるのか。
備考：「できるできない」を考える前に「まずやってみる」ゼミです。実際にやってみて初めて分かる世界や、身に付く能力があります。いま実社会で活躍している起業家との対話を通じて、自分の力で社会課題を解決することが可能だと分かれば、同時に自分が将来進む道もみえてきます。		

2023 年度「新渡戸学（セルフキャリア発展ゼミ）」実施報告

【実施目的】

セルフキャリア発展ゼミは、合宿を含む継続的なセミナーであり、日常とは異なる空間での自己の洞察、仲間（新渡戸カレッジ生とフェロー）とのコミュニケーション、アクティブラーニングを通して、自らの未来を構築していくための力を養うことを目的とする。

【目標】

- 新渡戸カレッジ生が社会の現状を認識し、社会との関連のなかで自分自身の可能性を認識し、自らの未来を構築していく力を身につける。
- 学生が自ら目標を設定し、実現に向けたプロセスを考え、実行する。また、教員とフェローの助言を受けながら確認し、継続的に取り組む。
- 新渡戸コミュニティにおける教員、フェロー及び学生同士のコミュニケーションから、学生が自分の目標の実現に向けて取り組む際の手がかりを得る。
- 持続的な取り組みを通して、将来社会や組織のリーダーに成長するための基本的な考え方とスキルを習得する。

【2023 年度実施状況】

今年度のセルフキャリア発展ゼミは、5 月 28 日に学内で第 1 部、6 月 25 日～26 日に北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル深川で合宿を実施した。これまでセルフキャリア発展ゼミに参加した卒業生の OB・OG の 6 名も合宿に参加し、新渡戸カレッジでの活動、特にセルフキャリア発展ゼミに参加した経験が現在のキャリアにどのような影響をもたらしたのかなどについて、履修生と共有した。

日時	内容	参加者数内訳
5 月 27 日	ゼミ第 1 部 （学内対面）	教員 3 名、フェロー 8 名 チューター 2 名、履修学生 37 名
6 月 24 日～25 日	ゼミ第 2 部 （学内対面）	教員 3 名、フェロー 8 名、OB・OG 6 名 チューター 3 名、履修学生 35 名
7 月 28 日	フォローアップゼミ 1 回目 （Zoom・任意参加）	チューター 3 名、履修学生 5 名
9 月 27 日	フォローアップゼミ 2 回目 （対面＆Zoom・任意参加）	チューター 3 名、履修学生 6 名
12 月 16 日	フォローアップゼミ 3 回目 （学内対面・任意参加）	教員 4 名、フェロー 8 名 チューター 3 名、履修学生 9 名

履修者数	学部		学年
合計 35 名	文学部	5 名	2 年生（27 名） 3 年生（8 名）
	法学部	3 名	
	経済学部	4 名	
	理学部	2 名	
	工学部	5 名	
	農学部	8 名	
	水産学部	5 名	
	獣医学部	1 名	
	医学部（医学科）	1 名	
	医学部（保健学科）	1 名	

※応募者 40 名：第 1 部 3 名辞退、37 名参加；合宿 2 名辞退、35 名参加

【2023 年度セルフキャリア発展ゼミの様子】

〇第 1 部（5 月 27 日）

〇第 2 部（6 月 24 日・25 日）

【来年度について】

セルフキャリア発展ゼミの OB・OG の継続的な参加を含めて、基本的に今年度と同じ要領で実施する予定である。

2023 年度新渡戸カレッジ対話プログラム実施報告

報告事項

- オナーズ生 90 名（新規 29 名）が参加登録し、9 名の担当フェローと 1 対 1 の対話を行った。
- 年 4 回の面談（オンラインを中心に、一部対面で実施）を行った。
- 4 回目の参加学生のアンケート調査（参加者 25 名中 13 名が回答）で、自身の対話の体験全体を振り返り、得られたことや学んだことについて詳細に述べた回答があった（「2023 年度第 4 回（最終回対話プログラム実施報告」参照）。
- 2015 年度から 9 年間実施してきた本プログラムは今年度で終了となる。

2023 年度第 4 回（最終回）対話プログラム実施報告

アンケート回答者数

第4回終了後、参加者25名のうち13名（新規5名、継続8名）が回答した（52%）。

特に良いと思ったフェローについて、どういう点が良かったか（自由記述）

これまで対話をしたフェローのうち最も良かったと思った方について、どういう点が良かったかを聞いたところ、新しい選択肢を示してもらえた、自身の経験をもとに話してもらえた等の答えがあった。

選択肢を示してもらえる点

- 色々な選択肢を見せていただける
- 対話のたびに新しい選択肢を提示してくださったため知識や視野が広がった
- 初めから対話をさせていただいたフェローであり、毎回興味深いお話や新しい選択肢を教えていただけるのがとてもありがたかった
- 進路の相談に親身になってのっていただき、方向性を明確にできたため

自身の経験をもとに話してもらえた点

- イタイイタイ病の訴訟に関わっておられたご経験や、イタイイタイ病と他の公害の違いなど、私が知りたいとお願いしたことを資料を用いながら丁寧に教えてくださったから。また、社会人の立場から大学での学びや大学生という時期の立ち位置を教えてくださり、視野が広がったから
- 普段から学生と関わる機会が多く、その交流の経験から今何をやるべきか、他の学生はどんなことをしているのか、またどんな学生がいるのかを多くお話ししてくださり、自分が今何をやるべきかを考えるためのアドバイスをたくさんくださるため
- 自身の体験（海外赴任や公害問題に対する取り組みなど）を丁寧にお話くださり、話の最後には必ずと言っていいほど大学生に向けたメッセージを伝えてくださる。その話がしみじみと心に沁みる

その他

- 高邁なる精神のもとに私たち学生に、真剣に向き合ってくださる。報道される事実とその理由、報道されない事実とその理由この 4 つが理解できるようになったら知識人だということを教えていただいた
- 学業面に留まらず、さまざまなことを聞いてくださったことにより私個人のパーソナリティを引き出してくれて、自分に自信を持つことができるようになったから。また、終始アドバイスが建設的かつ活気にあふれていて、私自身が元気をもらい、将来について希望をもって考えることができるようになったから趣味が合う（サッカー）
- 事前に送った質問に対して、共感を示してくださる一方で、様々な角度からアドバイスを下さるとともに、合間合間で「君自身がどう思っているか聞きたいな」と発言を促していただき「僕のことにも関心を持って下さっているんだな」と、文字通り対話への実感が湧いたため
- 対話の内容に感銘を受けたため

プログラム全般についての意見・要望・感想（自由記述）

最終回ということで、これまでの学びの体験を振り返った記述がいくつかあった。

- フェローとお話しして、新たな視点から自分の問題を解決しようと思うようになりました。このような機会を設けていただきありがとうございました
- 普段会えない方たちと、１対１で対話出来てとても満足しております。ありがとうございました
- 最後に一度だけ対面で対話できて、とても楽しかったです。来年はぜひたくさんのフェローと対面でお話しできればと思います
- 色々な考えを持っている大人の方と、一対一で真摯にお話しすることができる機会はあまりないと思うので、本当に嬉しい機会でした
- 自分の将来のキャリアを考える上で、各業界のトップの方との対話を通じてさらに深く考えるきっかけになりました
- 様々な現場で活躍されているフェローとお話したことで自分を見直すきっかけとなり，とても有意義な時間でした．ありがとうございました
- ぜひまた参加したいです！お忙しい中お時間いただき、ありがとうございました！
- 社会での豊富な経験を持つフェローとの対話は、貴重かつとても有意義な時間でした。対話プログラムは、新渡戸カレッジに入れて良かったなと思うプログラムの一つです。対話プログラムを運営してくださった皆様、ありがとうございました
- 最後になってしまうのが残念です。ありがとうございました
- 対話プログラムの終了がとても残念です。この4年間、本当にありがとうございました
- 今後も対話プログラムを復活させてほしいと思っています。卒業生として、対話プログラムは無くても代わりとなるようなイベントを提供できたらなと考えています。新しい形を共に模索していきたいです！対話プログラムにたくさん成長させてもらいました。本当にありがとうございました
- 4年間、対話プログラムを続けることで、社会情勢の変化と自分の内面の変化どちらも追うことができる。フェローは学生とは異なる目線と豊富な人生経験を基に社会情勢をとらえている。学生の解釈とフェローの解釈では大きく異なることが多く、解釈に至る過程などを対話の中で浮き彫りにしていく。部活動やサークルでは得られない視座に触れ、大局的な視野を養うことができる。また、フェローの考えやアドバイスを基に自分の内面も少しづつ変化していく。学生生活をする中で、フェローとの対話を聞いたことで今までとは少し違う経験をしている自分に気づく。学生は教科書や論文を読んで、その内容に自分の考えを寄せがちだが、自分の実体験として実際に起こったことに対して自分で考え、自分で判断することが自分の考えを作る唯一の方法だと認識させられる。
- 対話プログラムを実施していただき、ありがとうございました。私は今年度からの参加だったのですが、フェローと１対１でお話しできる非常に貴重な機会で、贅沢な時間を過ごさせていただきました。北大をご卒業後実際に、様々な方面・分野でご活躍されているフェローと話すことで、自身の将来への向き合い方、キャリアへの考え方の幅が広がり、可能性を感じれるようになりました。それぞれのフェローの個性やアドバイスに違いがあったのも面白かったです。これで終わってしまうのは寂しいですが、この経験を活かして精進していこうと思います。本当にありがとうございました。

（2）大学院教育コース

大学院教育コース基礎プログラム(前期)の実施状況について

№.		科目名	単位数
①	主要科目	大学院基礎科目Ⅰ（チーム学習の基礎）	2
②	主要科目	大学院基礎科目Ⅱ （チーム学習の実践）	2
⑤	選択科目	大学院基礎演習：アントレプレナーシップ	1

春ターム「大学院基礎科目Ⅰ」（チーム学習の基礎）実施状況

1. 実施日時

期間　　：2023 年 5 月 13 日(土)～6 月 18 日(日)
曜日(時限)　　：火曜日・木曜日（5・6 限目）に実施される各 1 授業
＊ただし、第 1 週目は土曜日第 7・8 週目は日曜日に実施（火曜日・木曜日授業ともに）
回数　　：1 回 2 コマ（3 時間）× 8 回
場所　　：高等教育推進機構 S 講義棟

2. 実施体制

科目責任者　　：谷博文（大学院工学研究院）
授業担当教員　：Marina Lomaeva (高等教育推進機構)、Dale Lee Whitfield (高等教育推進機構)
ティーチングアシスタント（TA）：
Eric Keba Lukueta（大学院工学院）、Das Mahapatra Gaurab（大学院工学院）、
Md Ishitiak Rashid（大学院生命科学院）

3. 授業目的・目標

（1）授業目的

新渡戸カレッジ基礎プログラム大学院教育コースは、グローバル社会で活躍するために必要不可欠となる「３＋１の力」（能力更新力、組織形成力、社会還元力、専門職倫理）を身につけたプロフェッショナルな人材の育成を目標としている。この目標達成のために受講生は、専門分野の異なる受講生と協働でプロジェクトに取り組む。本科目では、協働への貢献に必要となる受講生個々の能力を向上させるとともに、リーダーシップ、チームビルディング、ファシリテーションなど協働の成果創出に欠かせない能力を身につける課題を実施する。これらの能力の修得・向上を目指す知識とスキルには、「３＋１の力」に加え、創造的思考、批判的思考などの思考法、リーダーシップ、チームビルディング、ファシリテーション、プレゼンテーションなどが含まれる。

（2）授業目標

異なる大学院に所属し、様々な研究関心を探求している受講生らがチームを組み、 英語を<共通語>として課題に取り組むことを通して、

- 新渡戸カレッジ基礎プログラム大学院教育コースの教育理念と学修目標を理解する。
- コミュニケーションスキル、創造的思考、批判的思考、プレゼンテーションなど個の能力を向上させる。
- リーダーシップ、チームビルディング、ファシリテーションなど協働の成果創出に欠かせない能力を身につける。
- 異なる専門性を持つ受講生との協働を通じて、自らの専門性を相対化することで、その重要性への理解を深めるとともに、他の専門性の価値を認識する。
- 現在、また将来において、専門家として求められる倫理観を養い、自らの考え、行動が持つ社会へ

の影響と社会への貢献に対する意識を高める。

4. 評価方法

- 授業への積極的参加とチーム学習への貢献
- 提出が求められる課題（セルフプレゼンテーション・ポスター）
- 自己評価レポート
- Nitobe Portfolio (NPF)の有効活用：授業内容へのコメントと自己評価

5. 授業内容

	授業内容
第 1 週 (5/13)	Course Orientation、Goal Setting ● オリエンテーション ・コースの目的と授業の進め方 ・学習目標、チーム学習の重要性についての説明 ● 新渡戸カレッジでの自身の目標を明確にし、「３＋１の力」を意識する（中間、最終授業で自身で達成度をチェック） Creative Thinking 1 ● ショートレクチャー：Creative Thinking ・創造的とは如何なることか、その重要性とは何か ・Thinking out of the Box―常識を脱構築する想像力 ・Brainstorming とは何か、なぜ Brainstorming するのか、効果的な Brainstorming のために何が必要か ● ブレインストーミング ・Picture Brainstorming ・Thematic Group Brainstorming、“Two Boxes”；知っているブランド名と製品名を別々に列挙しそこから自由な発想で組み合わせて斬新な製品を提案
第 2 週 (5/16, 18)	Creative Thinking 2 & Presentation ● Creative Thinking ・Thematic Group Brainstorming、“Microsoft Imagine Cup ”；毎年開催されるコンペティションは、世界中の学生を集め、世界で最も困難な課題に、どのような提案が可能であるか Brainstorming して、Presentation を行う ● Good Presentation ショートレクチャー ・“Good Presentation”とは―“Understandable”、 “Persuasive”、 “Emotional” ・効果的なプレゼンテーションの構成とは何か ● マイクロソフト社のプロジェクトに関して、プレゼンテーションを改善
第 3 週 (5/23, 25)	Critical Thinking ● ショートレクチャー ・建設的な Discussion のために：コラボレーターとしての心構え、Facilitation という技法、Collaboration のための役割（Facilitator、Timekeeper、Recorder、etc.)。 ・Critical Thinking：Critical thinking とは如何なることか、その重要性とは何か ・Question to the Box―疑問を持つこと、アイディアを分析すること ・Data に基づく分析をすること ● チームディベートを通して Critical Thinking を実践 ・Should artificial intelligence (AI) tools, such as ChatGPT, be banned in universities? ・Should tuition fees be eliminated in schools & universities?

第 4 週 (5/30, 6/1)	Creative & Critical Thinking ● ショートレクチャー ・Creative Thinking と Critical Thinking の違いと相補関係について ・チームプロジェクト I（SDGs）のトピックに関して ● ショートレクチャー：リーダーシップ ・“Leadership as Relationship”―“Leader”と“Leadership”の違いと相補性 ・Leadership への関与と貢献のために何が必要か ● チームプロジェクト I、”Achieve gender equality and empower women and girls (SDG #5) by applying Technology” ・“Technology” 概念の脱構築と新たな可能性 ・Technology の新たな独自定義に基づく Gender Equality 実現のための Social Enterprise
第 5 週 (6/6, 8)	Leadership & Collaboration ● 前半：第 4 週で設定したプロジェクトの発表準備（自身のバックグランドをもとに他のメンバーとの共同プロジェクトの立案） ● 後半：チーム毎のプロジェクト発表
第 6 週 (6/13, 15)	Project Planning ● チームプロジェクト II、”Develop a Project to Promote International Collaboration at Hokkaido University” ・各チームは、「2040 年に向けた北海道大学の国際戦略」の目標に基づき、北海道大学における国際連携の向上をテーマとした視点（建築、科学・情報技術、教育など）を選択した ・各チームは、選んだ視点のメリットとデメリットを批判的に検討し、それに基づいた創造的なビジョンを提案した
第 7・8 週 (6/18)	Final Presentation & Reflection ● 最終発表（プレゼンテーション+Q&A 15 分） ・第 6 週で各チームが選んだトピックに基づきチーム・プレゼンテーション ・メンター（火曜授業：OFOSU-TWUM Eric、株式会社日立製作所；木曜授業：中島 徹、15th Rock）による講評 ● 振り返りと今後の課題 ・科目全体を通して学んだこと・学べなかったこと・今後の課題について、各自が提出する「ターム自己評価レポート」の問いと照らし合わせながら、ディスカッションを実施 メンターフォーラム（一部は一般公開）（内容の詳細は 6 に記載） ● メンター講演会 ・受講生のキャリア形成に役立つ、会社や組織におけるプロジェクトやグローバルな活動、 キャリアェチェンジをしている場合にどう考えてそのような結論に至ったか、反省点など具体的な経験をもとに各メンターが講演 ● メンター交流会 ・関心のあるメンターの部屋（対面）に受講生が参加し、対話をすることでキャリア意識を醸成

6. メンターフォーラム

メンター制度を講義の中に組込み、受講生のキャリア意識の涵養と社会的視野の拡大を図っている。メンターには本学大学院の OB/OG や北海道内で活躍している人材だけでなく、新渡戸スクールを修了した社会人を招へいし、受講生の身近なロールモデルとしての役割を担っていただいた。フォーラムは、各メンターに短い講演を行ってもらう「メンター講演会」とメンター毎に少人数グループに分かれて具体的・個人的な質疑応答を 3 セッション行う「メンター交流会」の 2 部構成となっている（スケジュールならびに参加メンターは下表の通り）。講演を参考にして交流会で議論するメンターを選び、より深い議論をすることを意図したプログラムとなっており、受講生のキャリア意識の涵養を目指している。なお、メンター講演会は一般公開されている（10. 参考資料）。

6 月 18 日(日)	スケジュール
13:30-15:30	メンター講演会（対面): 一般公開
15:45-17:00	メンター交流会（対面）

2023 年 6 月 18 日　新渡戸カレッジ メンター 一覧		
氏名（敬称略）	所属	出身大学
中島　徹	15th Rock Spirete Inc.	北海道大学 大学院工学研究科（修士）
萩野 泉	株式会社電通クロスブレイン	北海道大学 大学院保健科学院（博士）
OFOSU-TWUM Eric	株式会社日立製作所	北海道大学　大学院総合化学院（博士）
藤井 幸大	サンマルコ食品株式会社	アカデミーオブアート大学（学士）
黒田 垂歩	株式会社 Newsight Tech Angels	北海道大学　大学院薬学研究科（博士）

7. 成績分布（略）

全受講生 39 名（火：18 名、木：21 名）

8. 実施状況

（1）対面による授業の実施

今学期はコロナに関する制限が撤廃されたため、対面授業を実施した。受講生はホワイトボードを利用し、前年度の授業で利用されていた個別の透明なシールドを使用せずに会話をすることが許可された。

（2）創造的思考（Creative Thinking）と批判的思考（Critical Thinking）の重要性と相補性

独創的・革新的な研究の実施には、立案・計画の段階だけではなく、調査・研究の過程を通じて批判的思考と創造的思考を循環的に駆使することが必要である。大学院での調査・研究における創造的思考と批判的思考の重要性について理解させ、必要となる知識と技法を伝えた。日本の教育機関において軽視されがちな創造的思考の重要性に受講生の注意を向け、批判的思考と相補的に駆使できる能力の涵養を目指した課題に取り組んだ。

（3）「関係」としてのリーダーシップ

リーダーシップは、リーダーの資質と同義ではなく、それを包括する大きな概念であり、リーダーを中心とした関係として捉える必要がある。リーダーになることは、リーダーシップに貢献する絶対要件ではなく、リーダーでなくともリーダーシップには貢献しなくてはならない。この理解の上に立って、リーダーシップにどのような貢献ができるか、そのために何が必要かを実際のプロジェクトに取

り組む過程で考えさせた。

(4) 英語による授業実施

新渡戸カレッジでは、共通の目標に向かってチームで協働する授業を英語で行っている。実践的な英語力の修得に繋がることは事実であるが、これを目的とするものではない。英語が事実上の国際共通言語になっているためであり、加えて英語を母語としない受講生に、言葉や文化の面においてマイノリティの立場になることを経験させ、多様性に対する高い意識と異なる意見に対する高い順応性を身につけさせることを目的としている。

(5) メンターフォーラム

メンター講演会では、『キャリアパスを考える』のテーマで、5 名のメンターに、自身のキャリアや実社会での経験に基づくアドバイス等について講演いただいた。受講生は、多様な分野でグローバルに活躍する先輩たちの話に刺激を受け、熱心に耳を傾けていた。続く交流会では、受講生は大学における研究活動および今後本格化する就職活動等について積極的に質問し、アドバイスを受けることができた。メンターフォーラムを通して、大学院での学修・研究活動への取り組み姿勢と将来のキャリアデザインについて、貴重な洞察を得ることができた。

9. 課題・改善点など

(1) 最終発表において、火曜と木曜の授業でのメンターフィードバックには異なる傾向が見られた。今後は外部講師への期待を事前に明確に伝え、フィードバックの質と一貫性を保つためのガイドラインを設計したいと考える。

(2) 授業中および NPF での観察によると、グループワーク中の学生間のコミュニケーションにいくつかの問題が確認された。これらの問題は教員のサポートを受けて解決された。それにも関わらず、新渡戸カレッジの学生は多様な文化的背景を持っているので、将来このようなコミュニケーションの問題を予防するために、受講生の文化的多様性に関する意識を高めることが不可欠である。そのため、2024 年に更新予定の「プレプログラム」に異文化コミュニケーションに関する内容を追加することは価値があると考えられる。さらに、受講生から受け取ったフィードバックによれば、このような文化的知識は授業の内容として非常に有益であるとの意見が多く寄せられた。

10. 参考資料

メンター講演会とメンター交流会の様子、メンターフォーラムポスター

夏ターム「大学院基礎科目 II」（チーム学習の実践）実施状況

1. 実施日時

期間　　：2023 年 6 月 20 日(火)～7 月 27 日(木)
曜日(時限)　　：火曜日・木曜日（5・6 限目）に各 1 クラス実施
　　＊ただし、第 5 ・ 6 週は土曜日に実施（火曜日・木曜日クラスともに）
回数　　：1 回 2 コマ（3 時間）× 8 回
場所　　：高等教育推進機構 S 講義棟

2. 実施体制

科目責任者　　：谷博文（大学院工学研究院）
授業担当教員　　：橋本勝文（大学院工学研究院）、横田義史（大学院経済学研究院）
授業支援教員　　：Marina Lomaeva (高等教育推進機構)、Dale Lee Whitfield (高等教育推進機構)
ティーチングアシスタント（TA）：
　　Eric Keba Lukueta（大学院工学院）、Das Mahapatra Gaurab（大学院工学院）、
　　Md Ishitiak Rashid（大学院生命科学院）

3. 授業目的・目標

（1）授業目的

新渡戸カレッジ基礎プログラム大学院教育コースは、グローバル社会で活躍するために必要不可欠となる「３＋１の力」（能力更新力、組織形成力、社会還元力、専門職倫理）を身につけたプロフェッショナルな人材の育成を目標としている。この目標達成のために学生は、専門分野の異なる学生と協働でプロジェクトに取り組む。本科目では、「大学院基礎科目 I」で体得した知識やスキルを応用し、具体的な課題解決のプロジェクトに取り組むことによって、プロジェクトマネジメントの基礎的知識とスキルを身につける。

（2）授業目標

- プロジェクトマネジメントの重要性を理解する。
- プロジェクトマネジメントの基礎知識とスキルを体得し、現在大学院で実施している研究も含めて応用できる。
- チームプロジェクトの実行を通して、「大学院基礎科目 I」で体得・向上させた能力やスキルに関する応用力を高める。

4. 評価方法

- 授業への積極的参加とチーム学習への貢献
- プロジェクトの発表
- 自己評価レポート
- Nitobe Portfolio (NPF)の有効活用: NPF における授業内容へのコメントと自己評価

5. 授業内容

各部局から派遣された授業担当教員が講義を行う。新渡戸カレッジ特任教員は授業担当教員と協力し、授業の設計、教材作成および授業支援を行う。

	授業内容
第 1 週 (6/20、 6/22)	専門職倫理 ● 外部講師による専門職倫理のテーマ提供 ・ディスカッションとプレゼンテーション；当事者意識と果たすべき責任について ・外部講師 ・ 火曜授業：眞嶋俊造氏、東京工業大学「War and Ethics: Research, Development, and Dual Use」 ・ 木曜授業：八代嘉美氏、藤田医科大学・慶應義塾大学「The Ethics of Regenerative Medicine」
第 2 週 (6/27、 6/29)	オリエンテーション、プロジェクトマネジメント講義および課題プロジェクト 1 の着手 ● オリエンテーション ・コースの目的と授業の進め方 ・授業スケジュール ・学習目標、特にプロジェクトマネジメントを本タームで取り上げる意図について説明 ● プロジェクトマネジメント講義 1 ・プロジェクトの定義と過程 ・プロジェクトチャーター(プロポーザル) ・ステークホルダー分析: Stakeholder の定義と Stakeholder mapping ・Project goal、Scope、Deliverables ・課題プロジェクト 1：How Can We Solve an Urban Brown Bear Problem in Sapporo?（7.実施状況（3）参照）
第 3 週 (7/4、7/6)	プロジェクトマネジメント講義および演習、課題プロジェクト 1 の継続 ● プロジェクトマネジメント講義 2 ・タスクマネジメントとタイムマネジメント；Work Breakdown Structure (WBS)、Network diagram、Gantt chart ● 課題プロジェクト 1 の計画発表 ・プロジェクトチャーター（プロポーザル）に基づいたプロジェクト計画発表 ・WBS、Gantt chart や Risk register などのツールを使ったスケジュールやリスク対策の説明を含む口頭発表 ● 次週以降に取り組む新しいプロジェクトの簡単な導入
第 4 週 (7/11、 7/13)	課題プロジェクト 1 のプレゼンテーションおよび課題プロジェクト 2 の着手 ● 課題プロジェクト 1 の発表 ・プロジェクトチャーター(プロポーザル)に基づいたプロジェクト計画発表 ・WBS、Gantt chart などのツールを使ったスケジュールやリスク対策の説明を含む口頭発表 ● 課題プロジェクト 2 ：“Campus for Camp” - What if refugees come to Sapporo?（シリアとウクライナからの避難民を事例に） ・プロジェクトの内容説明 ・トピック（「住居」、「食事」、「教育」）の選定 ・プロジェクトマネジメントの知識とツールを使った演習
第 5・6 週 (7/15)	課題プロジェクト 2 の継続 ● プロジェクトマネジメント講義の振り返り ● チーム毎に課題プロジェクト 2 の継続
第 7 週 (7/18、 7/20)	課題プロジェクト 2 の最終仕上げ ● チーム毎に課題プロジェクト 2 の継続、プロジェクトプロポーザルの完成 ● プロジェクトプレゼンテーションに向けた準備および発表練習 ● プロジェクトプレゼンテーションのリハーサル
第 8 週 (7/25、	課題プロジェクト 2 のプレゼンテーション、メンターによる講評・レクチャー、振り返り ● 課題プロジェクト 2 の発表（プレゼンテーション+ Q&A　計 15 分）

7/27)	● 最終プレゼンテーションの一般公開 　　● 7/25 FII 最終授業(火）4 名 　　● 7/27 FII 最終授業(木）11 名（内ポイント付与対象学部生 6 名） ● 外部講師（小川太郎、株式会社ファイターズ スポーツ＆エンターテイメント）が学生の最終発表に対するフィードバックを行い、プロスポーツ界におけるプロジェクトの管理・実施の経験についてミニレクチャーを行われた。 ● 振り返りと今後の課題 ・ターム全体を通して学んだこと（学べなかったこと)、今後の課題について、各自提出する「自己評価レポート」の問いに照らしながら振り返り

6. 成績分布（略）

全受講生 39 名（火：18 名、木：21 名）

7. 実施状況

（1）専門職倫理

新渡戸カレッジが実施する専門職倫理に関する授業は、以下のような目的で実施されている。

① 学生が自らの研究分野を超えて、知識と関心の多様性を尊重することが専門家としての第一歩であり、違いの相乗から生まれる共通の倫理的問題について議論する。

② 全学プログラムであることを念頭に研究者の経験と知識を活用する。

今回は以下の内容で外部講師に依頼（9. 参考資料）

・War and Ethics: Research, Development, and Dual Use；眞嶋俊造氏（東京工業大学）（6 月 20 日（火））

・The Ethics of Regenerative Medicine；八代嘉美氏　（藤田医科大学・慶應義塾大学）（6 月 2 2 日（木））

（2）プロジェクトマネジメント

大学院基礎科目 I は、創造的思考、批判的思考、リーダーシップや専門職倫理といった、チームで協働するための個々の能力を重点的に扱ってきた。大学院基礎科目 II は、これらの能力を前提とし、チームでプロジェクトを効果的・効率的に遂行するためのプロジェクトマネジメント(PM)を取り上げ、課題プロジェクトを実施しながら体得する方針を取っている。時間的な制約もあり、PM のごく初歩的な部分のみを取り上げ、様々な活動に応用できる要素に絞って提供した。PM を学修する理由と狙いは以下の通りである。

① Project-based learning（PBL）形式の講義への対応；新渡戸カレッジ大学院教育コースでは PBL 形式の講義を実施しており、チームでプロジェクトを実行するための体系的な知識と経験を身につける必要がある。

② 修士研究活動への応用；研究をはじめとする課題解決はプロジェクトであり、プロジェクトをどのように計画し、遂行するのかを経験しておくことは、大学院生の日々の研究活動においても必要不可欠である。

③ 社会問題解決への応用；複雑な構造をしている現在の社会問題を解決するには、倫理観に基づき、ステークホルダーやリスク管理に注意を払いながらプロジェクトを実行する必要がある。

④ 世界標準；学生が将来グローバル社会で活躍するために、現時点で世界標準であるプロジェクトマネジメントの手法を学んでおくことは重要な経験となる。

（3）課題プロジェクト 1；How Can We Solve an Urban Brown Bear Problem in Sapporo?

課題プロジェクト 1 のトピックは、近年札幌市で問題となっている、居住域へのヒグマの頻繁な出没に対して、オリジナリティのある解決策を提示することであった（この課題は 2021 年から行っている)。このプロジェクトを企画立案するにあたっては、基礎科目 I で学んだ、創造的・批判的思考、リーダーシップ、コラボレーションなどを活かしながら、そのプロジェクトを確実かつ効率的に実施できるように、基礎科目 II で学んでいるプロジェクトマネジメント（PM）の手法を適用した。課題プロジェクト 1 の立案は PM の解説講義と同時進行でなされ、学んだことをそのままプロジェクトに応用

する方法が採られた。4 週目に行なわれたチーム毎のプレゼンテーションは、PM の知識とツールをどのように自らの企画立案の中に取り入れたかを示しながら行われた。

（4）課題プロジェクト 2；Campus for Camp -A Refugee Response Plan in Sapporo-

課題プロジェクト 2 では、課題プロジェクト 1 を通して学んだ PM の知識とツールをさらに有効に使うことを目指した。プロジェクトのトピックは、札幌に難民が押し寄せ、北大を難民キャンプとして開放するものであった。3 年間の滞在期間に対して、「住居」、「食事」、「教育」の 3 つのトピックを提示し、その中から任意の 1 つを各チームで選んだ。各チームでは、滞在期間中の最終目標を設定し、その目標達成に向けて PM を活用した計画づくりを行った。難民が滞在する期間中に必要となる作業工程を洗い出し、ディスカッションを通してそれを洗練させていく過程では、多様な価値観や知識が必要とされた（この課題は 2018 年度から継続して採用している）。

8 週目のプレゼンテーションでは、外部講師（小川太郎氏、株式会社ファイターズ スポーツ＆エンターテイメント）を招いて講評を行った。また、小川氏が日欧のプロスポーツ界で PM を務めた経験をもとにミニレクチャーを行った（9. 参考資料）。

（5）NPF の活用

昨年度秋タームより、学生の NPF 活用を促進している。本年度春夏タームも引き続き NPF 活用を促進しており、NPF を介しての指導や、学生の NPF 活用度合いを評価対象としている。

（6）自己評価レポート

大学院基礎科目 II（夏ターム）は、大学院基礎科目 I（春ターム）で修得した知識や技能を基に、PM の知識を活用してチームでプロジェクトを実施する。このためレポート課題も、大学院基礎科目 I・II の学修を合わせた自己評価を問う内容となっている。また、基礎プログラム全体を通して学生が何を学ぼうとしたか、それがどの程度達成されたか、さらに将来への展望について論述する総括的な問いも含めた。

8. 課題・改善点など

（1）基礎プログラム全体を通して NPF におけるチームワーク機能の利用を促進している。本コースのように数週間にわたって 1 つのプロジェクトに取り組む場合においても、この機能を利用することで、前回までの議論や発表準備の進捗をいつでも確認することができ、チーム毎に授業外でもプロジェクトを進めることができた。

（2）対面授業を原則としているものの、履修生 1 名が海外へ野外調査に行くこととなったため、そのチームでは数週間にわたり Zoom と対面のチームワークを併用したハイブリッド形式で行われた。当該履修生はハイブリッド形式について一部の音声・映像のトラブルを除き特に大きな問題はなかったと言っていたが、教員にはオンライン参加の学生がグループワークから孤立しているように見受けられた。そのため、Miro のようなハイブリッド型授業ツールの導入などスムーズなグループワークのためのガイドラインを設定し、これに基づきハイブリッド形式で授業に参加する履修生を支援したいと考えている。

9. 参考資料

専門職倫理のポスター（本学学生・教職員公開）、最終授業（一般公開）の宣伝ポスターおよび学生の発表の様子（木曜クラス）

夏ターム「大学院基礎演習：アントレプレナーシップ」実施状況

1. 実施日時

期間　　：2023 年 8 月 4 日(金)～5 日(土)
曜日(時限)　：集中
回数　　：全 2 回
場所　　：北海道大学 薬学部 第一講義室

2. 実施体制

科目責任者　　：前仲勝実（大学院薬学研究院）
新渡戸カレッジ責任教員：谷博文（大学院工学研究院）
授業担当教員　：鷲見正人（大学院薬学研究院）

3. 授業目的・目標

（1）授業目的

現在の急速に発展している世界では、さまざまな分野において企業間で激しい競争が繰り広げられている。その中で、課題を解決するための新しい案を作り出す能力は不可欠なスキルである。また、チームワークで協調し、より良い結果を提供する能力はすべての企業に必要なスキルである。本授業では学生に、解決策を視覚化し、チームで協働する方法を提供する。特にヘルスケア分野での世界で最も影響力のある課題について解決に取り組む。また本講義では、ビジネスモデルキャンバスの概念も紹介する。本講義を通して学生は、将来のスタートアップや、企業での新しい製品・サービスの立ち上げの際に使用されるビジネスモデルを視覚化することが可能になる。

（2）授業目標

学生は以下の能力を身につける。

- ヘルスケア業界の最新トレンドについての理解
- ビジネスモデルと計画を視覚化するためのツールとしてビジネスモデルキャンバスの理解
- レゴシリアスプレイを利用して、アイディアや解決策の視覚化
- さまざまなバックグランドを持つチームメンバーと協力して、さまざまな解決策を立案
- 製薬業界のビジネスと創薬のプロセスの基本的な理解
- コミュニケーションスキルを高め、アイディアを異なる方法で提示
- 世界中のさまざまな国の研究者仲間と強力なネットワークを構築

4. 評価方法

出席記録と授業での活動に基づいて判断し、大学の GPA 成績に応じて配分する。

5. 授業内容および実施状況

大学院共通授業科目（一般科目）：複合領域と Hokkaido サマー・インスティテュート「創薬科学特別講義 II（バイオ・ヘルスケアアントレプレナーシップ・ワークショップ）」として開講しており，以下の講義と実践的なワークショップで構成されている。

1. はじめに
2. 創薬開発のケーススタディ

3. 医療機器開発のケーススタディ
4. 起業家精神の紹介とスタートアップ企業のケーススタディ
5. ビジネスモデルキャンバスの紹介
6. レゴシリアスプレイ法の紹介
7. レゴシリアスプレイ法によるアイデア創出ワークショップ
8. グループワーク：ビジネスモデルの立案
9. グループワーク：アイデアとプレゼンテーションの作成
10. グループワークの最終発表

履修登録者：9 名（新渡戸カレッジ生以外）

6. 受講者および成績

受講者：なし

7. 参考資料

授業案内ポスターと授業の様子。

令和 5 年度(2023)北海道大学新渡戸カレッジ
大学院教育コースオナーズプログラム(前期)の実施状況について

No.		科目名	単位数
①	主要科目	大学院発展科目Ⅰ（課題解決）	2
②	選択科目	大学院発展科目Ⅱ（問題発見）	2
③	選択科目	大学院特別演習：デモーラ（企業課題解決演習）	1

春ターム「大学院発展科目Ⅰ」（課題解決）実施状況

1. 実施日時

期間　　：2023 年 4 月 19 日(水)～6 月 7 日(水)
曜日(時限)　：水曜日（5・6 限目）
　　＊ただし、 第 6、7 週は 5・6・7 限目に実施
回数　　：1 回 2 コマ（3 時間）× 8 回
場所　　：高等教育推進機構 S5 教室

2. 実施体制

科目責任者　：谷博文（大学院工学研究院）
授業担当教員　：Branislav Hazucha (大学院法学研究科)、Johan Richard Edelheim (大学院メディア・コミュニケーション研究院)
授業支援教員　：Marina Lomaeva (高等教育推進機構)、Dale Lee Whitfield (高等教育推進機構)
ティーチングアシスタント(TA)：
　　Das Mahapatra Gaurab（大学院工学院）、Md Ishitiak Rashid（大学院生命科学院）

3. 授業目的・目標

（1）授業目的

本科目では、専門性の異なる学生がチームを組み、それぞれの専門性の強みを活かした協働を通して、与えられた課題に対して解決策を提案する。原因、先行事例の調査や論拠となるデータを課題のコンテキストに即して分析し、異なるアイデアを統合して、独創的な解決案を創出する。また、ビジネスプラン等の検討を通して解決策が実行可能になるかを考え、対ステークホルダーを想定したプレゼンテーションを行う。

（2）授業目標

- 具体的な課題の解決に向けた生産的協働のためのチームマネジメント（役割の明確化と実践）ができる。
- 提示された課題に対して、先行事例、類似事例に関する適切な二次資料の収集および課題の背景とコンテキストに照らした批判的な比較分析ができる。
- 解決策の提案に必要な調査・分析手順を設計し、それに伴う時間管理ができる。
- 得られたデータや情報とそれらの論理的解釈に基づいた説得力のあるプレゼンテーションができる。
- アントレプレナーシップ（起業家精神）について理解を深める。

4. 評価方法

- 授業への積極的参加とチーム学習への貢献
- チームによるプレゼンテーション(2 回：中間、最終プレゼンテーション)
- Nitobe Logbook に記す学修記録と自己分析
- Nitobe Portfolio (NPF)の有効活用: 授業へのフィードバックコメントやチームワーク機能
- ターム最終自己評価レポート

5. 授業内容

	授業内容
第 1 週 (4/19)	ガイダンス、教員による導入講義 ● 授業の目標、評価方法などの説明、学生が取り組む社会的課題の提示 ● 持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)に基づき、担当教員と特任教員の協議により課題を決定 ● 担当教員によるテーマに関する導入的な講義
第 2 週 (4/26)	教員による導入講義・課題解決のためのプロジェクトプランニング(1) ● 引き続き担当教員によるテーマに関する講義 ● 学生は、講義で提示された背景の中から 1 つの課題を選択 ● 選択した 3 課題に対する調査の開始；最終的に 1 つの課題を選択し、大学院基礎科目 II で学修したプロジェクト・マネジメントに基づき、調査プロポーザルの作成を開始
第 3 週 (5/10)	課題解決のためのプロジェクトプランニング(2) ● 前回に引き続き、選択した課題のプロポーザル作成 ● 教員は、授業中のプレゼンテーションの進捗状況に基づいて、学生に助言し、フィードバックをする
第 4 週 (5/17)	プロポーザルプレゼンテーション（中間発表） ● プロポーザルプレゼンテーション資料の作成 ● 選択した課題の解説とその解決策の提示までのプロジェクトをまとめた各チームのプロポーザルプレゼンテーション
第 5 週 (5/24)	プロジェクトの実行(1) ● プレゼンテーションに対する教員やクラスメイトのフィードバックコメントに基づくプロポーザルの改善 ● プロポーザルにしたがった調査の推進と解決案の検討；インターネットなどのリソースを活用した文献調査、教員のアドバイスに基づくアイデア出しと分析
第 6 週 (5/31)	プロジェクトの実行(2) ● プレゼンテーションに対する教員やクラスメイトのフィードバックコメントに基づくプロポーザルの改善 ● プロポーザルにしたがった調査の推進と解決案の検討；インターネットなどのリソースを活用した文献調査、教員のアドバイスに基づくアイデア出しと分析
第 7 週 (5/31)	プロジェクトの実行(3)、 発表リハーサル ● 翌週の最終プレゼンテーションのリハーサル ● 最終プレゼンテーションにむけて解決案をまとめ、リハーサルのフィードバックに基づいてスライドを作成
第 8 週 (6/7)	最終プレゼンテーションと振り返り ● 最終プレゼンテーション；1 チーム 20 分(12 分発表+8 分質疑応答) ● 外部講演者（Sajjad Kamal Shuvro 氏、Floatmeal）が学生のプレゼンテーションに対す

	るコメントを述べ、新渡戸スクールでの経験や Floatmeal での問題解決の経験についてミニレクチャーを行った（9. 参考資料）

6. 成績分布（略）

全受講生 15 名

7. 実施状況

（1）課題テーマと実施プロジェクト

テーマの大枠を「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs)」と定め、 関連するテーマを担当教員の専門性に基づいて担当教員と特任教員で話し合い決定している。本タームは、SDGs17 の目標より学生が関心のある目標を選択して課題を調べ、解決案とビジネスアイディアを検討した。選択した SDGs のトピックとプロジェクト名は以下の通りである。

- SDG 2 (Zero Hunger): Addressing food insecurity in Kenya through composting initiatives to enrich the soil.
- SDG 5 (Gender Inequality): Addressing the gender bias in job recruitment through a system that anonymizes applicants' data and facilitating a blind hiring process.
- SDG 8 (Decent Work and Economic Growth): Addressing the issue of *karoshi* (death from overwork) in Japanese work environments through a consultation service that prioritizes improving employees' mental health.
- SDG 11 (Sustainable Cities and Communities): Addressing the issue of low recycling rates and utilization of recycled materials in Guangzhou, China, through a recycle point bank system and reuse of recycled materials strategy.

（2）担当教員による講義

授業では、起業家精神の内容を 2021 年度から加え、課題解決を目的とすると同時に解決策の実効性に関してビジネスの視点をもって考えることの重要性や担当教員自身の起業の経験について話していただいた。受講生は課題に対して技術的な解決策だけではなく、その解決策をどのように社会に波及させるかを検討することができた。

（3）チームディスカッションとプロポーザルプレゼンテーション

第 3 週までは、大学院基礎科目 II で学修したプロジェクト・マネジメントを用いて、課題解決策を提示するまでのプロジェクトを計画した。それぞれのテーマに関して、その背景を理解し、到達目標を決めるプロポーザルを作成した。第 4 週目でクラス全体に発表する機会をつくり、他チームの学生や担当教員からフィードバックコメントを受け、プロポーザルを改善する方法を採用した。

（4）外部講演者の参加

最終発表に外部講師（Sajjad Kamal Shuvro 氏）が参加したことは、学生たちにとって非常に有益であった。Kamal 氏は新渡戸スクールの修了生であり、受講生のプロジェクトに深く共感し、各チームに対して適切かつ貴重なフィードバックや質問を提供した。 Kamal 氏はまた、新渡戸カレッジの修了生および在校生と共にスタートアップ企業「Floatmeal」を立ち上げ、持続可能な食糧生産を目指す起業家としても活動している。Kamal 氏からのミニレクチャーを聴講することによって、履修生はこのコースで学んだ知識を社会問題解決にどのように応用できるか、具体事例を通じて理解することがで

きた。

（5）NPF

学生は基礎プログラムから NPF を利用して授業を進めている。チームページや教員からのフィードバックコメントの活用に見られたように、担当教員とのコミュニケーションやチームでプロジェクトを取り組む際の支援において効果を発揮した。

8. 課題・改善点など

春タームの授業における大きな変化は、1 つのクラスに 2 人の担当教員（Hazucha 先生と Edelheim 先生）をおいたことである。これは専門性の異なる複数の教員による、より多くの視点から学生の指導やフィードバックを行うことで、さらに高い教育効果をもたらすと同時に、担当教員の負担を軽減する新しい試みでもある。2 名はいずれも多様な経歴と専門知識を持っており、そのフィードバックは、学生のプロジェクトの大幅な改善につながった。一方で、両者のコメントの相違に、学生が混乱する場面も見受けられた。今後、プレゼンテーションのスタイルや、授業の成果に対する期待について、担当教員と事前に共通の基準を確認し合うとともに、担当教員から異なる意見やコメントが出た場合の受けとめ方や対応の仕方について、学生へのフォローアップを行う必要があると考えられる。

9. 参考資料

最終授業（学内公開）の宣伝ポスターと担当教員からのアドバイスを受けている様子

春・夏ターム「大学院特別演習：デモーラ（企業課題解決演習）」実施状況

1. 実施日時

期間　　：2023 年 4 月 8 日(土)～5 月 27 日(土)（1st バッチ）
　　：2022 年 8 月 5 日(土)～9 月 23 日(土)（2nd バッチ）
曜日(時限)　：集中
回数　　：全 5 回（各バッチ）
場所　　：北海道大学フード&メディカルイノベーション国際拠点、オンライン併用

2. 実施体制

科目責任者　　：金子純一（大学院工学研究院）
新渡戸カレッジ責任教員：繁富香織（高等教育推進機構）
授業担当教員　：椎名希美（産学・地域協働推進機構）

3. 授業目的・目標

（1）授業目的

本授業は、フィンランド発祥の DEMOLA の教育プログラムを活用して、アントレプレナーシップ/イントレプレナーシップの思考・行動アプローチを実践的に学び、体得することをめざすプログラムである。学生は、2 ヶ月間、フード＆メディカル国際拠点で開催されるオープンイノベーション手法のワークを受けながら、学生と企業人で構成するチームの一員として、企業が抱えるビジネス上の課題の解決モデルを組み立てる。

（2）授業目標

- DEMOLA プログラムへの参加を通して、ビジネスモデルの設計・具体化・検証のサイクルを学び、その加速化によって、イノベーションを起こすために求められる思考と行動の習慣を身につける。
- 実際の企業の課題を解決に導く、精度の高いビジネスアイディアを立案するアプローチを学ぶ。
- 企業の課題が根ざしている社会的な構造と、世界的規模で直面する未来のトレンドを理解し、よりインパクトの大きいビジネスモデルに磨きあげるメソッドを体得する。
- 知的財産権の価値に気づき、管理・運用するスキルを学ぶ。

4. 評価方法

授業への参加・貢献度（発表・ディスカッション等）：40%、課題提出（プラン最終版）：30%、最終プレゼンテーション：30%

5. 授業内容および実施状況

本タームの参加企業：1 社（1st バッチ）、1 社（2nd バッチ）
学生の参加者（1st バッチ）：8 名
（内訳；北海道大学 2 名、東京大学 1 名、東京理科大 1 名、岡山大学 1 名、小樽商科大学 1 名、北海道情報大学 1 名）
学生の参加者（2nd バッチ）：8 名
（内訳；北海道大学 5 名、鹿児島大学 1 名、名城大学 1 名、小樽商科大学 1 名）

学生と企業人でチームを構成し、企業が抱えるビジネス上の課題解決の提案と、参加企業の前での最終プレゼンを行った。提案されたアイディアを課題提出企業が採用し、ライセンス契約をするケースもあった（2nd バッチは現在進行中）（本年度 1st バッチまでのライセンス契約数；43 課題中 32 課題）。

6. 受講者および成績

1st、2nd バッチ

受講者：なし

7. 参考資料

1st、2nd バッチ参加企業と課題

令和５年度（2023）北海道大学新渡戸カレッジ
大学院教育コース基礎プログラム(後期)の実施状況について

秋ターム「大学院基礎科目 I」（チーム学習の基礎）実施状況

No.		科目名	単位数
①	主要科目	大学院基礎科目Ⅰ（チーム学習の基礎）	2
②	主要科目	大学院基礎科目Ⅱ （チーム学習の実践）	2
③	選択科目	大学院基礎演習：セルフキャリア発展ゼミ（大学院）	1

1. 実施日時

期間　　：2023 年 11 月 3 日(金)～12 月 16 日(土)
曜日(時限)　　：木曜日（5・6 限目）＊ただし、第 1 週目は祝日、第 7・8 週目は土曜日に実施
回数　　：1 回 2 コマ（3 時間）× 8 回
場所　　：高等教育推進機構 S 講義棟

2. 実施体制

科目責任者　　：谷博文（大学院工学研究院）
授業担当教員　　：Marina Lomaeva (高等教育推進機構)、Dale Lee Whitfield (高等教育推進機構)
ティーチングアシスタント（TA)：
Eric Keba Lukueta（大学院工学院)、Artem Suslov（大学院文学院）

3. 授業目的・目標

(1) 授業目的

新渡戸カレッジ基礎プログラム大学院教育コースは、グローバル社会で活躍するために必要不可欠となる「３＋１の力」(能力更新力、組織形成力、社会還元力、専門職倫理）を身につけたプロフェッショナルな人材の育成を目標としている。この目標達成のために受講生は、専門分野の異なる受講生と協働でプロジェクトに取り組む。本科目では、協働への貢献に必要となる受講生個々の能力を向上させるとともに、リーダーシップ、チームビルディング、ファシリテーションなど協働の成果創出に欠かせない能力を身につける課題を実施する。これらの能力の修得・向上を目指す知識とスキルには、「３＋１の力」に加え、創造的思考、批判的思考などの思考法、リーダーシップ、チームビルディング、ファシリテーション、プレゼンテーションなどが含まれる。

(2) 授業目標

異なる大学院に所属し、様々な研究関心を探求している受講生らがチームを組み、 英語を<共通語>として課題に取り組むことを通して、

- 新渡戸カレッジ基礎プログラム大学院教育コースの教育理念と学修目標を理解する。
- コミュニケーションスキル、創造的思考、批判的思考、プレゼンテーションなど個の能力を向上させる。
- リーダーシップ、チームビルディング、ファシリテーションなど協働の成果創出に欠かせない能力を身につける。
- 異なる専門性を持つ受講生との協働を通じて、自らの専門性を相対化することで、その重要性への理解を深めるとともに、他の専門性の価値を認識する。
- 現在、また将来において、専門家として求められる倫理観を養い、自らの考え、行動が持つ社会へ

の影響と社会への貢献に対する意識を高める。

4. 評価方法

- 授業への積極的参加とチーム学習への貢献
- 提出が求められる課題（セルフプレゼンテーション・ポスター）
- 自己評価レポート
- Nitobe Portfolio (NPF)の有効活用：授業内容へのコメントと自己評価

5. 授業内容

	授業内容
第 1 週	Course Orientation、Goal Setting ● オリエンテーション ・コースの目的と授業の進め方；学習目標、チーム学習の重要性についての説明 ● 新渡戸カレッジでの自身の目標を明確にし、「３＋１の力」を意識する（中間、最終授業で自身で達成度をチェック） Creative Thinking 1 ● ショートレクチャー：Creative Thinking ・創造的とは？その重要性は？；Thinking out of the Box―常識を脱構築する想像力；Brainstorming とは？なぜ Brainstorming するのか？効果的に行うために何が必要か？ ● ブレインストーミング ・Picture Brainstorming；Thematic Group Brainstorming、“Two Boxes”；知っているブランド名と製品名を別々に列挙しそこから自由な発想で組み合わせて斬新な製品を提案
第 2 週	Creative Thinking 2 & Presentation ● Creative Thinking ・Thematic Group Brainstorming “Microsoft Imagine Cup ”；毎年開催されるコンペでは、世界中の学生を集め、世界で最も困難な課題にどのような提案が可能であるか Brainstorming して、Presentation を行う ● Good Presentation ショートレクチャー ・“Good Presentation”とは―“Understandable”、“Persuasive”、“Emotional”；効果的なプレゼンテーションの構成とは何か ● マイクロソフト社のプロジェクトに関して、プレゼンテーションを改善
第 3 週	Critical Thinking ● ショートレクチャー ・建設的な Discussion のために：コラボレーターとしての心構え、Facilitation という技法、Collaboration のための役割（Facilitator、Timekeeper、Recorder、etc.）；Critical Thinking：Critical thinking とは如何なることか、その重要性とは何か；Question to the Box―疑問を持つこと、アイディアを分析すること；Data に基づく分析をすること ● チームディベートを通して批判的思考を実践 ・Should artificial intelligence (AI) tools, such as ChatGPT, be banned in universities?；Should tuition fees be eliminated in schools & universities?
第 4 週	Creative & Critical Thinking ● ショートレクチャー；創造的・批判的思考、リーダーシップ ・Creative Thinking と Critical Thinking の違いと相補関係について；チームプロジェクト I（SDGs）のトピックに関して；“Leadership as Relationship”―“Leader”と“Leadership”の違いと相補性；Leadership への関与と貢献のために何が必要か ● チームプロジェクト I、”Achieve gender equality and empower women and girls (SDG #5) by applying Technology” ・“Technology” 概念の脱構築と新たな可能性；Technology の新たな独自定義に基づく Gender Equality 実現のための Social Enterprise
第 5 週	Leadership & Collaboration ● 前半：第 4 週で設定したプロジェクトの発表準備（自身のバックグランドをもとに他のメンバーとの共同プロジェクトの立案） ● 後半：チーム毎のプロジェクト発表

第 6 週	Project Planning ● チームプロジェクト II、”Snow removal in cities : Common challenges” ・「北海道・札幌市における除雪問題」問題に様々な視点（地域別・ジェンダー別のニーズへの配慮、労働条件、技術革新と AI の導入、堆雪場所の確保／処分問題等）から取り組む
第 7・8 週	Final Presentation & Reflection ● 最終発表（プレゼンテーション+Q&A 15 分） ・第 6 週での各チームの取り組みを発表；外部講師による講評と講演 ● 振り返りと今後の課題 ・科目全体を通して学んだこと・学べなかったこと・今後の課題について、各自が提出する「ターム自己評価レポート」の問いと照らし合わせながら、ディスカッションを実施 メンターフォーラム ● メンター講演会（一般公開）とメンター交流会

6. メンターフォーラム

メンター制度を講義の中に組込み、受講生のキャリア意識の涵養と社会的視野の拡大を図っている。メンターには本学大学院の OB/OG や北海道内で活躍している人材だけでなく、旧新渡戸スクールを修了した社会人を招へいし、受講生の身近なロールモデルとなることを想定している。フォーラムは、各メンターの短い講演を行う「メンター講演会」とメンター毎に受講生を少人数グループに分けて具体的・個人的な質疑応答を 3 セッション行う「メンター交流会」の 2 部構成となっている（スケジュールならびに参加メンターは下表の通り）。講演を参考にして交流会で議論するメンターを選ぶことができ、受講生のキャリア意識の涵養を目指している。なお、メンター講演会は一般公開されている。

今回のメンター講演会では、『Career opportunities for degree holders in public and private sectors』のテーマで、6 名のメンターが、自身のキャリアや実社会での経験に基づくアドバイス等について講演した。受講生は、多様な分野でグローバルに活躍するメンターの話に刺激を受け、熱心に耳を傾けていた。続く交流会では、大学における研究活動および今後本格化する就職活動等について積極的に質問し、助言を得ることができた。本フォーラムを通して、大学院での学修・研究活動への取り組み姿勢と将来のキャリアデザインについて、貴重な洞察を得ることができた（10. 参考資料ならびに下記サイト参照）。

https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/event/9266
https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/news/9470

12 月 16 日(土)	スケジュール
13:30-15:35	メンター講演会：一般公開
15:45-17:00	メンター交流会

参加メンター 一覧（五十音順）		
氏名（敬称略）	所属等	出身大学等
石川　憲一	スリーエムジャパン株式会社	北海道大学 大学院工学研究科
OFOSU-TWUM Eric	株式会社日立製作所	北海道大学 大学院総合化学院
黒田 垂歩	株式会社 Newsight Tech Angels	北海道大学 大学院薬学研究科
中島　徹	15th Rock、Spirete 株式会社	北海道大学 大学院工学研究科
中原　拓	メタジェンセラピューティクス株式会社	北海道大学 大学院理学研究科
和田　義明	衆議院議員	早稲田大学 商学部

7. 成績分布（略）
全受講生 25 名

8. 実施状況
(1) 授業の実施方法と学生の背景；すべての授業を対面で実施した。学生の構成は、本コースの特徴の一つである国際社会（アジア・アフリカ・南米・ロシア）の「縮図」をなすものであった。また、人種・エスニシティ、ジェンダー、年齢などの属性と文化的価値観や専門が異なる大学院生が集まり、多様な価値観を理解する上で最高の学習環境であった。

(2) 最終発表の課題と各チームの選んだトピック；最終発表の課題は「Develop an interdisciplinary project on snow removal-related topic」であった。履修生の 5 つのチームが選んだトピックは以下の通りである。札幌市の局地的解決案を想定していたが、北海道全体、国際レベルの提案も出された。
1) International Snow Management (ISM)、2) Solution of Snow Issues in Parking Lots、
3) Sustainable Snow City、4) Snow-usage in Urban & Rural Areas in Hokkaido、
5) An integrated method of preventing and solving winter problems

(3) 外部講師による講演；第 7・8 週の授業で、中島徹メンター（15th Rock Spirete Inc.）が「How far can we stretch humanity's potential?」をテーマとする講演を行った。その講演では、本人が関わりを持つ「Augmented Brain 脳の拡張」、「Augmented Experience 存在の拡張」、「Augmented Body 身体の拡張」、「Augmented Sensing 五感の拡張」の技術開発プロジェクトを紹介した。

9. 課題・改善点など
(1) 授業ではディベートが行われるが、多くの学生にはその経験がないので、1 回の授業ではうまく行かないことが当然と思われる。今後はまず教科書等を教材や参考になるビデオ資料を通じてディベートの方法を教えるとともに、ディベートのテーマを事前に決めておく方がより効率的だと考えられる。履修生から要望（今学期は「文化の多様性」の要望があった）に応じて「Global Issues」の中からトピックを選択させたいと考えている。

(2)「Critical and Creative Thinking」について、これまでの資料には概念の情報しか入っておらず、履修生がその理解・応用に苦慮した様子が見られた（説明不足でわかりにくいと感じる、とのフィードバックがあった）。2024 年度以降は、「Critical and Creative Thinking」について複数の教材を活用し、その方法論を教える授業を各科目の内容に組み込んでいきたい。

(3) 履修生によるピアレビュー：現在、授業で履修生チームが取り組む課題の発表時に他のチームメンバーによる Q＆A の時間を設けているが、その時間に自分のチームの発表準備を続ける履修生が多い。本プログラムの基礎であるアクティブラーニングをさらに充実させる手段としてピア・ラーニングを導入したい。具体的には例えば、履修生に他チームの発表に対するレビューを行わせ、後に NPF に根拠とともに記載させる。なお、ピアレビューの内容はレビュアーの評価対象となるが、レビューイの授業評価には組み込まない。

(4) メンターについて：履修生からメンターフォーラムに女性メンターを招聘してほしいという要望があった（本年度は女性メンター都合がつかず参加不可であった）。2024 年度から女性メンター数を増やしていく必要があると考えられる。また、今回のメンター講演では科目内容や履修生のニーズと十分にマッチしなかった内容が見られた。加えて、履修生からのフィードバックには、最終発表に関してメンタ

ーからのより具体的な指摘をいただきたいとのコメントがあった。引き続きメンターと教員の連携を密にして、改善していく必要がある。

（5）新渡戸カレッジにおける大学院のプログラム内容の充実化を目指して、本科目を含む基礎プログラム（2024 年度からはプレプログラム科目）の段階から、学内の教員や部局、学外の組織等との連携を強化していきたい。加えてこれらの組織が開催する各種イベント（講演やワークショップ）などへの参加を促すことで、新渡戸カレッジの独自性を活かしつつ履修生の更なる能力向上や知識・理解の増進を図りたい。

10. 参考資料

メンターフォーラムポスターおよびメンター講演会とメンター交流会の様子

冬ターム「大学院基礎科目 II」（チーム学習の実践）実施状況

1. 実施日時

期間　　：2023 年 12 月 21 日(木)～2024 年 2 月 1 日(木)
曜日(時限)　　：木曜日（5・6 限目）＊ただし、第 5・6 週は土曜日に実施
回数　　：1 回 2 コマ（3 時間）× 8 回
場所　　：高等教育推進機構 S 講義棟

2. 実施体制

科目責任者　　：谷博文（大学院工学研究院）
授業担当教員　　：三浦篤志（大学院理学研究院）
授業支援教員　　：Marina Lomaeva (高等教育推進機構)、Dale Lee Whitfield (高等教育推進機構)
ティーチングアシスタント（TA）：
Eric Keba Lukueta（大学院工学院）、Artem Suslov（大学院文学院）

3. 授業目的・目標

（1）授業目的

新渡戸カレッジ基礎プログラム大学院教育コースは、グローバル社会で活躍するために必要不可欠となる「３＋１の力」（能力更新力、組織形成力、社会還元力、専門職倫理）を身につけたプロフェッショナルな人材の育成を目標としている。この目標達成のために学生は、専門分野の異なる学生と協働でプロジェクトに取り組む。本科目では、「大学院基礎科目 I」で体得した知識やスキルを応用し、具体的な課題解決のプロジェクトに取り組むことによって、プロジェクトマネジメントの基礎的知識とスキルを身につける。

（2）授業目標

- プロジェクトマネジメントの重要性を理解する。
- プロジェクトマネジメントの基礎知識とスキルを体得し、現在大学院で実施している研究も含めて応用できる。
- チームプロジェクトの実行を通して、「大学院基礎科目 I」で体得・向上させた能力やスキルに関する応用力を高める。

4. 評価方法

- 授業への積極的参加とチーム学習への貢献
- プロジェクトの発表
- 自己評価レポート
- Nitobe Portfolio (NPF)の有効活用: NPF における授業内容へのコメントと自己評価

5. 授業内容

各部局から派遣された授業担当教員が講義を行う。新渡戸カレッジ特任教員は授業担当教員と協力し、授業の設計、教材作成および授業支援を行う。

	授業内容
第 1 週	専門職倫理 ● 外部講師による専門職倫理のテーマ提供 ・ディスカッションとプレゼンテーション；当事者意識と果たすべき責任について
第 2 週	オリエンテーション、プロジェクトマネジメント講義および課題プロジェクト 1 の着手 ● オリエンテーション ・コースの目的と授業の進め方；授業スケジュール；学習目標、特にプロジェクトマネジメントを本タームで取り上げる意図について説明

	● プロジェクトマネジメント講義 1 ・プロジェクトの定義と過程；プロジェクトチャーター(プロポーザル)；ステークホルダー分析: Stakeholder の定義と Stakeholder mapping；Project goal、Scope、Deliverables ● 課題プロジェクト 1 の説明
第 3 週	プロジェクトマネジメント講義および演習、課題プロジェクト 1 の継続 ● プロジェクトマネジメント講義 2 ・タスクマネジメントとタイムマネジメント；Work Breakdown Structure (WBS)、Network diagram、Gantt chart ● 課題プロジェクト 1 の計画発表 ・プロジェクトチャーター（プロポーザル）に基づいたプロジェクト計画発表；WBS、Gantt chart や Risk register などのツールを使ったスケジュールやリスク対策の説明を含む口頭発表 ● 次週以降に取り組む新しいプロジェクトの簡単な導入
第 4 週	課題プロジェクト 1 の中間発表の準備 ● 課題プロジェクト 1 の発表 ・プロジェクトチャーター(プロポーザル)に基づいたプロジェクト計画発表；WBS、Gantt chart などのツールを使ったスケジュールやリスク対策の説明を含む口頭発表
第 5・6 週	課題プロジェクト 1 のプレゼンテーションおよび課題プロジェクト 2 の着手 ● 課題プロジェクト 1 の中間発表；(プレゼンテーション+ Q&A　計 15 分　×4 チーム)、担当教員 2 名による評価・コメント ● プロジェクトマネジメント講義の振り返り ● 課題プロジェクト 2 の説明
第 7 週	課題プロジェクト 2 の最終仕上げ ● チーム毎に課題プロジェクト 2 の継続、プロジェクトプロポーザルの完成 ● プロジェクトプレゼンテーションに向けた準備および発表練習 ● プロジェクトプレゼンテーションのリハーサル
第 8 週	課題プロジェクト 2 のプレゼンテーション、メンターによる講評・レクチャー、振り返り ● 課題プロジェクト 2 の発表（プレゼンテーション+ Q&A　計 15 分）（一般公開） ● 外部講師による講義と最終発表の講評 ● 振り返りと今後の課題 ・ターム全体を通して学んだこと（学べなかったこと）、今後の課題について、各自提出する「自己評価レポート」の問いに照らしながら振り返り

6. 成績分布（略）

全受講生 24 名

7. 実施状況

（1）授業の実施と学生の背景；今学期はすべての授業を対面で実施した。警報級の予報が出た 1 月 25 日（第 7 週）の授業のみにキャンパスから自宅が離れている履修生がオンラインで参加し、また 2 月 1 日（第 8 週）の授業にも悪天候・体調不良のためにオンラインで参加した履修生がいた。

また、基礎科目 I から 2 名減（25→23 名）となったものの、国際社会の「縮図」を成す学習環境を維持することができた（基礎科目 I 実施状況 8(1)参照）。

（2）専門職倫理；第 1 週で、外部講師として Rafal Rzepka 助教（北海道大学大学院情報科学研究院）が「Artificial Intelligence in Professional Practice」をテーマとする公開講演を行った（9. 参考資料および下記サイトを参照）。

https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/event/9253

（3）中間・最終発表の課題について；基礎科目 I のプロジェクト課題「Make an interdisciplinary project addressing ”Snow removal in cities : Common challenges”」に続いて、冬の暮らしの改善を大枠のテーマとし、中間発表の課題 1 を「Develop a winter lifestyle plan for Sapporo City residents 」、最終発表の課題 2 を「Embracing Winter Bliss: A comprehensive winter lifestyle plan for enhanced well-being（Development of a proposal for improving the winter life and well-being of the residents of

snowy areas from a more global perspective)」と設定した。

第 4 週で、Juha Saunavaara 准教授（北海道大学北極域研究センター）と福山貴史研究員（同観光学高等研究センター）が課題 1 のトピックに関連したテーマで講演を行った。また、履修生の中間発表に向けて助言をいただいた。

また、課題 2 の説明に際して、「Global」とは何を指すのか、Cultural Sensitivity and Inclusiveness をはじめとする 12 のテーマについて事例を挙げながら紹介した。

なお、履修生の 4 つのチームが中間・最終発表のテーマは以下の通りである。

チーム番号；中間発表/最終発表

1；Sapporo snow and ice land/ Roll in the Air (automatic condensation-free lace curtain)

2；White Link/ Mobile Medi-Meals (M3)

3；Hokkaido GO/ Wi/Ki (Winter Kitchen)

4；Hi-Genki (日-元気)/ Building a Better Winter

(4) 外部講師による講演と最終発表の講評；第 8 週の授業で、中島竜雄氏（北海道庁総務部北方領土担当局長、北海道大学 OB）が「Improving Citizens' Life Quality in Winter : The Case of Hokkaido」をテーマに、特に Snow removal at New Chitose Airport および Winter adventure travel in Hokkaido の事例を挙げつつ講演を行った。

同氏は、外務省に 6 年間出向経験があり（うち 3 年間はカナダ駐在)、これまで道内の航空企画、交通政策、アドベンチャートラベル等を担当してきた。その経験に基づいて学生の最終発表に対するコメントをいただいた（9. 参考資料および下記サイトを参照)。

https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/event/9384

(5) 最終発表の一般公開；一般公開された最終発表の参加者は以下の通りであった。

学外者 4 名（札幌市国際部関係者)、大学院生 2 名（オナーズ修了生 1 名　オナーズ履修生 1 名)、学部生 5 名（内新渡戸カレッジ生 4 名）

(6) 中間・最終発表課題の外部発信；1 月 31 日の世界冬の都市市長会（WWCAM）2024 年実務者会議開催記念イベント「冬の都市のまちづくり～Winter City Planning～」(https://www.sapporo-community-plaza.jp/event.php?num=3609）において、履修生が中間発表に基づいた発表を行った（任意参加、13 名)。

8. 課題・改善点など

(1) 履修生が基礎科目 I の授業に対するコメントにおいて、よりグローバル・多文化に関する課題設定の希望があった。また、本科目においても同様のフィードバックがあり、最終発表のテーマとなる課題 2 の説明時に「グローバル」という概念の理解・解釈に苦慮する様子を見られた。今後は、プレプログラム科目のグローバル実践科目 I（基礎科目 I の後継科目）において「Global Issues」に関して複数の教材を活用しつつ紹介し、ディベートなどを通じて理解を深めた上、グローバル実践科目 II（本科目の後継科目）でプロジェクトマネジメントの最終課題としてグローバルな側面を持つテーマを提供する。

(2) 基礎科目 I 同様、今後はピア・ラーニングを導入していきたい（基礎科目 I 実施状況 9(3)参照)。

(3) 履修生からのフィードバックとして、女性の外部講師の招聘の希望があった。次年度の外部講師の候補を検討するに当たって考慮したい。

(4) 同じく履修生からのフィードバックとして、授業中に課題に取り組む時間が短く、授業時間外に行う

必要があった、など時間が足りないとの指摘が複数あった。次年度以降のプロプログラム科目の授業では履修生の課題についてチームワーク等を授業外の時間に行うことを想定するかどうかについて検討する必要がある。ただし、単位制度上、必要な予習復習時間が設定されていることから、授業時間外の学習・活動についてはプレプログラムのガイダンスの際に十分に説明する。

（5）本年度は、北大では北極域研究センターと観光学高等研究センター、学外では札幌市国際部（WWCAM 事務局）と北海道庁総務部の研究者・実務者から履修生への助言を提供してもらうとともに、公開イベントにおける発表の場を与えていただいた。基礎科目 I 同様、学内の教員や部局、学外の組織等との連携を強化していきたい。

9. 参考資料

専門職倫理のポスター（本学学生・教職員公開）、最終授業（一般公開）の宣伝ポスターおよび授業の様子

令和５年度（2023）北海道大学新渡戸カレッジ
大学院教育コースオナーズプログラム(後期)の実施状況について

No.		科目名	単位数
①	主要科目	大学院発展科目Ⅰ（課題解決）	2
②	選択科目	大学院発展科目Ⅱ（問題発見）	2
③	選択科目	大学院特別演習：セルフキャリア発展ゼミ（大学院）	1
④	選択科目	大学院特別演習：デモーラ（企業課題解決演習）	2
⑤	選択科目	大学院特別演習：ハルトプライズチャレンジ	2

秋ターム「大学院発展科目Ⅰ」（課題解決）実施状況

1. 実施日時

期間　　：2023 年 10 月 18 日(水)～11 月 29 日(水)
曜日(時限)　：水曜日（5・6 限目）＊ただし、 第 6・7 週は同一日の 5・6・7 限目に実施
回数　　：1 回 2 コマ（3 時間）× 8 回
場所　　：高等教育推進機構 S5 教室

2. 実施体制

科目責任者　　：谷博文（大学院工学研究院）
授業担当教員　：Bomme Gowda Siddabasave Gowda (大学院保健科学研究院)
授業支援教員　：Marina Lomaeva (高等教育推進機構)、Dale Lee Whitfield (高等教育推進機構)
ティーチングアシスタント(TA)：
Md Ishitiak Rashid (大学院生命科学院)、池田拓誉（大学院文学院）

3. 授業目的・目標

（1）授業目的

本科目では、専門性の異なる学生がチームを組み、それぞれの専門性の強みを活かした協働を通して、与えられた課題に対して解決策を提案する。原因、先行事例の調査や論拠となるデータを課題のコンテキストに即して分析し、異なるアイデアを統合して、独創的な解決案を創出する。また、ビジネスプラン等の検討を通して解決策が実行可能になるかを考え、対ステークホルダーを想定したプレゼンテーションを行う。

（2）授業目標

- 具体的な課題の解決に向けた生産的協働のためのチームマネジメント（役割の明確化と実践）ができる。
- 提示された課題に対して、先行事例、類似事例に関する適切な二次資料の収集および課題の背景とコンテキストに照らした批判的な比較分析ができる。
- 解決策の提案に必要な調査・分析手順を設計し、それに伴う時間管理ができる。
- 得られたデータや情報とそれらの論理的解釈に基づいた説得力のあるプレゼンテーションができる。
- アントレプレナーシップ（起業家精神）について理解を深める。

4. 評価方法

- 授業への積極的参加とチーム学習への貢献
- チームによるプレゼンテーション(2 回：中間、最終プレゼンテーション)
- Nitobe Logbook に記す学修記録と自己分析
- Nitobe Portfolio (NPF)の有効活用: 授業へのフィードバックコメントやチームワーク機能
- ターム最終自己評価レポート

5. 授業内容

	授業内容
第 1 週	ガイダンス、教員による導入講義 ● 授業の目標、評価方法などの説明、学生が取り組む社会的課題の提示 ● 担当教員と特任教員の協議により課題テーマを決定 ● 担当教員によるテーマに関する導入的な講義
第 2 週	教員による導入講義・課題解決のためのプロジェクトプランニング(1) ● 引き続き担当教員によるテーマに関する講義 ● 学生は、講義で提示された背景の中から 1 つの課題を選択 ● 選択した 3 課題に対する調査の開始；最終的に 1 つの課題を選択し、大学院基礎科目 II で学修したプロジェクト・マネジメントに基づき、調査プロポーザルの作成を開始
第 3 週	課題解決のためのプロジェクトプランニング(2) ● 前回に引き続き、選択した課題のプロポーザル作成 ● 教員は、授業中のプレゼンテーションの進捗状況に基づいて、学生に助言し、フィードバックをする
第 4 週	プロポーザルプレゼンテーション（中間発表） ● プロポーザルプレゼンテーション資料の作成 ● 選択した課題の解説とその解決策の提示までのプロジェクトをまとめた各チームのプロポーザルプレゼンテーション
第 5 週	プロジェクトの実行(1) ● プレゼンテーションに対する教員やクラスメイトのフィードバックコメントに基づくプロポーザルの改善 ● プロポーザルにしたがった調査の推進と解決案の検討；インターネットなどのリソースを活用した文献調査、教員のアドバイスに基づくアイデア出しと分析
第 6 週	プロジェクトの実行(2) ● プレゼンテーションに対する教員やクラスメイトのフィードバックコメントに基づくプロポーザルの改善 ● プロポーザルにしたがった調査の推進と解決案の検討;インターネットなどのリソースを活用した文献調査、教員のアドバイスに基づくアイデア出しと分析
第 7 週	プロジェクトの実行(3)、 発表リハーサル ● 翌週の最終プレゼンテーションのリハーサル ● 最終プレゼンテーションにむけて解決案をまとめ、リハーサルのフィードバックに基づいてスライドを作成

第 8 週	最終プレゼンテーションと振り返り ● 最終プレゼンテーション；1 チーム 20 分(12 分発表+8 分質疑応答) ● 外部講演者による講評と講演

6. 成績分布（略）

全受講生 14 名

7. 実施状況

(1) 課題テーマと実施プロジェクト

テーマの大枠を「世界的な肥満症流行への対策提案」と定め、 関連するテーマを担当教員の専門性に基づいて担当教員と特任教員で話し合い決定した。その結論とプロジェクト名は以下の通りである。

- 'Even Out': SNS 用のフィルターで、さまざまな食べ物の栄養情報を提供する。これにより、何を食べるべきかについてより賢く選択できるようになり、健康的な生活を送るためのガイドラインも同時に提供する
- 'Healthy-11': 7-Eleven と協力して作成されたアプリで、使い続けることにより健康食品やジムの会員権を割安で購入できる
- 'Retax': 太平洋の島国の住民に対して、定期的な健康診断を行い、それに基づいて作成された新たな肥満指標に応じて税率を変動させるプロジェクト
- 'Pokémon Health': ポケモンカンパニーからキャラクターをライセンスして、ユーザーが運動や健康的な生活習慣を守るように促す、ゲーム感覚の共同アプリ

(2) 担当教員による講義

授業では、起業家精神の内容を 2021 年度から加え、課題解決を目的とすると同時に解決策の実効性に関してビジネスの視点をもって考えることの重要性や担当教員自身の起業の経験について話していただいた。受講生は課題に対して技術的な解決策だけではなく、その解決策をどのように社会に波及させるかを検討することができた。

(3) チームディスカッションとプロポーザルプレゼンテーション

第 3 週までは、大学院基礎科目 II で学修したプロジェクト・マネジメントを用いて、課題解決策を提示するまでのプロジェクトを計画した。それぞれのテーマに関して、その背景を理解し、到達目標を決めるプロポーザルを作成した。第 4 週目でクラス全体に発表する機会をつくり、他チームの学生や担当教員からフィードバックコメントを受け、プロポーザルを改善する方法を採用した。

(4) 外部講演者の参加

最終発表にメンターである中原拓氏（メタジェンセラピューティック株式会社 CEO）に参加していただいた。各チームの発表に対して適切かつ貴重なフィードバックや質問を提供していただくとともに、課題解決のプロセスについて講演を行った。

(5) NPF

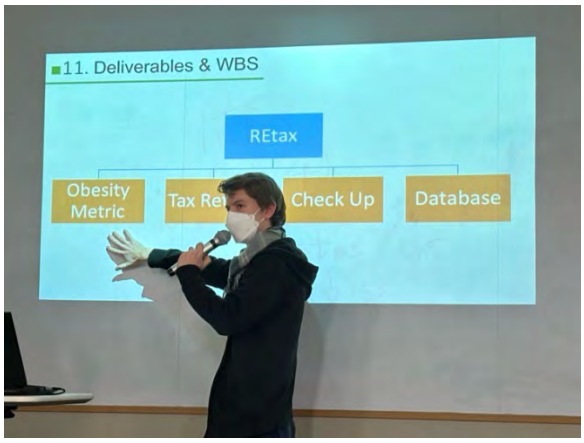
学生は基礎プログラムから NPF を利用して授業を進めている。チームページや教員からのフィードバックコメントの活用に見られたように、担当教員とのコミュニケーションやチームでプロジェクトを取り組む際の支援において効果を発揮した。

8. 課題・改善点など

春タームと秋タームの同じ授業で学生のプロジェクトを比べたところ、若干の改善を要することに気づいた。春の大学院発展科目Ⅰでは、学生たちが自分のプロジェクトのトピックを選ぶ自由度がより高く、SDGs（持続可能な開発目標）の一つ以上に関連することだけが条件だった。全体的なテーマの大枠を定めた秋タームでは、最終週のオープンクラスの宣伝や、授業担当教員からの知識提供・サポートを統一的に強化できる一方、学生のプロジェクトの多様性に強く影響を与え、彼らが自身の専門知識を課題解決に活用する機会を制限してしまった。基礎科目では学生に課題を割り当てて解決策を提案させていたので、本発展科目では、（春ターム同様）SDGs に関連する自分たちの解決策を自由に提案させていれば、より有意義であったと思われる。

9. 参考資料

最終授業（学内公開）の宣伝ポスターと担当教員からのアドバイスを受けている様子と学生の発表の様子



冬ターム「大学院発展科目 II」（問題発見）実施状況

1. 実施日時

期間　　：2023 年 12 月 6 日(水)～2024 年 1 月 31 日(水)
曜日(時限)　　：水曜日（5・6 限目）
回数　　：1 回 2 コマ（3 時間）× 8 回
場所　　：高等教育推進機構 S5 教室

2. 実施体制

科目責任者　　：谷博文（大学院工学研究院）
授業担当教員　：高島弘幸（大学院保健科学研究院）
授業支援教員　：Marina Lomaeva (高等教育推進機構)、Dale Lee Whitfield (高等教育推進機構)
ティーチングアシスタント(TA)：
Md Ishitiak Rashid（大学院生命科学院)、池田拓誉（大学院文学院）

3. 授業目的・目標

（1）授業目的

本科目では、与えられたテーマについてフィールド調査によって収集した一次データを分析し、解決すべき問題の発見や自明とされる問題の批判的な検討を行う。また調査結果を的確にまとめて一般公開の場で発表し、プロジェクトの結果を社会（調査の協力者・対象者含む）に還元することによって、自らの専門性が持つ社会への影響力、専門職倫理への意識を高める。調査研究などアカデミックなものにとどまらず、すべてのプロジェクトは「問い」すなわち問題の設定からスタートする。あえて、問題発見をプログラムの締めくくりに取り組むことで、将来のキャリア形成に不可欠な「問うこと」の重要性を再認識し、意義のある問題を設定するために必要な能力を身につける。

（2）授業目標

- 意義ある問題の発見に向けて、きっかけとなる問いの設定、調査地・調査対象の選定、調査方法の検討など調査計画を立てることができる。
- 培ってきたコミュニケーション能力を活用し、参与観察、インタビュー、フォーカスグループ、調査などを実施することができる。
- 調査の過程で発生する倫理的な問題を想定した準備を行うことができる。また、問題が発生した場合、適切に対処できる。
- 収集したデータを整理し、コンテキストに照らして客観的に分析して、議論を組み立てることができる。
- 調査・研究の結果を発表し、また求めに応じてプロジェクトの参加者・協力者、その他広くステークホルダーに適切に開示することができる。

4. 評価方法

- 授業への積極的参加とチーム学習への貢献
- チームによるプレゼンテーション（2 回：中間、最終プレゼンテーション）
- チームによるプロジェクト報告レポート
- Nitobe Logbook に記す学修記録と自己分析

- NPF における授業内容へのコメントと「3+1 の力」の自己評価

5. 授業内容

	授業内容
第 1 週	オリエンテーション ● 目的と授業の進め方 ● 学習目標、特にチーム学習の重要性 ● 授業実施上のルールや規則、授業日程 教員による導入講義 ● フィールド調査の方法、倫理に関する基礎、プロポーザルの重要性に関するガイダンス講義 ● テーマによって学生が自由にチームを形成 ● 各チームのテーマをめぐり、プロジェクトテーマの選定と所定のフォームに沿ったプロポーザル作成作業
第 2 週	プロジェクトテーマ選定とプロポーザル作成 ● 引き続きチームでのディスカッションを通して、プロジェクトテーマの選定と所定のフォームに沿ったプロポーザル作成作業
第 3 週	プロポーザル作成／予備フィールド調査 ● プロポーザルが完成していないチームは引き続きディスカッションを重ねてプロポーザルの作成 ● プロポーザルが完成したチームは、関連する先行研究の情報収集と調査先の選出を行い、オンラインでのインタビューなどに向けた連絡や予備フーィルド調査の開始
第 4 週	プロポーザル・プレゼンテーション ● 完成したプロポーザルを基に、プロジェクトの目的、重要性、出発点となるリサーチ・クエスチョン、方法論とデータ収集方法についてのプレゼンテーション ● 外部講演者による学生の中間発表へのアドバイスおよびフィールド調査の方法と重要性に関する講演
第 5 週	プロポーザルに基づいたフィールド調査の実施／データの分析
第 6 週	プロポーザルに基づいたフィールド調査の実施／データの分析
第 7 週	データの分析と最終プレゼンテーションの準備
第 8 週	最終プロジェクト・プレゼンテーション　（9. 参考資料） ● 最終プレゼンテーション；1 チーム 30 分(20 分発表+10 分質疑応答) ● 最終プレゼンテーションの一般公開 ● 外部講演者による学生の最終発表へのアドバイスおよびテーマに関する自身の経験談と問題発見についての講演

6. 成績分布（略）

全受講生 13 名

7. 実施状況

（1）課題テーマと実施プロジェクト

「Navigating Modern Sapporo」をテーマとし、フィールド調査によって収集したデータの分析に基づき、今後考えるべき問題の発見（Problem Finding）を目指した。テーマは、担当教員で話し合い決定した。テーマから着想するプロジェクトを 4 つのチームが実施した。プロジェクト名は以下の通りである。

- ハーフが直面する問題
- 技能実習制度（TITP）を通じて雇用された外国人労働者が直面する問題
- 北海道の鉄道路線の活用不足と産業への影響
- カラスとの共存方法

（2）プロポーザル作成の徹底

時間をかけてプロポーザルを入念に作成するように指導した結果、受講生は独創性・社会的重要性のあるテーマを選択し、フィールド調査も比較的スムーズに実施できた。また中間のプロポーザル・プレゼンテーションでは、外部講師（小田光康氏、明治大学）からのアドバイスとフィールド調査の方法と重要性に関する講演を受けた。これらにより充実した内容の最終プレゼンテーションを行うことができた。8 週間という限られた期間内にフィールド調査、データ分析と成果発表を行い、さらに最終レポートをグループで書く課題を与えられた受講生は、他のターム科目よりも高度な関与が求められたが、受講生からは有意義な体験となったという評価を受けた。

（3）プレゼンテーションの一般公開

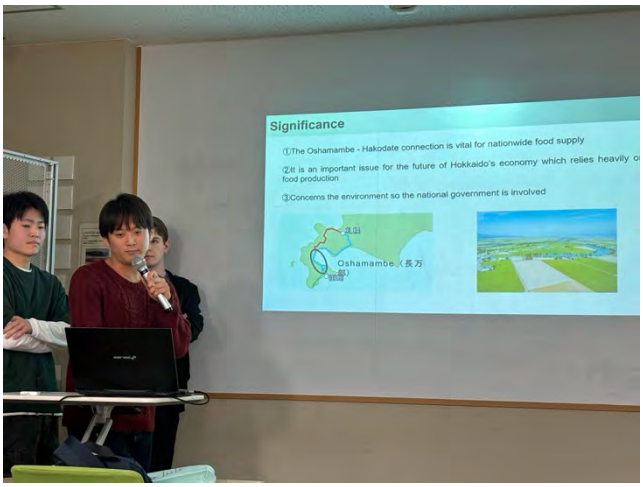
中間発表と最終発表に、外部講演者（辻輝之氏、広島大学）や一般参加者（一般参加は最終発表のみ；5 名（内ポイント付与対象となる新渡戸カレッジ学部生 3 名））に参加していただいたことで、学生にとって緊張感のある発表とすることができた。外部講演者から実社会における問題発見のプロセスについて聞くことで、学生が本授業で身に付けたことがどのように社会で役に立つのかを考える機会となった。

8. 課題・改善点など

授業担当教員で協議して、当初は「札幌の高齢者が直面する課題」というテーマを決定したが、学生側からの関心があまり感じられなかった。そこでテーマの幅を、札幌で様々なグループが直面する課題に拡張した。授業後、担当教員と外部講師は、学生たちのプロジェクトが全体的に高レベルだったという点で一致した。大学院発展科目 II（夏ターム）の提案のときのように初めから、プロジェクトトピック選択に関する学生の自由度を高く設定したためと思われる。とりわけ新渡戸カレッジプログラムの最後の科目として、学生たちがこれまでに学んだ知識やスキルをより自由に活用できるように促していくことが望まれる。

9. 参考資料

最終授業（一般公開）の宣伝ポスターと学生の発表の様子



秋・冬ターム「大学院特別演習：企業課題解決演習 2023」実施状況

1. 実施日時

期間　　：2023 年 10 月 14 日(土)～12 月 2 日(土)（3rd バッチ）
曜日(時限)　　：集中
回数　　：全 5 回（各バッチ）
場所　　：北海道大学フード&メディカルイノベーション国際拠点

2. 実施体制

科目責任者　　：金子純一（大学院工学研究院）
新渡戸カレッジ担当：谷博文（大学院工学研究院）、Marina Lomaeva (高等教育推進機構)、Dale Lee Whitfield (高等教育推進機構)

3. 授業目的・目標

（1）授業目的

本授業は、フィンランド発祥の DEMOLA の教育プログラムを活用して、アントレプレナーシップ/イントレプレナーシップの思考・行動アプローチを実践的に学び、体得することをめざすプログラムである。学生は、2 ヶ月間、フード＆メディカル国際拠点で開催されるオープンイノベーション手法のワークを受けながら、学生と企業人で構成するチームの一員として、企業が抱えるビジネス上の課題の解決モデルを組み立てる。

（2）授業目標

- DEMOLA プログラムへの参加を通して、ビジネスモデルの設計・具体化・検証のサイクルを学び、その加速化によって、イノベーションを起こすために求められる思考と行動の習慣を身につける。
- 実際の企業の課題を解決に導く、精度の高いビジネスアイディアを立案するアプローチを学ぶ。
- 企業の課題が根ざしている社会的な構造と、世界的規模で直面する未来のトレンドを理解し、よりインパクトの大きいビジネスモデルに磨きあげるメソッドを体得する。
- 知的財産権の価値に気づき、管理・運用するスキルを学ぶ。

4. 評価方法

授業への参加・貢献度（発表・ディスカッション等）：40%、課題提出（プラン最終版）：30%、最終プレゼンテーション：30%

5. 授業内容及び実施状況

本タームの参加企業：1 社（3rd バッチ）（7. 参考資料参照）
学生の参加者（3rd バッチ）：8 名
学生と企業人でチームを構成し、企業が抱えるビジネス上の課題解決の提案と、参加企業の前での最終プレゼンを行った提案されたアイディアを課題提出企業が採用し、ライセンス契約に至るケースもある。

6. 受講者及び成績

受講者：なし

7. 参考資料

3rd バッチ参加企業と課題

北海道大学大学院水産科学研究院・
大学院水産科学院・水産学部

秋・冬ターム「大学院特別演習：ハルトプライズチャレンジ」実施状況

1. 実施日時

期間　　：２学期集中（2023 年 11 月～2024 年 1 月）

2. 実施体制

科目責任者　　：谷博文（大学院工学研究院）

授業担当教員　：Marina Lomaeva (高等教育推進機構)、Dale Lee Whitfield (高等教育推進機構)

3. 授業目的・目標

（1）授業目的

ハルトプライズ（Hult Prize）は、SDGs などの社会的課題を解決するための起業アイディアを争う国際的な学生コンペティションであり、数名からなる学生チームが毎年提示される課題に挑戦している。例年、10月頃にクリントン元アメリカ大統領によって課題が提示され、キャンパスや地域での予選会とそれに関わる各種セミナーやワークショップ、プログラムへの参加を経て、翌年 9月頃開催の世界大会で優勝チームが決定する。優勝チームには起業資金として 1 万ドルが与えられる。この演習授業では、ハルトプライズへの挑戦（ハルトプライズへのエントリー；チームによるプロジェクト立案と発表、各種イベントへの参加）を通じて、新渡戸カレッジが育成するリーダー人材の中で、特に「チェンジリーダー」になるための実践的取り組みを学ぶ。また、SDGs、ソーシャルビジネス、起業家精神への理解を深めるとともに、社会にインパクトを与えるプロジェクト構想の立案方法を体得する。

（2）授業目標

- ハルトプライズ北海道大学キャンパス大会に参加し、課題への取り組みと起業アイディアの立案、関連セミナーへの参加を通じて、現代社会の問題に対する高度な共通認識を持ち、その解決に向けたチームでの取り組み方法を習得する。
- 課題解決に求められる革新的なアイデアを創出し、それをビジネスとして具体的に立案する方法を身につける。
- 説得力のあるプレゼンテーションスキルを習得する。
- ソーシャルビジネスについて理解するとともに、起業家精神を身につける。

4. 評価方法

Hult Prize に関する講義やイベントへの積極的な参加及び最終レポートにより評価を行う。また、新渡戸カレッジ大学院教育コースにて開講する「大学院特別演習」としての単位修得には以下の 3 つの条件を満たすことが必要である。

(1) 自分の属するチームがハルトプライズ学内予選に出場すること

(2) 学内予選時で発表したスライド資料および Hult Prize 参加証明書のコピーを提出すること

(3) 最終レポートを提出すること

5. 授業内容

- ハルトプライズ北海道大学は、学生からなる運営チームにより、下記の内容で実施される。
- 今年度のハルトプライズテー、ハルトプライズ・チャレンジに関連する SDGs への理解
- ソーシャルアントレプレナー(起業家)とは
- ビジネス構想演習
- 英語プレゼンテーション演習

- ハルトプライズ学内選抜大会（全員参加）
- チェンジリーダーについて
- 振り返りと次へのアクション

2023/2024 年の Hult Prize では、スタート 15 周年を記念し、単独のテーマに絞らずに（ただし，SDGs の少なくとも一つに沿ったテーマ）「UNLIMITED!」と題して開催されています。

6. 受講者及び成績（略）

受講者：1 名

7. 参加者

コンペ参加者：1 名（オナーズプログラム生）、4 名（基礎プログラム生）

8. その他

ハルトプライズのイベントにおいて、新渡戸カレッジ特任教員の Whitfield Dale Lee 特任助教がワークショップの講師を担当した。

新渡戸カレッジ特別講演会

-SDGsとか環境問題とかいう前に-

『自然とは何かを考える』

-人間は自然をどう見てきたのだろう-

戸田守道氏

戸田建設株式会社
執行役員副社長イノベーション本部長

講師略歴

1980年北海道大学工学部機械工学科卒、1983年北海道大学工学部土木工学科卒業後、同年、戸田建設株式会社に入社。1990年Harvard University Graduate School of Designへ入学、当時日本国内ではほとんど学ぶことができなかったlandscape architectureを専攻し、1993年修了。(Master of landscape architecture取得) 帰国後、2003年戸田建設株式会社 代表取締役副社長建築本部長に着任、2007年監査役、2014年取締役 価値創造推進室室長に就任、2022年より現職。

【講師からのメッセージ】

「SDGs」「環境問題」ばやりの今日この頃。CO2対策は御存じでも、『自然』とは何か、『自然』について人間はどうとらえてきたのかを、ゆっくりと考えてみたことがありますか。

北大という、日本で一番豊かな自然に包まれている大学の皆さん、とりわけ留学を考えている新渡戸カレッジの皆さんに、僕がアメリカの大学院で自然について学びながら気が付いたことをヒントに、日本人が案外知らない日本のこともお話しします。

日　時：2023年 7月10日(月)18時15分～19時45分

会　場：高等教育推進機構　1階　大講堂

問合せ先：新渡戸カレッジ担当(学部)

Email：nitobe-event@academic.hokudai.ac.jp

新渡戸カレッジ生対象

新渡戸カレッジ特別講演会

The Novel Japan University
Where are we heading?

寶金清博氏

北海道大学総長
新渡戸カレッジ校長

講師略歴

1954年北海道生まれ。1979年北海道大学医学部卒業、医学博士、脳神経外科専門医。

アメリカ合衆国カリフォルニア大学デービス校客員研究員、文部省在外研究員（アメリカ合衆国スタンフォード大学・英国王立神経研究所）、札幌医科大学医学部教授、北海道大学大学院医学研究科教授、北海道大学病院長を経て、2020年10月より現職。臨床では、脳血行再建術、もやもや病の外科治療、研究では、骨髄幹細胞を用いた再生医療を専門とする。また、日本学術会議会員として、認知症に関する提言を行っている。

講師からのメッセージ

Hokkaido University will celebrate its 150th anniversary in 2026. This milestone is not just a celebration of the University's birthday, but a godsend for looking back at itself and thinking about the next 50 years. We are pleased to announce the Hokkaido University Vison 2030 (HU Vision 2030).

This Vison sets out a new university concept. The key concept of this vision is 'Novel Japan University', a term you may not be familiar with. I would like to explain this new vision and this novel concept.

I am convinced that the discussion about the university concept will be fruitful for all members of the university, including the students of Nitobe College. I would like to share with you my thoughts on the mission of the college and the conditions for a good college.

日時：2023年7月25日(火)18時15分～(19時45分終了予定)

場所：高等教育推進機構　大講堂

対象：新渡戸カレッジ生

問合せ先：新渡戸カレッジ担当(学部)(内線5414)

Nitobe College

新渡戸カレッジ講演会

『米国アマースト大学における研究・教育の現状』

～ 海外留学・研究交流・学生交流 ～

トレント・マクシ氏

アメリカ合衆国アマースト大学
歴史学部教授

【講師略歴】
1974年 鹿児島生まれ
アメリカ合衆国コーネル大学博士課程修了 Ph.D

日　時：2023年 9月6日（水）13時00分～

会　場：人文・社会科学総合教育研究棟4階　W409会議室

※新渡戸カレッジポイント対象行事

主　催：新渡戸カレッジ
共　催：文学研究院 宗教学インド哲学研究室・中国文化論研究室
問合せ先：新渡戸カレッジ担当（学部）
Email： nitobe-event@academic.hokudai.ac.jp

Nitobe College

新渡戸カレッジ特別講演会

地方から世界へ
～十勝サーカスの万年ワークキャンプの事例から～

赤嶺 太紀子 氏

高野ランドスケーププランニング株式会社
取締役

講師からのメッセージ

コロナ禍を経て私たちのライフスタイルは大きく転換期を迎え、地域活性化や、二拠点居住など地方の魅力に関心が高まっています。
一方で経済活動や人口の面で地方と都市の格差は拡大しています。私たちの事務所は35年前、現在のような地方移住が注目される前に東京から北海道・十勝の農業地帯に事務所を転居し地域の一員として活動してきました。
都市から地方を見る視点を逆転させ、地方から世界へ向けた発想の転換へチャレンジした万年地域での取り組みをお話しします。

講師略歴

神奈川県平塚市出身。2004年日本女子大学家政学部住居学科卒業、同年北海道十勝の高野ランドスケーププランニング株式会社に入社。2016年より取締役。
事務所は農村地域の廃校の校舎を利用しており地域の農家との交流を深めている。業務内容は公園や緑地等のランドスケープの設計で、主な業務実績は十勝千年の森（北海道・清水町）、宮ノ丘幼稚園（札幌市）、大雪山国立公園然別湖畔園地（鹿追町）、フランス農業銀行本社社屋リノベーションマスタープラン（フランス・パリ）など。NPO法人ガーデンアイランド北海道や、北海道ガーデン街道の立ちあげなど緑を通じた地域の活性化や観光への取り組みをサポート。技術士（都市及び地方計画）、登録ランドスケープアーキテクト。

日時：１１月６日（月）１８時１５分～（１９時４５分終了予定）

会場：高等教育推進機構１階　大講堂

【問合せ先】新渡戸カレッジ担当（学部）
Email: nitobe-event@academic.hokudai.ac.jp

Nitobe College

新渡戸カレッジ特別講演会

セレッソ大阪の育成に携わって

藤田信良氏

株式会社セレッソ大阪　取締役相談役

講師略歴

1973年北海道大学水産学部卒業後、ヤンマーディーゼル株式会社へ入社。2008年に大阪サッカークラブ株式会社（現：株式会社セレッソ大阪）社長就任。その後、2012年には公益財団法人山岡育英会常務理事就任。2020年、一般社団法人セレッソ大阪スポーツクラブ代表理事就任、現在に至る。

【講師からのメッセージ】

ヤンマーでの社員活動の終盤に、ステークホルダーの全く異なるプロサッカークラブの運営を任されました。低迷するクラブの再建のキーワードは「育成型クラブ」でした。その後勤務した公益財団法人山岡育英会、一般社団法人セレッソ大阪スポーツクラブと育成の輪を広げ、タイ王国では現地にNPO法人を設立しグローバルな強化を狙いました。私の15年にわたる「育成」への取り組みをお話ししたいと思います。

日時：2023年　12月15日（金）18時15分～19時45分

会場：高等教育推進機構　1階　Sky Hall（大講堂）

問合せ先：新渡戸カレッジ担当（学部）

Email：　nitobe-event@academic.hokudai.ac.jp

Nitobe College

令和5年度新渡戸カレッジ入校式を開催

5月13日（土）、新渡戸カレッジ入校式を高等教育推進機構にて執り行いました。

大講堂において学部教育コース入校式が行われ、寳金清博校長（北海道大学総長）及び杉江和男校友会エルム会長（新渡戸カレッジ副校長）による挨拶の後、新渡戸カレッジ役職員、学部長、フェロー紹介が行われ、フェローを代表して上田英樹さんによる挨拶がありました。

学生からは、修了生代表の木立真凜さん及び在校生代表の松原康稀さんからの祝辞が披露された後、入校生を代表して白水千尋さんが挨拶を行いました。その後、昨年度に優れた活動を行った学生6名に対し、新渡戸カレッジ奨励賞授与の表彰式が行われ、最後に令和4年度新渡戸学（フェローゼミ）公開シンポジウム学生大賞ゼミ（萩野ゼミ）の成果発表が行われ、式は無事に終了しました。

引き続き、N1講義室において大学院教育コース入校式が行われ、寳金校長による挨拶の後、新渡戸カレッジ役職員、学院長、メンター紹介が行われ、メンターを代表して萩野　泉さんの挨拶がありました。続いて、基礎プログラム入校生代表の丹由美子さんの挨拶が行われ、その後、オナーズプログラム入校生代表のスウ・シウンさんが挨拶しました。また、同日に入校時オリエンテーション及び授業も行われました。

（学務部教育推進課）

令和5年度新渡戸カレッジ入校者一覧

プログラム	コース	入校生数
基礎プログラム	学部教育コース	371
	大学院教育コース	39
オナーズプログラム	学部教育コース	145
	大学院教育コース	15

寳金校長の挨拶

入校生代表　白水さんの挨拶

基礎プログラム代表　丹さんの挨拶

オナーズプログラム代表　スウさんの挨拶

第16回（令和5年度第1回）新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催

新渡戸カレッジの大学院教育コースでは、6月18日（日）に高等教育推進機構において、第16回メンターフォーラムを開催しました。

社会の多様な分野で活躍する方々がメンターに就任し、新渡戸カレッジ生のキャリア意識の醸成、社会的視野の広がり、及び人的ネットワークの形成にご協力いただいています。

メンターフォーラムは、新渡戸カレッジ生が大学院修了後のキャリアを念頭に、カレッジ生自身にとって身近なロールモデルであるメンターとの交流を通じ、自身のキャリアパスをより具体的に考える機会として、夏と冬の年2回開催しています。

当日は、第1部として講演会を行い、「キャリアパスを考える」をテーマとし、5名のメンターに、ご自身のキャリアや実社会における経験に基づくアドバイス等について英語でご講演いただきました。新渡戸カレッジ生は、多様な分野でグローバルに活躍する先輩たちの話に刺激を受け、熱心に耳を傾けていました。

続く第2部では、新渡戸カレッジ生が各メンターに自由に質問し対話を行う交流会として実施しました。新渡戸カレッジ生は大学における研究活動及び今後本格化する就職活動等について積極的に質問し、アドバイスを得ることができました。

本メンターフォーラムを通して、新渡戸カレッジ生は、大学院生活をどのような姿勢で学修・研究に取り組み、将来のキャリアデザインに繋げていくことができるか等について、貴重な洞察を得ることができたようです。

（学務部教育推進課）

講演会様子（藤井幸大メンター）

講演会様子（集合写真）

交流会におけるメンターとの対話の様子1

交流会におけるメンターとの対話の様子2

新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会を実施

新渡戸カレッジ学部教育コースでは、12月9日（土）高等教育推進機構において、「新渡戸カレッジ公開シンポジウム成果報告会」を開催しました。このシンポジウムは、新渡戸学（フェローゼミ）の成果報告及び意見交換を通して、学び得た知識を共有することを目的としています。

今年度は高大連携を行っている市内高校を訪問し、参加を呼びかけたところ、十数名の高校生や教員の参加がありました。また、当日来場できなかったフェローや高校生を対象に、昨年度に引き続きライブ配信を行いました。

新渡戸学（フェローゼミ）は、北大同窓生の新渡戸カレッジフェローが指導する少人数の演習形式の科目で、新渡戸カレッジ基礎プログラム学部教育コースの学生を対象とした必修科目に位置付けられています。令和5年度は熱意にあふれた6人のフェローが担当し、10月7日（土）から全5回のゼミが繰り広げられました。各ゼミではテーマに関連した場所への視察やゲスト講師の講義などが行われ、グループで設定した課題の解決策について議論を深めてきました。また、フェローゼミでは、新渡戸カレッジ生の上級生がチューターとして学生をサポートし、先輩と後輩の絆を深める特徴的な取り組みも行われています。

シンポジウム当日は各ゼミテーマの関係者にも出席いただき、新渡戸カレッジ校長代理の山口淳二理事・副学長からの挨拶の後、6ゼミの代表グループによる発表が行われました。どのゼミの発表も工夫が凝らされており、独自の視点や新しいアプローチが見られました。学生による質疑応答も大変活発に行われ、学生同士のコミュニケーションが深まりました。各ゼミの発表後には、学生企画行事等について、参加した学生からの体験談等が報告されました。すべての発表・報告の後、フェローゼミ統括の多田幸雄フェロー並びにチューター全体の統括役を担う3名のコアチューターから、発表内容やゼミ活動全般に対しての講評があり、学生の投票による学生大賞の結果が発表され、本年度のシンポジウムを終了しました。

最後になりましたが、フェローゼミをご指導いただいた各フェロー及び支援教員、ご協力いただいた関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。

（学務部教育推進課）

発表の様子

学生大賞を受賞した伊藤ゼミのメンバー

来場者全員での記念撮影

第17回（令和5年度第2回）新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催

新渡戸カレッジの大学院教育コースでは、12月16日（土）に高等教育推進機構において、第17回メンターフォーラムを開催しました。このイベントは一般に公開しており、新渡戸カレッジ学部教育コース生、市内高校生、企業の方の参加もありました。

社会の多様な分野で活躍する方々がメンターに就任し、新渡戸カレッジ生のキャリア意識の醸成、社会的視野の広がり、及び人的ネットワークの形成にご協力いただいています。

メンターフォーラムは、新渡戸カレッジ生が大学院修了後のキャリアを念頭に、カレッジ生自身にとって身近なロールモデルであるメンターとの交流を通じ、自身のキャリアパスをより具体的に考える機会として、夏と冬の年2回開催されています。

当日は、第1部に講演会を行い、6名のメンターに、ご自身のキャリアや実社会における経験に基づくアドバイス等について英語でご講演いただきました。新渡戸カレッジ生は、多様な分野でグローバルに活躍する先輩たちの話に刺激を受け、熱心に耳を傾けていました。

続く第2部は、新渡戸カレッジ生が各メンターに自由に質問し対話を行う交流会を実施しました。新渡戸カレッジ生は大学における研究活動及び今後本格化する就職活動等について積極的に質問し、アドバイスを得ることができました。

本メンターフォーラムを通して、新渡戸カレッジ生は、大学院生活をどのような姿勢で学修・研究に取り組み、将来のキャリアデザインに繋げていくのか等について、貴重な洞察を得ることができたようです。

（学務部教育推進課）

講演会様子（左：黒田垂歩メンター、右：集合写真）

交流会におけるメンターとの対話の様子

新渡戸カレッジの新しいロゴマークが決定

このほど、新渡戸カレッジの新しいロゴマークのデザインをカレッジ生より募集し、決定しました。

応募作品の中から選ばれたのは、本田みりさん（総合教育部1年）のデザインです。

作品は、ノブレス・オブリージュをイメージして、新渡戸稲造の眼鏡に、勝利や栄光の象徴であり、月桂冠にも使われるローリエ（月桂樹）を組み合わせたデザインとなっています。SDGsの17色を用いて描いたローリエの蕾は、将来グローバルリーダーとして活躍することを目指して新渡戸カレッジで学ぶ学生を表現しています。

また、表彰式を1月11日（木）に行いました。

式では、弛　和順新渡戸カレッジ副校長から本田さんに表彰状が手渡されました。続いて、審査を担当した新渡戸カレッジ運営会議広報・システム専門委員会広報・ホームページ部会を代表して内田治子部会長から審査過程についての説明がありました。

（学務部教育推進課）

新渡戸カレッジ新ロゴ

弛副校長より表彰状を手渡される本田さん

左から弛副校長、本田さん、内田部会長

令和5年度新渡戸カレッジ修了式（学部教育コース）を挙行

令和5年度新渡戸カレッジ修了式（学部教育コース）を3月25日（月）に高等教育推進機構にて挙行しました。修了式には修了生45名のうち18名が出席し、寳金清博校長（総長）、山口淳二校長代理（理事・副学長）、弛　和順副校長、杉江和男副校長、小田　研教頭及び新渡戸カレッジ関係教職員の祝福を受けました。

式では、修了生を代表して、理学部生物科学科卒業の栗原恭子さんに寳金校長から修了証書が授与されました。次に寳金校長が挨拶を行い、挨拶のなかで、所属学部と新渡戸カレッジ両方のカリキュラムを修了した学生たちの努力を労い、各自がこの経験をこれからの人生に生かし、グローバルリーダーとして活躍することを期待すると激励しました。修了生代表の挨拶では、文学部人文科学科卒業の内藤　遥さんが、新渡戸カレッジで学んだ経験や今後の抱負を述べました。さらに校友会エルム会長で新渡戸カレッジ副校長でもある杉江氏と北海道大学名誉教授で新渡戸カレッジフェローの大塚榮子氏から激励の言葉が修了生に贈られました。この後、式は滞りなく進み、無事に終了しました。

終了後、出席者全員で記念写真を撮り、またお世話になった教職員と写真を撮る姿があちこちで見られ、皆名残惜しそうに会場を去って行きました。

（学務部教育推進課）

修了証書の授与

寳金校長の挨拶

修了生代表による挨拶

出席者による記念撮影

新渡戸カレッジ修了式（大学院教育コース）を挙行

令和5年度新渡戸カレッジ修了式（大学院教育コース）を3月19日（火）に高等教育推進機構にて執り行いました。

基礎プログラムから、留学生16名を含む22名、オナーズプログラムから、留学生7名を含む14名が修了しました。はじめに、弛　和順副校長から修了生代表に修了証書が授与されました。

続いて、弛副校長から挨拶が行われ、「グローバル化の進む社会で逞しく生き抜き、そして社会に貢献するためには、これまでの時代よりも一層多くの能力が求められる」ことに触れ、基礎プログラム修了生に対しては、「オナーズプログラム入校の上、修得した知識やスキルの応用と発展をめざしてください」との激励の言葉が贈られ、またオナーズプログラム修了生に対しては「高度な専門性とそれらを『活かす力』を存分に発揮して、グローバル化社会において自らの道を切り拓くと共に、国際社会の発展に寄与する指導的・中核的な人材となることを心より祈念いたします」との期待の言葉が贈られました。

修了生代表の挨拶として、オナーズプログラム代表のニシムラ　カルモエイケ　ユウジさんが、新渡戸カレッジで学んだ経験や今後の抱負などについて挨拶を行い、修了式は終了となりました。

オナーズプログラム修了生にはアソシエイト（大学院）の称号を授与するとともに、特に優秀と認められた学生に対し、優秀賞が授与されます。

（優秀賞受賞者）
ヨウ　シドウ（生命科学院）
リアウルアング　シラテー（理学院）

（学務部教育推進課）

修了証書の授与（基礎プログラム）

修了生代表による挨拶

8　新渡戸カレッジ 入校者・修了者・在籍者の数

（1）基礎プログラム学部教育コース（仮入校者数、正式入校者数、修了者数）

令和５年度		仮入校(令和５年４月)			正式入校(令和５年10月)			修了（令和６年３月）		
		１年次	２年次	計	１年次	２年次	計	１年次	２年次	計
		338	33	371	168	14	182	146	14	160
内訳	総合文系	17	－	17	7	－	7	4	－	4
	総合理系	99	－	99	47	－	47	41	－	41
	文学部	26	1	27	16	0	16	14	0	14
	教育学部	8	1	9	3	1	4	3	1	4
	法学部	22	2	24	7	1	8	6	1	7
	経済学部	34	6	40	16	1	17	15	1	16
	理学部	16	3	19	10	2	12	10	2	12
	医学部医学科	17	0	17	12	0	12	7	0	7
	医学部保健学科	7	0	7	2	0	2	2	0	2
	歯学部	5	0	5	1	0	1	1	0	1
	薬学部	4	0	4	2	0	2	2	0	2
	工学部	37	7	44	22	2	24	19	2	21
	農学部	22	6	28	15	3	18	14	3	17
	獣医学部	5	2	7	1	2	3	1	2	3
	水産学部	19	4	23	7	2	9	7	2	9
	現代日本学プログラム	－	1	1	－	0	0	－	0	0

（2）オナーズプログラム学部教育コース（入校者数、修了者数）

①　入校者数

令和５年度		２年次	３年次	計
		135	10	145
内訳	文学部	19	3	22
	教育学部	3	0	3
	法学部	14	1	15
	経済学部	14	0	14
	理学部	15	0	15
	医学部医学科	4	0	4
	医学部保健学科	2	1	3
	歯学部	1	0	1
	薬学部	0	0	0
	工学部	36	2	38
	農学部	13	2	15
	獣医学部	3	0	3
	水産学部	11	1	12
	現代日本学プログラム	0	0	0

② 修了者数

令和５年度		最終学年在籍者	修了者
		66	45
内訳	文学部	9	7
	教育学部	1	1
	法学部	10	3
	経済学部	2	2
	理学部	8	5
	医学部医学科	2	2
	医学部保健学科	4	2
	歯学部	1	1
	薬学部	2	1
	工学部	14	8
	農学部	9	9
	獣医学部	1	1
	水産学部	3	3

称号授与者数	
Summa cum Laude （通算 GPA 上位 15%以内 TOEFL-iBT100 点相当以上）	9
Magna cum Laude （通算 GPA 上位 30%以内 TOEFL-iBT90 点相当以上）	9
Cum Laude （通算 GPA 上位 50%以内 TOEFL-iBT80 点相当以上）	10
Associate （上記以外）	17

（３）基礎プログラム大学院教育コース（入校者数、修了者数）

① 令和５年４月入校者数及び令和５年９月修了者数

		４月入校者数	９月修了者数	未修了者数
		39	38	1
内訳	文学院	0	0	0
	法学研究科	1	0	1
	経済学院	3	3	0
	教育学院	0	0	0
	国際広報ﾒﾃﾞｨｱ・観光学院	3	3	0
	公共政策学教育部	1	1	0
	医学院	0	0	0
	保健科学院	0	0	0
	情報科学院	2	2	0
	工学院	8	8	0
	総合化学院	3	3	0
	医理工学院	0	0	0
	農学院	7	7	0
	水産科学院	0	0	0
	環境科学院	4	4	0
	国際食資源学院	1	1	0
	理学院	3	3	0
	生命科学院	3	3	0

② 令和５年１０月入校者数及び令和６年３月修了者数

		10 月入校者数	３月修了者数	未修了者数
		25	22	3
内訳	文学院	2	2	0
	法学研究科	0	0	0
	経済学院	1	1	0
	教育学院	0	0	0
	国際広報ﾒﾃﾞｨｱ・観光学院	1	1	0
	公共政策学教育部	1	1	0
	医学院	0	0	0
	保健科学院	0	0	0
	情報科学院	1	1	0
	工学院	8	7	1
	総合化学院	1	1	0
	医理工学院	0	0	0
	農学院	3	2	1
	水産科学院	0	0	0
	環境科学院	4	3	1
	国際食資源学院	0	0	0
	理学院	1	1	0
	生命科学院	2	2	0

（４）オナーズプログラム大学院教育コース（入校者数、修了者数）

① 令和５年４月入校者数及び令和５年９月修了者数

		４月入校者数	履修継続者数	９月修了者数	履修継続者数	未修了者数
		15	1	16	0	0
内訳	文学院	1	0	1	0	0
	法学研究科	0	0	0	0	0
	経済学院	4	1	5	0	0
	教育学院	1	0	1	0	0
	国際広報ﾒﾃﾞｨｱ・観光学院	2	0	2	0	0
	公共政策学教育部	0	0	0	0	0
	医学院	0	0	0	0	0
	保健科学院	0	0	0	0	0
	情報科学院	0	0	0	0	0
	工学院	4	0	4	0	0
	総合化学院	0	0	0	0	0
	医理工学院	0	0	0	0	0
	農学院	0	0	0	0	0
	水産科学院	0	0	0	0	0
	環境科学院	1	0	1	0	0
	国際食資源学院	0	0	0	0	0
	理学院	2	0	2	0	0
	生命科学院	0	0	0	0	0

② 令和５年１０月入校者数及び令和６年３月修了者数

		10月入校者数	履修継続者数	３月修了者数	履修継続者数	未修了者数
		14	0	14	0	0
内訳	文学院	0	0	0	0	0
	法学研究科	0	0	0	0	0
	経済学院	0	0	0	0	0
	教育学院	0	0	0	0	0
	国際広報ﾒﾃﾞｨｱ・観光学院	0	0	0	0	0
	公共政策学教育部	1	1	1	0	0
	医学院	0	0	0	0	0
	保健科学院	0	0	0	0	0
	情報科学院	1	0	1	0	0
	工学院	3	0	3	0	0
	総合化学院	0	0	0	0	0
	医理工学院	0	0	0	0	0
	農学院	1	0	1	0	0
	水産科学院	0	0	0	0	0
	環境科学院	4	0	4	0	0
	国際食資源学院	0	0	0	0	0
	理学院	2	0	2	0	0
	生命科学院	2	0	2	0	0

（５）在籍者数

①学部教育コース（基礎P仮入校：1年次、2年次の一部）在籍者数　　令和５年４月現在

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計
総合文系	17	―	―	―	―	―	17
総合理系	99	―	―	―	―	―	99
文学部	26	20	13	9	―	―	68
教育学部	8	4	2	1	―	―	15
法学部	22	16	10	10	―	―	58
経済学部	34	20	9	2	―	―	65
理学部	16	18	6	8	―	―	48
医学部医学科	17	4	5	1	1	2	30
医学部保健学科	7	2	2	4	―	―	15
歯学部	5	1	1	3	1	1	12
薬学部	4	0	0	2	1	0	7
工学部	37	43	27	15	―	―	122
農学部	22	19	14	9	―	―	64
獣医学部	5	5	2	1	2	1	16
水産学部	19	15	9	3	―	―	46
現代日本学プログラム課程	―	1	0	0	―	―	1
合　計	338	168	100	68	5	4	683

学部教育コース（(基礎P正式入校：1年次、2年次の一部）在籍者数　　令和５年１０月現在

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計
総合文系	7	―	―	―	―	―	7
総合理系	47	―	―	―	―	―	47
文学部	16	19	13	9	―	―	57
教育学部	3	4	2	1	―	―	10
法学部	7	15	10	10	―	―	42
経済学部	16	15	9	2	―	―	42
理学部	10	17	6	8	―	―	41
医学部医学科	12	4	5	1	1	2	25
医学部保健学科	2	2	2	4	―	―	10
歯学部	1	1	1	3	1	1	8
薬学部	2	0	0	2	1	0	5
工学部	22	38	27	15	―	―	102
農学部	15	16	14	9	―	―	54
獣医学部	1	5	2	1	2	1	12
水産学部	7	13	9	3	―	―	32
現代日本学プログラム課程	―	0	0	0	―	―	0
合　　計	168	149	100	68	5	4	494

②大学院教育コース在籍者数

	令和５年４月現在				令和５年１０月現在		
	修士１年専門１年	修士２年専門２年	計		修士１年専門１年	修士２年専門２年	計
文学院	0	1	1		2	0	2
法学研究科	1	0	1		0	0	0
経済学院	2	6	8		1	0	1
教育学院	0	1	1		0	0	0
国際広報メディア・観光学院	3	2	5		1	0	1
公共政策学教育部	1	0	1		2	0	2
医学院	0	0	0		0	0	0
保健科学院	0	0	0		0	0	0
情報科学院	2	0	2		2	0	2
工学院	6	6	12		9	2	11
総合化学院	3	0	3		1	0	1
医理工学院	0	0	0		0	0	0
農学院	7	0	7		2	2	4
水産科学院	0	0	0		0	0	0
環境科学院	3	2	5		6	2	8
国際食資源学院	1	0	1		0	0	0
理学院	3	2	5		3	0	3
生命科学院	2	1	3		2	2	4
合計	34	21	55		31	8	39

9　新渡戸カレッジ奨学金支給状況一覧（令和５年度）

(1) 新渡戸カレッジ(海外留学)奨学金(北海道大学フロンティア基金)

① オナーズプログラム　学部教育コース　（単位:円）

	給付人数(人)					給　付　額(円)			
プログラム名等	JASSO	カレッジ奨学金	(校友会支援)	合計延べ数	合計実数	JASSO	カレッジ奨学金	校友会支援	合　計
国際インターンシップ	－	14	14	28	14	0	1,316,000	1,120,000	2,436,000
学部レベル短期留学	2	7	－	9	7	120,000	618,000	－	738,000
交換留学	17	22	－	39	22	6,710,000	8,142,500	－	14,852,500
計	19	43	14	76	43	6,830,000	10,076,500	1,120,000	18,026,500
令和4年度実績	12	22	9	43	22	3,130,000	4,562,500	720,000	8,412,500

② オナーズプログラム　大学院教育コース　（単位:円）

	給付人数(人)					給　付　額(円)			
プログラム名等	JASSO	カレッジ奨学金	(校友会支援)	合計延べ数	合計実数	JASSO	カレッジ奨学金	校友会支援	合　計
国際インターンシップ	－	0	0	0	0	0	0	0	0
大学院レベル短期留学	0	2	－	2	2	0	144,000	－	144,000
交換留学	0	1	－	1	1	0	240,000	－	240,000
計	0	3	0	3	3	0	384,000	0	384,000
令和4年度実績	0	1	0	1	1	0	240,000	0	240,000

(2) 新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院教育コース奨学金(北海道大学フロンティア基金)

（単位:円）

令和5年度(2023年度)	給付人数(人)	1名あたりの給付額(円)	給付額合計
第1学期	12	200,000	2,400,000
第2学期	13	200,000	2,600,000
計	25		5,000,000
令和4年度実績	24		4,800,000

令和5年度(2023年度)	奨学金受給者の所属大学院
第1学期	文学院1名　経済学院3名　教育学院1名　国際広報メディア・観光学院2名　工学院3名　理学院2名
第2学期	公共政策学教育部1名　情報科学院1名　工学院3名　農学院1名 環境科学院3名　理学院2名　生命科学院2名

１０　新渡戸カレッジ留学の状況（2023 年度）

新渡戸カレッジにおける海外留学の目的

北海道大学の「フロンティア精神」、「国際性の涵養」、「全人教育」および「実学の重視」という４つの基本理念と新渡戸稲造の精神に基づき、海外において高い倫理観と豊かな人間性をもった自律的な個人の確立と、論理的な思考力と高い専門能力を身につけることを海外留学の目的とする。

海外留学のポリシー

海外留学は、学生が自律的に学び、研究する上での手段である。学生個々人が国際的な視野の中で、何を学び、何を研究するかを熟考し、海外留学の目標と計画を設定した上で渡航することを求める。

新渡戸カレッジの海外留学制度

新渡戸カレッジオナーズプログラムの修了には、海外留学の単位取得は必須となる。単位取得の対象となるのは、交換留学プログラム（２単位）と短期留学プログラム（１単位）がある。後者には、「学部専門レベル短期留学」および「国際インターンシップ」の２つがある。新渡戸カレッジオナーズプログラムに在籍する学生は、参加するプログラムのタイプ（交換留学・短期留学）に合わせて、奨学金が支給される。

【2023 年度海外留学の参加状況】

留学の種　類	渡航先		人数
交換留学	ブリティッシュコロンビア大学、オクラホマ大学、オレゴン大学、ワシントン大学、マサチューセッツ大学アマースト校、ハワイ大学マノア校、オハイオ州立大学、ハイデルベルク大学、トゥルク大学、ヘルシンキ大学、オーフス大学、ウォリック大学、ジュネーブ大学、スイス連邦工科大学チューリッヒ校、メルボルン大学、タスマニア大学、ニューサウスウェールズ大学、オタゴ大学、サンシャインコースト大学		22 名
短期留学	国際インターンシップ	シンガポール、マレーシア、ベトナム、タイ、インド、台湾、フィンランド、米国、ニュージーランド	20 名
	学部専門レベル短期留学	チュラロンコン大学、IVEP ザンビア大学、シンガポール国立大学、海洋開発サマースクール日本財団 OIC テキサス A&M 大学	7 名

１１　新渡戸カレッジＦＤ報告

教員対象研修（FD）：プロジェクトマネジメント実施状況

1. 実施目的

新渡戸カレッジ大学院教育コース担当教員に対し、大学院教育コースの教育及び各学院等での教育・研究活動に役立つ知識・スキルを提供する FD を行なっている。基礎プログラム主要科目「大学院基礎科目 II：チーム学習の実践」で扱っているプロジェクトマネジメント（PM）は、チームでプロジェクトを計 画し、実施するために必須であり、オナーズプログラムの授業でも活用されるなど、大学院教育コースの 授業に関わる全ての教員が知っておくべき知識となっている。そのため、平成 29 年度から PM を扱った FD を開催している。授業の質を向上させるため、教員だけでなく TA にも参加を促している。なお、大学院教育コースにおける授業と行事を含む全活動が英語で行われることから、FD も英語で実施している。本年度は、高等教育研修センターとの共催により開催した。

2. 実施日時・場所

期間：2023 年 5 月 27 日（土）13:00～17:00

場所：北海道大学　情報教育館 3 階スタジオ型研修室

3. 参加者

合計：23 名（2022 年度 10 名）

授業担当教員：8 名（伊藤秀臣(大学院理学研究院)、三浦篤志(大学院理学研究院)、橋本勝文(大学院工学研究院)、横田義史(大学院経済学研究院)、高島弘幸(大学院保健科学研究院)、ハズハ・ブラニスラヴ(大学院法学研究科)、エデルヘイム・ヨハン(大学院メディア・コミュニケーション研究院)、ボメ・ゴウダ・シッダバサーブ・ゴウダ(大学院保健科学研究院)）

学内教員：3 名（大学院地球環境科学研究院、大学院薬学研究院、大学院教育推進機構）

大学院生：3 名（大学院環境科学院、大学院経済学院）

学外：4 名（AWL 株式会社）

大学院教育コース特任教員：2 名

大学院基礎科目 II 担当 TA：3 名

4. 実施内容

講師：King To Chu (プロジェクトマネジメント協会(PMI)認定講師、PMI Japan 所属)

第 1 部（事前学習）

主な PM のトピックに関連する学習資料を事前に動画(8 本、各動画の長さは約 10～12 分)で提供し、参加者にはワークショップ前に視聴し、内容をよく理解してもらうようにした(動画のリンク: ７．参考資料（１）を参照)。

第 2 部（オンラインワークショップ）

以下の項目について講師によるショートレクチャーを受講後、グループワークを行い、講師からフィードバックを受けた。

1. Initiating a Project (Vision Statement and Project Charter)
2. Theme: ‘How Can We Solve The Urban Brown Bear Problem in Sapporo?’
3. Scope planning

4. Stakeholder management (Identification and Mapping)
5. Work Breakdown Structure (WBS) and Project Scheduling
6. Risk Management
7. Presenting Your Projects

5. 実施状況

- ワークショップを対面で開催するにあたり、昨年同様ワークショップの時間を短縮するため、実施内容を 2 部に分け、参加者に事前学習をしてもらうようにした。
- 新渡戸カレッジの授業を想定し、授業担当教員、新渡戸カレッジ特任教員、学内外教員、大学院生、TA で 4 名程度のチー ムを組み、大学院基礎科目 II の前半で扱う課題プロジェクト「How Can We Solve The Urban Brown Bear Problem in Sapporo?」の企画立案を行なった。これにより実際の授業でどのように説明するとわかりやすいのか、躓きやすい点はどこなのか、など具体的な授業イメージを理解できた。
- 大学教員、企業関係者、大学院生からなる多様なチームは、真の学際的な学習環境において、与えられたプロジェクトの解決に貴重な洞察をもたらしていただいた。
- 講義を撮影した動画を担当教員に共有した。また、講師である Chu 氏に内容をまとめた冊子を準備してもらったことで、FD の中で扱いきれなかった詳しい知識をカバーすることができた。動画や冊子により、授業の準備のための復習などに役立てることができた。

6. 課題・改善点

CTL から提供された評価結果やアンケートからのフィードバックによると、今年度のワークショップは非常に好評だった。コメントの中で「It was a great opportunity to collaborate with other teachers, graduate students and people from the industry. I think it will benefit my work in a good way.」と「It was clear, crisp and creative. We can make it a 2-day workshop. We can include more students.」というコメントをいただいた。

今回、多様な参加者がいることは、問題解決にプラスになり、与えられたプロジェクトに対して、より実現可能性の高い、独創的な解決策を導き出すことができた。

今後の改善点としては PM ワークショップでは、今のままの研修センターとの連携や実施方法を継続しつつ、世界の主流となりつつある「Agile PM」手法にもっとフォーカスしたいと考えている。

7. 参考資料

（1）事前学習用動画リンク

- PM#1 Introduction to Project Management https://youtu.be/hESkA7PXkbI
- PM#2 Project Life Cycle https://youtu.be/FXJnUffz0Ok
- PM#3 Initiating a Project https://youtu.be/dfpZLvJjGwI
- PM#4 Stakeholder Management https://youtu.be/bvC1_DTy9Kg
- PM#5 Project Scope Management https://youtu.be/lIXiTDcC7Bw
- PM#6 WBS & Scheduling https://youtu.be/IM8rAG9j9q0
- PM#7 Risk Management https://youtu.be/Zk93AHZ_GVA
- PM#8 Waterfall and Agile https://youtu.be/EGr6WQ8ZgkI

上記の動画とChu氏が内容をまとめた冊子は、大学院基礎科目IIの教材としても使用した。

（2）Chu 氏によるレクチャーと参加者の様子

（3）宣伝ポスター

１２　Nitobe ポートフォリオの活用

新渡戸ポートフォリオ（NPF）とは、学生が自身の学修状況や研究の履歴を記録するオンラインシステムである。新渡戸カレッジにおいて学生が身につける「自分に対する力・他人対する力・社会に対する力・一般倫理」（学部）および「能力更新力・組織形成力・社会還元力・専門職倫理（3＋1 の力）」（大学院）の獲得レベルを、NPF 上で自己評価し、今後の学修・研究計画に活かすことが可能となる。学部・大学院で身につける 4 つ能力に加え「活動の記録」（学部）および「専門力」（大学院）を加えた 5 つの項目は、ペンタグラムで可視化されるため、視覚的に自身の成長を把握することができる。さらに、NPF を包括的に使うことで、学生は研究活動や新渡戸カレッジでの学修状況を記録し、振り返ることができるだけでなく、新渡戸カレッジ教員や授業担当教員、修士研究の指導教員もこの記録を閲覧し、NPF 上で適切なアドバイスを与えることができる。

現在の NPF は、大学院教育コースの全学生および学部教育コースの「新渡戸学（セルフキャリア発展ゼミ）」受講者を対象に運用している。今後は学部教育コースの全学生を対象とできるよう、NPF のシステムおよび内容を検討し、改修していく予定である。

図　科目担当教員からみた履修学生の情報

１３　新渡戸カレッジ 会議の開催状況

（1）新渡戸カレッジ運営会議議題等一覧

開催年月日	議　　題　　等	
第１回(ZOOM 会議) 令和５年５月 12 日(金)	議題１ 報告事項１ 報告事項２ 報告事項３ 報告事項４ 報告事項５ 報告事項６	令和６年度以降の「新渡戸カレッジ」構想（修正案）について 令和５年度新渡戸カレッジ入校者数について 令和５年度新渡戸カレッジの現況について 令和５年度新渡戸カレッジ入校式について 令和５年度新渡戸カレッジフェロー・メンターについて 令和５年度第１回新渡戸カレッジフェロー交流・研究会について 令和５年度新渡戸カレッジ行事予定について
意見交換会(ZOOM 会議) 令和５年５月 12 日(金)	内容	今後の新渡戸カレッジについて
第２回(ZOOM 会議) 令和５年９月 29 日(金)	議題１ 報告事項１ 報告事項２ 報告事項３	新渡戸カレッジ諸規程の一部改正について 令和５年度大学院教育コース修了生(９月修了)の決定について 令和５年度基礎プログラム学部教育コース正式入校生の決定について 令和５年度大学院教育コース修了式(９月修了)及び入校式(秋入校)について
意見交換会(ZOOM 会議) 令和５年９月 29 日(金)	内容	今後の新渡戸カレッジにおける人材育成方針について
第３回(ZOOM 会議) 令和６年３月５日(火)	議題１ 議題２ 議題３ 報告事項１ 報告事項２ 報告事項３ 報告事項４	令和５年度新渡戸カレッジ学部教育コース修了予定者及び総代候補者について 令和５年度新渡戸カレッジ大学院教育コース修了生の決定について 新渡戸カレッジ諸規程の一部改正について 新渡戸カレッジ教頭等の指名について 令和５年度新渡戸カレッジ修了式等について 令和５年度北海道大学フロンティア基金各種奨学金の給付状況について 令和６年度大学院教育コース開講計画について
意見交換会(ZOOM 会議) 令和６年３月５日(火)	内容	今後の新渡戸カレッジの取り組みについて

（2）学部教育コース教務専門委員会議題等一覧

開催年月日	議　　題　　等	
第１回(ZOOM 会議) 令和５年５月８日(月)	議題１ 報告事項１ 報告事項２ 報告事項３ 報告事項４ 報告事項５ 報告事項６ 報告事項７	令和６年度以降の「新渡戸カレッジ」構想（案）について 令和４年度新渡戸カレッジ学部教育コース修了者数について 令和５年度新渡戸カレッジ学部教育コース入校審査の結果について 令和５年度新渡戸カレッジ学部教育コース在籍学生数について 令和５年度新渡戸カレッジフェローについて 令和５年度新渡戸カレッジフェロー交流・研究会について 令和５年度新渡戸カレッジ基礎プログラム学部教育コース入校式について 令和５年度新渡戸カレッジ学部教育コース関連行事について
第２回(ZOOM 会議) 令和５年９月 20 日(水)	議題１ 議題２ 報告事項１ 報告事項２	新渡戸カレッジ基礎プログラム学部教育コース正式入校生の選考について 新渡戸カレッジ諸規程の一部改正について 新渡戸カレッジ学部教育コース海外留学みなし単位認定について 新渡戸カレッジ学部教育コースの関連行事について
第３回(ZOOM 会議) 令和６年３月４日(月)	議題１ 議題２ 報告事項１ 報告事項２ 報告事項３ 報告事項４	令和５年度 新渡戸カレッジ（学部教育コース）修了判定について 新渡戸カレッジ諸規程の改廃について 新渡戸カレッジ学部教育コース海外留学みなし単位認定について 新渡戸カレッジ（学部教育コース）の在籍状況について 令和５年度 新渡戸カレッジ（学部教育コース）修了式について 令和６年度 新渡戸カレッジ行事予定について

（３）大学院教育コース教務専門委員会議題等一覧

開催年月日	議　　題　　等	
第１回(ZOOM 会議) 令和５年４月 27 日(木)	議題１	令和５年度春入校　新渡戸カレッジ基礎プログラム大学院教育コース入校者について
	議題２	令和６年度以降の新渡戸カレッジ構想（修正案）について
	報告事項１	令和５年度新渡戸カレッジ（大学院教育コース）運営体制について
	報告事項２	令和５年度春入校　新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院教育コース入校者について
	報告事項３	令和５年度新渡戸カレッジメンターの就任について
	報告事項４	令和５年度新渡戸カレッジ入校式（大学院教育コース）について
	報告事項５	令和４年度新渡戸カレッジ（大学院教育コース）の実施状況について
第２回(ZOOM 会議) 令和５年９月 20 日(水)	議題１	令和５年度基礎プログラムの修了判定（９月修了）について
	議題２	令和５年度オナーズプログラムの修了判定（９月修了）について
	報告事項１	令和５年度大学院教育コース(前期)及び FD の実施状況について
	報告事項２	令和５年度秋入校学生募集及び入校者選抜の実施方法について
	報告事項３	令和５年度新渡戸カレッジ修了式（９月修了）及び入校式（秋入校）について
	報告事項４	令和６年度新渡戸カレッジ授業科目の協力依頼について
	報告事項５	諸規程の一部改正について
第３回(持ち回り) 令和５年９月 14-21 日	議題	新渡戸カレッジ諸規程の一部改正について
第３回(ZOOM 会議) 令和６年２月 28 日(水)	議題１	令和５年度　基礎プログラム大学院教育コースの修了判定（３月修了）について
	議題２	令和５年度　オナーズプログラム大学院教育コースの修了判定（３月修了）について
	議題３	新渡戸カレッジ諸規程の改廃について
	議題４	令和６年度　新渡戸カレッジ開講大学院授業科目について
	議題５	令和６年度　春入校学生募集及び入校者選考の実施方法について
	報告事項１	令和５年度　大学院教育コースの秋入校者について
	報告事項２	令和５年度　大学院教育コース（後期）の実施状況について
	報告事項３	令和５年度　新渡戸カレッジ修了式（大学院教育コース　３月修了）及び令和６年度新渡戸カレッジ入校式（オナーズプログラム大学院カリキュラム　春入校）について
	報告事項４	令和６年度　新渡戸カレッジ開講大学院授業科目担当教員について
	報告事項５	令和６年度新渡戸カレッジ行事予定について

（４）広報・システム専門委員会議題等一覧

開催年月日	議　　題　　等	
第１回(ZOOM 会議) 令和５年５月 30 日(火) (拡大委員会)	議題	新渡戸カレッジロゴマークの募集について
	その他	各部会報告
第２回(持ち回り) 令和５年 11 月 9-16 日	議題	新渡戸カレッジロゴマークについて

（５）奨学金支援専門委員会議題等一覧

開催年月日	議　　題　　等	
第１回(持ち回り) 令和５年９月 14-21 日	議題	北海道大学新渡戸カレッジ運営会議奨学金支援専門委員会内規の一部改正について
第２回(持ち回り) 令和６年２月１-８日	議題１	北海道大学フロンティア基金新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院教育コース奨学金実施要項の一部改正について
	議題２	北海道大学フロンティア基金新渡戸カレッジ（海外留学）奨学金実施要項の一部改正について
	報告事項	令和５年度北海道大学フロンティア基金各種奨学金の給付状況について

（６）評価委員会議題等一覧

開催年月日	議　　題　　等	
第１回(ZOOM 会議) 令和５年７月 24 日(金)	協議事項１	令和４年度新渡戸カレッジ修了生等アンケート結果報告書(案)について
第２回(ZOOM 会議) 令和６年３月 15 日(金)	協議事項１ 協議事項２	令和５年度 新渡戸カレッジ評価報告書について 令和６－７年度の新渡戸カレッジ評価委員会について

（７）執行部会協議事項等一覧

開催年月日	議　　題　　等	
第１回 令和５年４月７日(金)	協議事項１ 協議事項２ 報告事項１ 報告事項２ 報告事項３ 報告事項４	令和５年度新渡戸カレッジ運営体制について 新渡戸カレッジ 2022 年度活動報告書（検討案）について 令和５年度第１回新渡戸カレッジフェロー交流・研究会について 令和５年度新渡戸カレッジ入校式について 令和５年度新渡戸カレッジ会議・行事等予定について 令和４年度新渡戸カレッジ各種会議審議事項等について
令和５年５月９日(火)	中止	
令和５年６月２日(金)	中止	
第２回 令和５年７月７日(金)	協議事項１ 報告事項１ 報告事項２	令和５年度 第１回 評価委員会について 令和５年度新渡戸カレッジの予算配分について 令和４年度フロンティア基金（新渡戸カレッジ支援）寄付状況について
令和５年８月４日(金)	中止	
第３回 令和５年９月１日(金)	協議事項１	令和５年度第２回運営会議・意見交換会の議題等について
令和５年 10 月６日(金)	中止	
令和５年 11 月 17 日(金)	中止	
令和５年 12 月１日(金)	中止	
第４回 令和６年１月 11 日(木)	協議事項１ 協議事項２ 協議事項３ 協議事項４ その他１ その他２	令和６年度 招へい教員（客員教授）候補者の推薦について 令和６年度 高等教育推進機構（新渡戸カレッジ教育研究部）兼務教員候補者の推薦について 新渡戸カレッジ表彰について 令和６年度 新渡戸カレッジ諸会議開催予定(案)について 令和５年度新渡戸カレッジフェロー交流・研究会（振り返り会）について 北海道大学新渡戸カレッジ規程等（改正後）について
第５回 令和６年２月２日(金)	協議事項１ 協議事項２ 報告事項１	令和５年度 新渡戸カレッジ評価報告書（案）について 内規、要項等の改廃について 令和６年度新渡戸カレッジ運営体制について
第６回 令和６年２月 28 日(水)	協議事項１	令和５年度第３回運営会議・意見交換会の議題等について

（８）今後の新渡戸カレッジの運営に関するワーキンググループ検討事項等一覧

開催年月日	議　　題　　等	
第１回 令和３年 11 月 25 日(木)	検討事項 報告事項	今後の新渡戸カレッジの運営について 令和３年度第４回ＨＵＣＩ統括室会議の開催について
第２回 令和３年 12 月９日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第３回 令和３年 12 月 23 日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第４回 令和４年１月 13 日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第５回 令和４年１月 27 日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について

開催年月日	議　　題　　等	
第６回 令和４年２月９日(水)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第７回 令和４年３月 10 日(木)	検討事項１ 検討事項２	今後の新渡戸カレッジの運営について (1) 今後の予算計画について (2) 令和６年度以降の教育課程について 令和４年度のＷＧ開催日程について
第８回 令和４年４月７日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第９回 令和４年５月 19 日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第 10 回 令和４年６月２日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第 11 回 令和４年６月 16 日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第 12 回 令和４年６月 30 日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第 13 回 令和４年７月 14 日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第 14 回 令和４年７月 28 日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第 15 回 令和４年８月 18 日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第 16 回 令和４年９月１日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第 17 回 令和４年９月 20 日(火)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第 18 回 令和４年９月 29 日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第 19 回 令和４年 10 月 13 日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第 20 回 令和４年 10 月 27 日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第 21 回 令和４年 11 月 10 日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第 22 回 令和４年 11 月 24 日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第 23 回 令和４年 12 月８日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第 24 回 令和４年 12 月 22 日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第 25 回 令和５年１月 12 日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第 26 回 令和５年１月 26 日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第 27 回 令和５年２月 22 日(水)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第 28 回 令和５年３月９日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第 29 回 令和５年４月５日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第 30 回 令和５年５月 11 日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について (1)令和６年度以降の海外留学について

開催年月日	議　　題　　等	
第 31 回 令和５年５月 25 日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について (1)令和６年度における２年次入校(特別措置)について (2)新渡戸カレッジパンフレットについて (3)運営会議及び意見交換会における意見への対応等について
第 32 回 令和５年６月８日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について (1)令和６年度以降の留学支援英語等について (2)パンフレット及びホームページ用「校長メッセージ」について (3)運営会議及び意見交換会における意見への対応等について
第 33 回 令和５年６月 22 日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第 34 回 令和５年７月 13 日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第 35 回 令和５年７月 27 日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について (1)学部カリキュラム［海外留学］（案）について (2)日英名称一覧（案）について (3)組織図（検討案）について
第 36 回 令和５年８月 31 日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第 37 回 令和５年９月 14 日(火)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について
第 38 回 令和５年 10 月５日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について (1)令和６年度以降の新渡戸カレッジ組織の検討について (2)新渡戸カレッジ各種要項等の一部改正の検討について
第 39 回 令和５年 11 月２日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について (1)令和６年度以降の新渡戸カレッジ組織の検討について (2)新渡戸カレッジ各種要項等の一部改正の検討について (3)令和６年度以降のポートフォリオについて (4)令和６年度以降のホームページについて
第 40 回 令和５年 11 月９日(木)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について (1)令和６年度以降のポートフォリオについて (2)令和６年度以降のホームページについて
第 41 回 令和５年 11 月 24 日(金)	検討事項	今後の新渡戸カレッジの運営について

１４　新渡戸カレッジ 広報資料一覧

【学部教育コース】
〈広報資料〉
1）新渡戸カレッジパンフレット
2）新渡戸カレッジ企業用パンフレット
3）新渡戸カレッジ生募集用チラシ
4）新渡戸カレッジ同窓ネットワーク誌「ACROSS」

〈報告書〉
1) 2022 年度 新渡戸カレッジ活動報告書
2）リサーチインターン報告書 2018 年 2-3 月 沖縄科学技術大学院大学（OIST）
3）リサーチインターン報告書 2017 年 2-3 月 沖縄科学技術大学院大学（OIST）
4) Reports of Reserch Intern,Feb.-Mar.2017 OIST
5）リサーチインターン報告書 2016 年 2-3 月 沖縄科学技術大学院大学（OIST）
6) Reports of Reserch Intern,Feb.-Mar.2016 OIST
7) 2016 年度国際 FD ワークショップ
8) 2015 年度国際 FD ワークショップ
9) 2014 年度国際 FD ワークショップ
10）国際 FD ワークショップの資料はこちら（北海道学術成果コレクション）
11) 2016 年度ボランティア一日体験実習報告書
12) 2016 年度ボランティア報告書
13) 2015 年度ボランティア報告書
14) 2014 年度 ボランティア報告書

〈その他〉
1）「新渡戸カレッジ」の設立について
　※ 出典: 『北海道大学　高等教育推進機構ニュースレター　No.93』
2）多田フェローゼミの記録（2019 年度）

〈参考図書〉
1）グローバルリーダーを育てる北海道大学の挑戦 II（玉城 英彦/帰山 雅秀/弛 和順（編著））
2）新渡戸稲造 日本初の国際連盟職員（玉城　英彦著）
3）グローバルリーダーを育てる北海道大学の挑戦（玉城 英彦/帰山 雅秀/弛　和順（編著））
4）新渡戸稲造に学ぶ　武士道・国際人・グローバル化（弛 和順・佐々木 啓（編著）、ミシェル・ラフェイ、権 錫永、山本 博文、トレント・マクシ、白木沢 旭児、日野 峰子）

【大学院教育コース】
〈広報資料〉
1）パンフレット
2）ポスター
3）フライヤー

Hokkaido University
Nitobe College

〒060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目
北海道大学学務部教育推進課
新渡戸カレッジ推進事務室 新渡戸カレッジ担当
URL:https//nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp
Email:nitobe-college@academic.hokudai.ac.jp

2024 年6月発行